



# 島根県立大学短期大学部 松江キャンパス研究紀要

## 第 50 号

### 目 次

(研究論文)

資料によるヤバイの使用状況についての考察 .....	高 橋 純 ... 1
多読教育の発展的試み .....	竹 森 徹 士 ... 9 小 玉 容 子 ラング クリス
『リア王』における「怒り」について .....	松 浦 雄 二 ...19
松江藩松平直政時代の鷹書と鷹匠 .....	三 保 サト子 ...31 - 宮内庁書陵部所蔵の鷹書・鷹詞の研究 - 三 保 忠 夫
古往来から見た武家の教養 .....	三 保 サト子 ...43 - 書を学ぶ・書で学ぶ -
保育者養成における「教職実践演習」の取り組み(1) .....	小 山 優 子 ...53 栗 谷 とし子 白 川 浩
しまね子育て支援専門職カンファレンスにおける研修ニーズ調査の分析 .....	山 下 由紀恵 ...63 三 島 みどり 名和田 清 子
1型糖尿病発症後の病態に必須脂肪酸比率が与える影響について .....	籠 橋 有紀子 ...75 大 谷 浩

(研究ノート)

意識と心的機能の関係について .....	河 原 修 一 ... 1
----------------------	---------------

2012

---

## Contents

### (Articles)

The Use of Yabai in Mangas .....	Jun TAKAHASHI	1
Project to Improve English Education .....	Tetsushi TAKEMORI	9
through Extensive Reading Methods and Materials	Yoko KODAMA Kriss LANGE	
On the Anger in King Lear .....	Yuji MATSUURA	19
On Falconry Books and Falconry in the time of Feudal Lord Naomasa .....	Satoko MIHO	31
Matsudaira of Matsue Han - A Study on Falconer's Terminology and Falconry Books Owned by Imperial Household Library -	Tadao MIHO	
Knowledge and skill of the samurai class in Koorai .....	Satoko MIHO	43
Seminar on Teaching Practice for Kindergarten .....	Yuko KOYAMA	53
and Nursery Teachers in Junior College(1)	Toshiko KURITANI Hiroshi SHIRAKAWA	
Analysis of the training needs in Shimane professional conference .....	Yukie YAMASHITA	63
participants for supporting child and family development	Midori MISHIMA Kiyoko NAWATA	
The dietary ratio of n-6/n-3 essential fatty acid is important for the inhibition .....	Yukiko KAGOHASHI	75
of pathogenic progress after the onset of overt diabetes in NOD mice.	Hiroki OTANI	

---

### (Research Notes)

Relation between Consciousness and Mental Function .....	Shuichi KAWAHARA	1
--	------------------	---

---

# 島根県立大学短期大学部松江キャンパス研究紀要

第 50 号

---

## 目 次

(研究論文)

資料によるヤバイの使用状況についての考察 .....	高 橋 純 ... 1
多読教育の発展的試み .....	竹 森 徹 士 ... 9 小 玉 容 子 ラング クリス
『リア王』における「怒り」について .....	松 浦 雄 二 ...19
松江藩松平直政時代の鷹書と鷹匠 .....	三 保 サト子 ...31 - 宮内庁書陵部所蔵の鷹書・鷹詞の研究 - 三 保 忠 夫
古往来から見た武家の教養 .....	三 保 サト子 ...43 - 書を学ぶ・書で学ぶ -
保育者養成における「教職実践演習」の取り組み(1) .....	小 山 優 子 ...53 栗 谷 とし子 白 川 浩
しまね子育て支援専門職カンファレンスにおける研修ニーズ調査の分析 .....	山 下 由紀恵 ...63 三 島 みどり 名和田 清 子
1型糖尿病発症後の病態に必須脂肪酸比率が与える影響について .....	籠 橋 有紀子 ...75 大 谷 浩

---

(研究ノート)

意識と心的機能の関係について .....	河 原 修 一 ... 1
----------------------	---------------

---

## 資料によるヤバイの使用状況についての考察<sup>†)</sup>

高橋 純  
(総合文化学科)

The Use of *Yabai* in Mangas

Jun TAKAHASHI

キーワード：ヤバイ、感動詞、マンガ、計量的、口語的  
*yabai*, interjection, manga, quantitative, colloquial

### 0. はじめに

ヤバイは、若者語や新興台頭表現<sup>1)</sup>として、その使用法が話題となり、取り上げられてきた。語の使用範囲としては、隠語から一般者の使用、さらにその使用者数の拡大。意味の面では、法的・社会的にマイナスのイメージの事柄を表現していたものがプラスの事柄にまで拡大されて使用されるようになってきたことなど、話題も多く、盛んに解釈が行われてきた。

しかし、このヤバイという語は、一時的に若者の間で使用され、そして流行とともに使用されなくなっていくとの見解に立っていたためか、実際の使用を調査し、分析を行うような研究は、管見では、行われていないように思われる。

そこで、本稿は、マンガを使用して、ヤバイの実際の用例を収集し、どのような使用が行われているのかを考察することを目的とした。収集に関して、使用するマンガは70年代の作品から2000年代の作品まで広く使用することを心がけ、時代的な変化も考慮した。

### 1. 資料について

資料として使用したマンガのリストを以下に示す：

- 手塚治虫『ブラック・ジャック』秋田書店、1-17巻(1993-2003年)(単行本発行1973-1978年)[BJ]  
大和和紀『はいからさんが通る』講談社、1-8巻(1975-1977年)[はいから]  
吉田まゆみ『アイドルを探せ』講談社、1-10巻、番外編(1984-1988年)[アイドル]  
佐々木倫子『動物のお医者さん』白泉社、1-12巻(1984-1994年)[動物]  
鳥山明『DRAGON BALL 完全版』集英社、1-34巻(2002-2004年)(単行本発行1985-1995年)[DB]  
浦沢直樹『YAWARA!』小学館、1-5巻(1987-1988年)[ヤワラ]  
神尾葉子『花より男子』集英社、1-28巻、31-37巻(1992-2006年)[花男]  
柴門ふみ『あすなる白書』小学館、1-3巻(1992年)[あすなる]

青山剛昌『名探偵コナン』小学館，1-67巻  
(1994-2009年) [コナン]

矢沢あい『Paradise Kiss』祥伝社，1-5巻  
(2000-2003年) [パラキス]

中原アヤ『ラブ コン』集英社，1-16巻  
(2002-2007年) [ラブコン]

中村光『聖 おにいさん』講談社，1-5巻  
(2008-2010年) [おにいさん]

( [ ] は略称。以下論文内では、マンガ名は略称を用いる。)

資料として、マンガを選択した理由は、ヤバイが口語においてよく用いられているという日常的な観察から、会話文を使用しているマンガは、ヤバイの口語的特徴を維持しながら使用されているのではないだろうかという推測にもとづいたものである。また、語の収集のしやすさという便宜的な面で文字資料であるということも考慮された。

しかし、マンガは一人の作者が作り上げたフィクションであるかぎり、そのマンガ内で使用された言語は、作者個人のことばであり、社会全体を捉えたものではないという批判もあると思われる。しかし、作品は読者に受け入れられるために、現実社会を模したことばが使用されていると考えられる。そして、作品にはさまざまな登場人物があり、その人物の属性に適した言葉遣いが適用され、リアリティーを表現しているという前提のもとに考察を進めていく。

では、上記の12種類のマンガは、どのような特徴を持っているのか、資料について検討を行う。

まず、読者としてどの性別をターゲットとしているかということを見ると、  
が男性向けの雑誌に掲載されたもので、  
が女性向けの雑誌に掲載されたものである。数としては6種類ずつで均等になっているが、ページ数で計算すると男性向けが27,462ページで女性向けが16,032ページであり、男性向けの方が1.7倍ほど多い。対象年齢については、  
が少年誌、  
が青年誌<sup>2)</sup>と呼ばれる少し年齢層が上の読者をターゲットとした雑誌に掲載されたものである。少年誌が多めである。そして、作者の年齢構成は表1のと

おりである。

【表1】作者の年齢構成

作 者	生まれ年
手塚 治 虫	1928年
大 和 和 紀	1948年
吉 田 まゆみ	1954年
鳥 山 明	1955年
柴 門 ふ み	1957年
浦 沢 直 樹	1960年
佐々木 倫 子	1961年
青 山 剛 昌	1963年
神 尾 葉 子	1966年
矢 沢 あ い	1967年
中 原 ア ヤ	1973年
中 村 光	1984年

本来ならば、更に詳しく資料について検討すべきではあるが、実際の分析の際に、その都度、作品の性格なども交えながら、考察を進めていくつもりである。

## 2. 集計結果の分析

この節では、上記資料を用いて、ヤバイがどのように使用されているのかということ、数字を使用して表していく。ただし、ここで用いる数字は、統計的な数字ではない。その理由として、資料の性質が、均一性に欠けていることがあげられる。統計的に処理するには、更に資料の性質を絞る必要があると思われる。研究の性質上、年代やジャンルを均等にする努力はしたが、年代ごとに各ジャンルをそろえることは、時間の都合等でまだできていない。今後は、一つの作品で時代ごとの変化を追ってみたいと思っている。このような理由により、数字は、その傾向をしめしているに過ぎず、統計的な意義付けをすることができないことを、ここに付け加えさせてもらう。

本稿で扱うヤバイについての項目であるが、ヤバイを作品内で使用した人物の「性別」「年齢層」と、そのヤバイを含んだ文が誰に向かって発せられたの

かを対象とする。そして、ヤバイという語に対する項目として、ヤバイの「活用形」、その活用形に後接する要素に着目した。更に、ヤバイが文内でどのような位置に置かれているのか、表記はひらがなかカタカナなども見ていく。

### 2.1 マンガ別出現率

まず全体としてどのような傾向で、ヤバイが使用されているのかということを書き記す。

【表2】マンガ別出現

作品	出現数	調査ページ数	出現割合 出現数/ページ
B J	5	5193	0.096%
はいから	0	1601	0.000%
アイドル	15	2265	0.662%
動物	2	2311	0.087%
D B	67	7556	0.887%
ヤワラ	1	1070	0.093%
花男	33	6211	0.531%
あすなる	3	684	0.439%
コナン	13	12300	0.106%
パラキス	11	886	1.242%
ラブコン	15	2758	0.544%
おにいさん	10	659	1.517%
合計	175	43494	0.402%

出現割合は、全体で1000ページ読んで4回ヤバイに遭遇する程度である。調査資料での1巻あたりの平均ページは207ページであるので、1冊読んで、1回ヤバイが出現するかという量である。思いの外、出現数は、少なかった。マンガが会話を文を使用するからと言って、むやみにヤバイを使用しているわけではないことが見て取れる。ちなみに、この175例中、プラス用法とされるものは、2例のみであった。

### 2.2 使用者の属性

この節では、作中人物内の使用者の属性を見ていく。まず、男女差では、男119例、女53例、不明3

例である。男性の使用が女性の使用に比べて2倍以上となっている。一見、男性の使用が多くなっているが、これは先にも触れたが、男性向けマンガのページ数も多く、男性向け・女性向けともにターゲットとなる性別の主人公が多いという点に関係している可能性が大きい。ただし、ページ比率は1.7倍であるのに対して、性別の使用比率は2.2倍と少し多めであるため、若干男性の使用の方が多し可能性も考えられる。

ちなみに、不明とは、作品内の状況を説明している部分やサブタイトルのような部分である。

- (1) 羽をだらりとさげて ぐったり底にうずくまる鳥 何度も鳥の臨終場面に遭遇している祖母は一目で これはヤバイとわかった
- (2) ヤバい口マンチックもいいさ・・・

年齢層を分けると表3のようになる：

【表3】年齢層

年齢層	出現数
子供	19
高校生	62
青年	77
壮年	8
老年	5
不明	4

まず、表3の年齢層は、「子供」「高校生」「青年」「壮年」「老年」「不明」に分類した。各分類の説明としては、以下のとおりである：

- 子供：幼児から中学生くらいの登場人物
- 高校生：高校に通っている登場人物<sup>3)</sup>
- 青年：大学生から20代くらいの登場人物
- 壮年：30代～50代
- 老年：60代以上
- 不明：説明や解説の部分で、マンガ内の透明な語り手が語っている部分

分類に際しては、作品中で明確にわかるものは、その設定に従ったが、わからないものについては、絵の印象やその設定上の役割から適切と思われる年

年齢層を判断して分類した。ちなみに、「高校生」という項目を設けたのは、高校を舞台としている作品が多く、特に高校生が多く現れるので、特別に一項目設ける方が分析しやすいと考えたからである。

表3を見ると使用者としては、高校生や青年層が多い。しかし、先にも言及したとおり、少年(少女)マンガが多いためか高校生が主人公である作品も多い点に注意しなければならないだろう。

ちなみに、属性の中で職業なども気になる場所であろうが、資料として使用した作品の性格にもよるが、明らかに違法な組織や不良グループといった人物が使用している例は、B」内の4例のみ<sup>4)</sup>である。

### 2.3 ヤバイの形態

ここでは、どのような形態でヤバイが使用されているのかを見ていくことにする。形態とは、活用形やヤバイに後接する形態素がどのようなものを表す。次の表4は、ヤバイの出現を活用形別にまとめたものである。

【表4】活用形

活用形	出現数
未然	0
連用	10
終止	116
連体	27
仮定	0
命令	-
語幹	22

活用形別で見ると、終止形が圧倒的に多い。品詞としては、形容詞であるが、連体形としての使用はそう多くなく、語幹だけで用いられているものと大差がない。では、その各活用形ごとに、どのような形態素が後接しているのかを表5に表す。

終止形で使用されているものでは、そのまま何も接続しない形式( )で使用されているものが一番多く、次に終助詞が後接する形式である。各々の例文を(3)と(4)に示す。また(5)には、丁寧表現が後接した例だが、かなり口語的な「-す」という形が共起した例である。

- (3) やばい!! やつがきたぞっ!!
- (4) あにき!! やばいぞ!!
- (5) とりあえずここをはなれましょうよ  
や・・・やばいすよ・・・

ヤバイは形容詞であるが、先に見たように連体形はあまり多くなく、かつ連体形でも形式名詞に接続する例の方が多い。(6)が形式名詞に接続した例であり、(7)が普通名詞に接続した例である。

- (6) いそいでここをはなれないと やばいことになるかもしれないんだ!!
- (7) あいつヤバイ商売してるってさ

後接している普通名詞としては、(7)の他に、「独裁者」「賭」「菌」「やつ」「あいて」「とこ(所)」「音」「人」「ロマンチック」などがあつた。

【表5】活用形別後接要素<sup>5)</sup>

	後接要素	個数		後接要素	個数		後接要素	個数		後接要素	個数
	終止形			60	連体形		形式名詞	17		連用形	+なる
引用		8	名詞	10		夕形	2	+すぎる	1		
終助詞		39				テ形	2	+そう	9		
助動詞		1						+気味	1		
接続助詞		2									
丁寧表現		4									
副助詞		2									
計		116	計	27		計	10	計	22		

連用形接続では、夕形は2例であり、過去を表現する使用は少なかった。使用の多くは、「やばくなる」というように動詞「なる」と接続している形である。

語幹の用法としては、その後接する形式が、本来、語幹と接続するものである場合もあるが、語幹だけを用いて、そのまま言い切りになる形も多く用いられている。

(8) ヤバ・・・かわいいじゃねーか！

ヤバイの/aɪ/を/e/に置き換えたヤベエという形態についても言及しておく。この形は、終止形・連体形として表れる。その出現数は、33例である。詳細を表6に示す。

【表6】縮約形内訳

活用形	計	後接要素		
			終助詞	助動詞
終止形	31	21	9	1
連体形	2	-	-	-

ここでの連体形で、接続している要素は、2例とも普通名詞で「やつ(人を表す)」と「賭」であり、ヤベエの形が接続するのは、名詞の種類と関係するというよりも、話し手のスタイルであろう。

#### 2.4 ヤバイの使用形式

ここでは、ヤバイが文内においてどのような要素として用いられているのか、また文内のどの位置に表れているのかを見ていく。更に表記法についても言及する。

まず、文内のどのような要素として出現しているのかを見ることにする。文内の要素として、本稿では、述語成分・名詞成分・独立成分の3つに分類した。

述語成分とは、形容詞の述語用法として使用されているものと、(11)のように連体形であっても「のだ」などの文末詞に接続して文の締めくくりとして使用されている用法、また(12)のような「なる」などの動詞に接続し述部を構成しているものも含めた。(14)は、

副文の述部<sup>6)</sup>を構成している例である。以下のようなものを述語成分とした：

- (9) けど そ そんなことをすると 警察にもし発見されたらヤバイですぜ
- (10) ベ・・・勉強もわかるが3年後には地球そのものが やばくなるかもしねえんだ・・・
- (11) ねえねえ 鼻からケムリ出すのはヤバイんじゃない？
- (12) でも優紀ちゃんの家がヤバくなるよ？
- (13) 家の前に車つけちゃうとヤバイし・・・
- (14) やばくてもやくざでも鬼でも熊でもあたしは行く

名詞成分は、形容詞の連体用法で、かつ文内で動詞の補語となっている名詞句を構成しているものを分類した。(16)は、「そうだ」が活用して「ふんいき」を連体修飾をしている例ではあるが、このような場合も名詞成分に分類した。

- (15) かなりヤバイ菌じゃないか？
- (16) 町にやばそうなふんいきが漂ってきた
- (17) やばいのは18号さんだけだぜ

独立成分とは、ヤバイのみもしくは、ヤバイと終助詞だけで構成された一語文のように用いられているものとした。ただし、(19)のように表記上句点で区切られていないものも含んでいる。「ヤバすぎる」のような例は、述語成分とした。これは、「のだ」などの文末詞に接続したものを述語成分としたことに準じた。

- (18) やばい!! アクマイト光線じゃ!! やつは本気で悟空を殺すつもりじゃ!!
- (19) やべ・・・今も小学生だった・・・

以上のように分類すると、以下のように集計された：

- 述語成分 65
- 名詞成分 19
- 独立成分 91

上記の集計からすると、ヤバイは独立成分として



用いられていることが多いということである。これは、直感的であっても、通常の形容詞の用法とは大きく異なる部分であろう。ちなみに、独立成分としての用いられ方としては、以下の表7ようにまとめられる：

【表7】独立成分の内訳

活用		後続要素	例		
終止形	80	終助詞	56	-	
			24	ぞ	7
				ぜ	2
				な	4
				ね	3
				よ	5
				よな	1
				わね	1
わよ	1				
語幹	11	11	-		

この数字から読み取れることは、(20)(21)のような例が頻出していることが読み取れる。

- (20) やっやばい!!
- (21) やば 隠れて

そして、このような独立成分として表れるヤバイの内71例が、ヤバイが文頭に現れ、その後にヤバイ内容を表す具体的な内容を語っている文が置かれている例である。前出の(3)(8)(18)(19)(21)などと以下の(22)(23)がその例である。

- (22) ヤバイなあ～ クルマこわしちゃった…………
- (23) やべえずっと外かよまだ寒いぞ

### 2.5 ヤバイの表現方法

ここでは、表記法（ひらがな・カタカナ）やエクスクラメーション・マーク（!）が付いているかどうか。また、発音の表記などがどのようになっているかを見ていく。

まず、ひらがな・カタカナの別では、ひらがなが、121例で、カタカナが、54例であった。<sup>7)</sup> この表記法も通常の形容詞の用いられ方と大きく異なってい

る。そして、エクスクラメーション・マーク「!」がヤバイを含む文に対して付されている例が59例あった。

更に、特徴的な表現方法としては、その発音の仕方を音として忠実に表現しよう工夫が凝らされていることが多かった。例えば、長い長音記号や長い波線、語末に促音「っ」を入れる表記など、様々な表現法が行われていた。

- (24) やっ・・・やっぱ~~~~い!!!
- (25) やばいっ!!!!

音声的な面で見ると、(24)のようなとぎれ型・語頭戻り方式<sup>8)</sup>の例も20例あり、「やっぱ」のような語中に促音を入れてインテンシティーを表現している例も4例あった。

そして、ヤバイが誰に対して発言されているかということに着目してみると、対人的な対話で使用されている例は、91例で、独り言や心内語として使用されていた例は、84例（独り言39例、心内語45例）であった。ヤバイの使用される場面では、約半数が発話者の独り言か心内語であった。

### 2.6 分析のまとめ

以上見てきたようにヤバイはマンガ作品内において、終止形での使用が多く、かつ独立成分として用いられていることが多かった。そして、一続きの内容を表現する際に、文頭に現れる傾向を示していて、エクスクラメーション・マークの使用、カタカナで表記するなどの特徴が見て取れた。

### 3. 感動詞との比較

これまでに見出されたヤバイの使用の特徴は、感動詞に近い用いられ方であろう。そこで一度、感動詞について確認をしておくことにする。

まず、感動詞で最も特徴的な性格は、単独で独立成分となり得る点であろう。これは、さまざまな研究においてある程度の一致を見ているところである。そして、更に、鈴木（1973）によれば、「感動詞」は、単独で表現されると同時に後続文を伴うことが

多い」ということも指摘されている。また、市川(1976: 253)では、以下のように感動詞について記述している：

ああ、今日は本当に楽しかった。

はい、わたしもそう思います。

右の「ああ」「はい」のようにそのままの形で、いつも独立語として用いられるのが感動詞であるが、感動詞は、他の副用語と違って、「ああ。」「はい。」のように、それだけで文として独立しうる表現である。感動詞のもう一つの特色は右の例でもわかるように、そのあとに続く表現の内容を、あらかじめ、「ああ」「はい」などという、未分化の形であらわすばあいが多いということである。

このような記述から、感動詞は、文相当の用い方がされるのと同時に、その後その感動の内容を意味する文が続くことが多いと特徴づけられよう。

次に、森山(1997)によれば、感動詞の機能は、「対他的な機能」(挨拶・呼びかけ・応答詞・いい定みに関するもの)と「対他的でない機能」(情動的感動詞・掛け声)の2つに分けられる。確かに、どのような語や文であろうと、独り言として相手を想定しない発話はあるだろう。しかし、本来的に相手を必要としない用い方が機能として存在しているのは特徴の一つと言える。

整理すると感動詞は、独立要素として用いられ、その後具体的な内容を表現する文を伴う傾向がある。対他的でない機能が存在する。これら3つをまとめることができるだろう。

ここで再度、ヤバイの用いられ方を確認すると、ヤバイの用いられ方で多かったものは、終止形での使用が多く、かつ独立成分として用いられ、一続きの内容を表現する際に、文頭に現れる傾向があり、また、ヤバイに続いてヤバイ内容が示される傾向があった。(26・27・28) 独り言や心内語として用いられていることが多い。

㉞ やっやばいっ!! このままじゃぶっころされ

る!!

㉟ ヤバイぞ 中に血腫だ 穿刺しとこう

㊱ おっ やべ もう6時じゃん 今日タイムリ ミット10時なんだよ

このように見ていくと、ヤバイは、形容詞として活用形をもった実質的な意味のある語ではあるが、使用としては、感動詞と非常に似ていることがわかる。また、カタカナで表記されたり、「!」などが多く付されていることなども感動詞的に用いられている傍証になるだろう。つまり、ヤバイは、意味としては、今まで行われていたとおり「自分にとって不都合な状態」を表現しながら、機能としては、感動詞的な役割をしていることが見て取れた。

#### 4. まとめ

ヤバイは、使用と意味の拡大により、解釈が多くなされてきたが、実際の例文調査をともなったものはなかった。そこで、本稿では、マンガを用いてヤバイの例を採取してその結果を分析した。

その結果、ヤバイは、述語的な用法や連体用法よりも、多く感動詞と似た使用が行われていたことがわかった。

矢沢(2005)では、プラス用法としてのヤバイの説明として、「「やっべ、これ、うめー」「うんめ、ちょっとやべーよ、これ」のように、感動詞的な用法が中心」であるとしているが、本調査をすることで、プラス用法に限らず、ヤバイの用法としては、感動詞的な使用が多く行われていたと言える。つまり、プラス用法に限定して特徴とするより、ヤバイの使用そのものの特徴として、感動詞的な使用が多く行われていたのだ。

研究者は一般的にヤバイの品詞や語源に忠実に分析を行いやすく、辞書の例などには、連体用法が記されている。しかし、ここで見たように、実際ヤバイが用いられる典型例として感動詞的な使用が多かったということが示されたことは、大きな成果であったと思われる。

注

- 十) 本研究は、2011年度の島根県立大学短期大学部松江キャンパス学術教育研究特別助成金のもとに行われたものである。
- 1) 新興台頭表現とは、塩田 (2003) で用いられている表現である。
- 2) 少年誌には、少女雑誌も含み、青年誌にはレディースコミック誌と呼ばれる女性向け雑誌も含む。
- 3) DBで悟空は成長していくが、背が伸びた後はすべて青年で統一をした。
- 4) B J内では、全部で5例が採取された。残り、1例は、ブラック・ジャック本人が手術中に使用している「ヤバイぞ 中に血腫だ 穿刺しとこう」という例である。
- 5) 表の中の「+」は、その後の語が実際に要素として接続することを意味する。
- 6) 副文の述部とは、おかしな表現ではあるが、煩雑さを避けるために使用した。主に副詞句を構成する副文内の中心となる動詞句部分のことを表す。
- 7) 語尾がひらがな「ヤバイ」のような表記は、カタカナに加えた。
- 8) 定延 (2005) の用語を用いた。

参考文献

- 秋月高太郎 (2005) 『ありえない日本語』 ちくま書房
- 市川孝 (1976) 「6 副用語」『岩波講座 日本語 6 文法』 岩波書店
- 岩松研吉郎 (2005) 『日本語の化学変化』 日本文芸社 (『日本語の化学』(ぶんか社、2001年)を加筆・再構成したもの)
- 尾上圭介 (1986) 「感嘆文と希求・命令文・述体概念の有効性」『国語研究論集：松村明教授古稀記念』 明治書院、 pp.555-582
- 北澤尚 (1988) 「感動詞とは何だろうか：叙法についての一考察」『東横国文学』 20. pp.142-124. (横書き)
- 北原保雄 (1976) 「陳述副詞と接続詞と感動詞と：その構文論的位置付けについて」『文学語学』 74. pp.24-38.

- 定延利之 (2005) 『ささやく恋人、りきむレポーター：口の中の文化』 岩波書店
- 塩田雄大 (2003) 「「新興台頭表現」の属性差とメディア：ってというか、やばくない?：「近年の言語変化」全国調査から(1)」『放送研究と調査』 53-4., pp.12-33.
- 森山卓郎 (1997) 「情動的感動詞考」『語文 (大阪大学国語国文学会)』 65, pp.51-62.
- 矢沢真人 (2005) 「やばいよ、この味」北原保雄編著 『続弾! 問題な日本語』 大修館書店、pp.96-99.
- Sano, Shinichiro (2005) "On the Positive Meaning of the Adjective Yabai in Japanese." *SOPHIA LINGUISTICA* 53, pp.109-130.

## 多読教育の発展的試み

竹 森 徹 士    小 玉 容 子    ラング クリス  
(総合文化学科)

Project to Improve English Education through Extensive Reading Methods and Materials

Tetsushi TAKEMORI, Yoko KODAMA, Kriss LANGE

キーワード：多読 Extensive Reading 英語教育 English Education

### 1. はじめに

筆者らが2009年度より本学で試みている多読教育は、今年度で3年目を迎えることになる。これまでの主な取り組みに、図書の整備、課外活動である「多読クラブ」、部分的な多読教育の授業への導入があり、<sup>1)</sup> それらの活動は今年度も継続しているところである。図書の選定、購入は随時行っており、多読用教材はかなり充実してきた。昨年度は、本学図書館に多読図書用のコーナーが設けられ、シリーズ別、レベル別に図書が配置され、併せて多読関連の参考書なども揃えられている。「多読クラブ」の活動も定期的に行なった。

また、今年度も、授業への導入として、授業のなかで多読教育を試みた。ラングは、昨年度に引き続き、今年度前期の「ライティング」において多読教育を行なった。小玉は、昨年度後期の「アメリカ文学入門」において、副読本的な扱いでGraded Readersを用い、竹森も昨年度後期の「英米文学を読むB」において副読本としてGraded Readersを用いた。今年度は、文学作品のリトルド版であるGraded Readersをテキストに用いた授業も行なわれた。小玉は、今年度前期の「英米文学を読むC」において、アメリカ文学のリトルド版を用いて授

業を行なった。

今年度はさらに、多読教材の発展的活用として、地域連携活動である一般向けの公開講座において、小玉が「英語で読書：絵本の読み聞かせに挑戦」という、多読用教材を用いた夏期集中の教育講座を試みている。

本稿では、2011年度における多読教育とその発展的試みとして、多読用教材を用いた英語教育活動について、それぞれの実施状況と成果について考察し、今後の課題について整理を行ないたい。

### 2. 図書の整備

Graded Readers、Leveled Readersを中心に購入し、各出版社から出されている主な多読用教材のシリーズを継続して揃えている。主なシリーズとして、Oxford Reading Tree (ORT)、Oxford Bookworms (OBW)、Penguin Readers (PGR)、Macmillan Readers (MMR)、Cambridge English Readers (CER)、Foundations Reading Library (FRL)、Footprint Reading Library (FPR)、I Can Read Books (ICR)、Oxford Wolf Hill、Curious George、Nate the Greatなど人気主人公を据えたシリーズものがある。また、映画をもとにした物語

が多いScholastic ELT Readers (SCE) も揃えた。これらに加えて、「読みやすさレベル」(以下YL)が低い図書を重点的に増やしている。朗読CDが附属するものは、今後の多聴教育を考慮して、CDが附属するものを備えるようにしている。また、これらの図書以外に、イラストが豊富で、コミックのようなレイアウトを用いたCaptain Underpantsシリーズや、*Slum Dunk*、*Nodame Cantabile*、*One Piece*、*Black Jack*など、日本の人気マンガの英訳本を一部揃え、少しでも英語で書かれた物語に親しみを感じられるような環境を整えた。日常的に、気軽に洋書が手に取れる環境にない本学の学生にとっては、こうした図書の整備は必要なことである。2011年度10月現在、本学図書館の多読コーナーには、ほぼ1400冊程度の図書が備えられている。



本学図書館の多読コーナー

### 3. 多読クラブ (2011年度前期)

#### 1) 実施状況

筆者らが担当している授業で募集チラシを配り、自主的な参加者を募った結果、総合文化学科英語文化系1年生10名、日本語文化系1名、計11名の学生から参加申し込みがあった。初回の4月8日にガイダンスを行ない、出席者には、本学所蔵の多読本をもとに作成した「多読読書記録手帳 1st Stage」を配布した。以降、授業期間内に、本学図書館のグループ閲覧室において、週2回(火、金)の定期的な活動を行なった。

これまで、授業終了後の放課後に活動を行っていたこともあったが、開始時間が遅いという学生からの声があったため、授業の空き時間に時間を設定することにした。そこで、当学期の時間割をもとに空き時間を探し、火曜日は午後1時から2時、金曜日は午前9時30分から10時30分に時間を設定し、毎回教員が常駐していた。

初回のガイダンスで、ORTを中心にレベルの低いものから順に読むように指導し、以降は各自の選択に任せて読書を行っていた。実施回数はガイダンスを含めて29回であり、活動終了後に、これまで用いていたものと同内容のアンケートを行ない、11名の学生から回答を得た。活動期間を通しての出席率は36%であった。常に出席する学生がいる一方で、数回の参加でやめてしまう学生、来たり来なかったりする学生がいた。

#### 2) アンケート結果

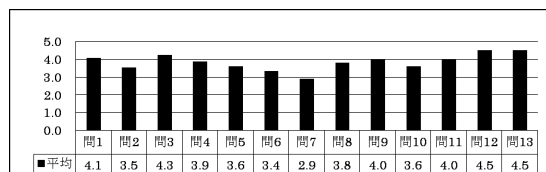
2011年度前期は、英語文化系1年生を対象に「ライティング」(ラング担当)の授業が開講されており、授業の一部に多読が採り入れられていた。今回の「多読クラブ」参加者11名のうち7名は「ライティング」の履修者であり、「ライティング」での読書状況結果を参照したい。

アンケートは、これまでの多読活動で用いたものと同内容の項目から成り、各項目が5段階評価で、5が「とてもそう思う」、4が「まあそう思う」、3が「どちらでもない」、2が「あまりそう思わない」、1が「全くそう思わない」である。また、自由回答欄も設けてある。アンケートの項目は以下のとおりであり、結果は図1のとおりであった。

- 問1 英語の本を読むのに抵抗がなくなった
- 問2 本以外でも(新聞、教科書、問題集など)英語で書かれた文章を読むのに抵抗がなくなった
- 問3 英語を読むスピードが速くなった気がする
- 問4 本を読むのが楽しくなった
- 問5 語彙が増えた気がする
- 問6 リーディングの実力がついた気がする

- 問7 文法力がついた気がする  
 問8 これからも続けていけそう  
 問9 他の人にも多読をすすめたい  
 問10 読書のペースはちょうどよい  
 問11 本の難易度はちょうどよい  
 問12 本の種類が豊富だと思う  
 問13 本数は十分だと思う

図1 「多読クラブ」アンケート結果



最も高い数字を示したのは問12、問13で4.5ポイントである。そして、問3の4.3ポイント、問1の4.1ポイントが続く。以下、問9、問11の4ポイント、問4の3.9ポイントがある。低かった数値として、問7の2.9ポイント、問6の3.4ポイントである。

自由回答では比較的多くのコメントが寄せられた。最も多かったのが、「読みやすくてたのしかった」、「思いのほかとりくみやすかった」、「絵本でよみやすかった」、「読みやすくて面白い本だったから気軽に読めました」といった、素材の読みやすさ、物語の面白さに触れているものだった。「いきなりレベルの高い本を読んでいやな思いをするより、そんなにレベルの高くない本を読んだほうがいい」というコメントもあり、やはり文章の英語レベルに触れたものである。これらに関連して、英語の本を読むことについて、「英語を読むのが苦痛でなくなりました」、「たくさん読めた気がする」、「英語にいっぱい触れることができた」というコメントもあった。「本を読むきっかけをつくることができたのでとても良かった」、「これからも少しずつでも読み続けていきたい」、「時間があればできるだけ本を読むようにしたい」という読書に前向きなコメントも見られた。

また、「同じシリーズなのでPart9とかになると少し飽きました」といった意見、「火曜日は昼から

OFFだったのでなかなか行く気になれなかった」という活動時間に関する意見もあった。

### 3) 考察

今回の「多読クラブ」は、これまでの活動と比べ、出席率が低かった。実施の面で筆者らがこれまで確認してきた「多読クラブ」の課題として、活動日の設定が難しいということがあり、これらの課題を解消すべく検討をしてきたが、十分な対応にまでは至らなかった。2009年度後期実施の「多読クラブ」では、参加者が多く履修している授業の直後に活動時間を設けており、非常に出席率が高かった。だが、時間割の都合から、好都合な設定が常にできるわけではない。こうした点が、授業時間外、あるいは授業の合間を縫って時間を設定する課外活動の難しさである。

アンケート結果について考察したい。問1のポイントの高さが示すように、英語読書への導入という点では、「多読クラブ」の活動は効果があった。自由回答で多かった「読みやすさ」についてのコメントは、絵本という素材や、単純で分かりやすい物語のこともあろうが、問11のポイントの高さと併せて考えてみても、やはり英語で書かれた文章の読みやすさについてのコメントであろう。学生にとっては、まず英語で書いてある文章が読めるかどうか気になるところであり、英語の文章を読むこと自体に対して身構えてしまう面はある。こうした心理的抵抗を取り除くことができることにこそ、やさしい本から始める多読の利点が発揮される。また、多量の英語に触れた、多量の英語を読んだという意識を学生が持てた点は良かった。

ただ同時に気になるのは、読みやすかったかどうかという印象から、さらに進んで、どの程度読書を楽しむ、あるいは読書として楽しむことができたかということだ。そうした点で気になるのが、問4のポイントの低さである。問4のポイントは、今回のアンケートの他項目との比較では高めだが、過去の「多読ゼミ」、「多読クラブ」の活動でのアンケートの同項目のポイント（それぞれ4.5ポイント、4.3ポイント<sup>2)</sup>）と比べると伸びが低い。多読教育では、

読書の楽しさが推進力となって継続的に学習を続けることが期待されており、読書を楽しめたかどうかは重要な点である。回答を個別に見てみると、5ポイント「とてもそう思う」が4人、4ポイント「まあそう思う」が2人、3ポイント「どちらでもない」が5人となっており、楽しいと思った学生と、楽しいとも楽しくないとも思わなかった学生との違いがはっきりしているように思われる。例えば、後述の「ライティング」の授業にも出席して、半期で10万語以上読んだ学生は、この項目に5ポイントをつけている。やはり、読書の楽しさを実感するにはある程度の読書量、継続が必要だろう。もちろん、楽しいから続ける、あるいは、続けていたら楽しくなった、というサイクルのきっかけは人それぞれだろうが、そうしたサイクルに乗りやすい学生、乗りづらい学生の一定の傾向は把握しておくべきである。

また、問6は英語力の伸びを実感できたかどうかに関わる項目だが、これも他の項目に比べて低い。これまでの調査からも、半期の自発的な読書活動での読書量が限られていることは明らかであり、<sup>3)</sup> クローズ・テストなどで英語力の伸びを知ることができるものの、例外的な場合を除いて、劇的な伸びを実感させることには自ずと限界がある。今後、授業内、授業外、いずれにおいてであれ、継続的な多読教育、多読活動を行なうため、多読のメリットを、どのように学生にアピールし、実践すべきか、改めて検討したい。

だが、過去の活動も含め、「多読クラブ」の活動を続けていくなかで、少しずつではあるが多読活動は浸透してきている。新学期になって、今学期の多読はいつからやるんですか、といった問い合わせをする学生が出るようになった。また、今回の「多読クラブ」には参加していないものの、これまでの「多読クラブ」の活動や、授業等で多読を知り、自分なりに多読を続けている学生、卒業生がいる。本学図書館の学生図書委員会の活動の一環である、ポップを使った推薦図書のコナーにGraded Readersの推薦文を書いてくれる学生が出てきた。こうした広がりや、今後の活動の大きな後押しになると思われる。

#### 4. 「ライティング」

英語文化系1年生を対象とした必修の授業で、ライティング担当のクラスでは英語文化系所属の学生のうち17名が出席していた。授業では90分の授業時間の半分の45分間を授業内読書時間として、毎回多読に充てた。第一言語、第二言語の習得において、多読がライティング能力の向上に効果があることを示す報告は多い。<sup>4)</sup> こうした背景をふまえたうえで「ライティング」に多読を導入した。

##### 1) 手順

授業に際しては、初めて多読に取り組む学生のモチベーションを高めることに努めた。多読の意義を十分に学生に説明し、続けて、辞書を使わない、読む本は自分で選ぶ、わからなければ飛ばす、面白くなければ途中でやめても構わない、といった多読の方法を解説した。多読の意義については、Masonの報告および酒井のウェブページを紹介した。<sup>5)</sup> また、本学の多読経験者の声も紹介した。

それぞれの学生に多読記録簿を渡した。酒井のウェブページの感想を、記録簿の最初のページに書いておくよう指示した。記録簿には、毎日30分、100wpmの読書をするという想定で、半期でおよそ20万語読むという目標を記しておいた。成績の20%は読書量に基づいて評価することを学生に伝えた。

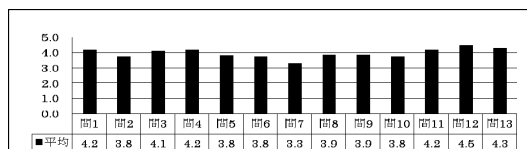
記録簿には二種類の文書を用意した。一方はリストで、記入する内容は、それぞれの本を読んだ日付、YL、読んだ時間、語数、CDを聞いたかどうか、そして三段階の評価を書くものである。もう一方は、日本語による物語の要約と感想、参考になった語句の引用を書くものである。後者は、学生が実際に読んで理解したかどうかを確認できるようにするためであり、また、学生との読書指導の個別面談の際の資料とするためであった。「多読クラブ」に参加している学生もいるため、「多読クラブ」で読んだ本も含めて記入させた。学期末には、多読の感想を把握するために、「多読クラブ」で用いたものと同様の項目から成るアンケートを実施した。

## 2) 読書状況・アンケート結果

ほとんどの学生はORT7まで進み、学期後半ではより高いレベルの本を図書館から借りて読んでいた。もっとも人気が高かったのはORTだが、ICRやPGRを読む学生も若干いた。授業では記録簿を参考に個々の学生との面談も行い、読書指導をした。面談では、読書進度を確認し、学生の好みに合わせて本を薦めたりした。

平均読書語数は約6.0万語だった。10万語以上読んだ学生が2名いた。その一方で、読書量にかなり伸び悩みが見られる学生もいた。また、アンケート結果は、図2のとおりだった。

図2 「ライティング」アンケート結果



最も高い数字を示したのは、問12の4.5ポイントであり、続いて問1、問4、問11が4.2ポイントと続く。低かった数値としては、問7の3.3ポイントである。自由回答としては、「一日に少し読むだけでいいので、気楽に続けられた」、「簡単に読めるので楽しかった」、「読むスピードが速くなった気がする」と多読を楽しんで続けられ、英語力の向上を感じている学生もいる一方で、「だんだん難易度が上がってくると読むことが大変になった」、「自分の実力が上がったかどうかわからない」という不安を感じている意見もあった。

## 3) 考察

昨年度の「ライティング」における多読では20分の授業内読書時間を設け、その結果、平均読書語数は約4.6万語だった。<sup>6)</sup> 今年度の「ライティング」では授業内読書時間を45分に広げたため読書語数は増えた。ただし、約6.0万語の平均読書語数が示すように、比率で考えれば、時間を延長した分の読書語数の伸びはなかった。これは、学生が本を読むたびに要約を書かなければならなかったことが一

因であろうが、読んだ本の要約という作業は、個人指導、成績評価のための資料として必要な措置であった。

アンケートでは、読んだ語数に関係なく、多読を楽しみ、続けたいと感じている学生がいることが分かった。学生に多読を続けてもらえるようにするためには、「自分の実力が上がっているという実感」とともに多読の原則である「楽しみ」を感じられるようにすることが必要だろう。

英語力を高めるためには読書を欠かすことはできず、多読により自律的な読者が育つ。だが、教師による継続的な支援と助言なしでは、学生は多読を続けることが難しい。今回の「ライティング」では、授業内読書時間を延長し、その間に個別指導を行ったため、個々の学生の状況をより把握した指導が可能になった。授業内読書の時間延長は、学生の読書語数増加だけでなく、個別指導の時間の確保の点でも意味があった。

## 5. Graded Readersの活用

英語文化系2年生を対象とした「英米文学を読むC」でMMRの*Moby Dick* (Upper:Level6) をテキストとして使用した。当該の授業では、これまで、短時間で読み切ることができる点、半期で複数の作家の作品に触れられる点などを考慮して、短編をテキストとして用いてきた。しかし、多読用図書の中に文学作品のリトルド版が数多くあり、今年度はそれらの中から主要なアメリカ文学作品を選んでテキストとした。原書では読み切ることが難しい作品でも、リトルド版なら作品を読みきることができ、かつ、代表的なアメリカ作家の長編作品に触れられる。リトルド版を読むことで、文学作品の講読という点で失う部分も多々あるが、日本語にしてい作業を最小限にし、スピード感を保ちながらストーリーを読むことで、英語での読書体験を学生が楽しんでくれることを期待した。多読は個人個人がそれぞれのレベルで黙読する読み方が基本だが、読書サークルのように内容を共有したり、音読を楽しんだりなど、多読図書活用の可能性を広げる試みでもあった。



受講生は15名で、90分16回の授業のうち12回を *Moby Dick* に充てた。授業では1ページ前後の単位で、誰が、何を、何故しているか、何が起きているか等、内容理解を中心に、原書からの補足説明を加えながら読み進めた。このセクションでは、授業終了後のアンケートをもとに、学生が今回のテキストを、多読用図書の見聞という面から、どのように読んだかについて述べていく。

### 1) 読書語数・語彙について

SSS英語多読研究会の読書記録手帳によると *Moby Dick* は3.4万語のテキストだが、予習や、最終週に実施した内容理解チェックの筆記試験準備のための復習で繰り返し読んだであろうことも考慮に入れると、かなりの英語量に触れたと考えられる(読み方の違いはあるが、例えば、「ライティング」での平均読書量6.0万語と比較)。アンケートで「読む量は適切だったか」の問いに、「最初は多いと思ったが、読み終えてみたらちょうど良く感じた」、「少し多いかなと思ったが、しっかりした物語を読むにはこのくらい要るかなとも思った」など、読み慣れることで「適切な分量だ」と感じる事ができた学生がほぼ半数だった。一方、「少し多い」と思った学生や、「内容が難しいので少し多い」と思った学生が半数いたので、内容理解を補助するプリントなどを用意するなど、もう少し丁寧に進めるべきだったと考えている。語彙に関しては、「海や船に関する語彙が増えた」、「何回も出てくる語はよく覚えた」など、頻出語彙や特殊な語彙などが記憶に残ったようで、ほぼ全員が「語彙が増えたと思う」と回答した。予習や復習で繰り返し読んだことも語彙の定着を助けたと思う。

### 2) ストーリーの理解について

日本語に訳さずストーリーを読むという読み方に関しては、「英語でストーリーを読むことに慣れた」と10名の学生が回答していた。「読むにつれて、かなりスピードが上がった」「最初は読みづらかったが、だんだんスラスラ読めるようになった」など、英語を読んでそのまま理解する感覚が身についたとい

たようだ。

「ストーリーは理解できたか」の問いには、9名が80%以上の理解、6名が50%程度の理解と回答した。内容を問う筆記試験の結果からみると、理解に関してはもう少し低いパーセンテージとなるが、理解できたという感覚は読み進めるうえで非常に重要であり、当然のことながら、この回答が「ストーリーを楽しんだか」の問いに対する回答とも比例していた。10名が80～100%の感覚で楽しめたと回答し、4名が50%程度の楽しみ方だった。「もう1回読み直してみたら理解が深まり楽しめた」とのコメントもあり、試験のための復習効果もあったようだ。「予習と授業で2回読んだので100%理解できた」と述べる学生がいる一方、「部分的でよいから、難しい場面では日本語訳があった方が良かった」という内容のコメントもあった。読書体験として、まあまあ楽しんだ学生を含めると、原作の面白さゆえだろうが、ほぼ全員が英語での読書を楽しんだ。

リトルド版ではあっても一作品を読み終えたことに関しては、「英語で書かれた作品を(一冊すべて)読むのは初めてだったのですが、読み終わった時に理解できていたのが実感できました」、「授業を通して、有名な文学作品を内容まで詳しく知ることができてとてもよかったです」などの感想もあり、リトルド版をテキストとして用いた目的はほぼ達成できたと思われる。また、時間の許す限り行った音読については特に感想を求めなかったにもかかわらず、「声に出して読むことで、気持ちを込めて読む楽しさを実感できました」との感想があった。音読が読書の楽しさにつながるような指導を今後考えていきたい。

## 6. 公開講座

図書館に整備した多読用図書を利用しての公開講座を実施した。参加者募集のパンフレットのタイトルは「英語で読書：絵本の読み聞かせに挑戦」、内容は「英語の絵本や物語を音読し、英語の音に慣れましょう。簡単な英語で書かれているストーリーから始めて、最後は絵本の読み聞かせに挑戦。楽しみながら英語の基礎力アップを目指します」と説明し



聞かせをしてくれた。

5日間を終えての感想に、「2回目くらいからがんばって練習してきた絵本の読み聞かせをしました。図書館の方にもお話を聞いていただいて、すごく良い経験になりました」とあり、読み聞かせを目的の一つとしたことは5日間の講座に緊張感を持たせたようだ。ORTの音読に関しては、「1回目からだんだん長くなってきた多読本を5日間がんばって読みました。今までにわからなかった単語も、本を読むことで簡単に覚えることができました。小さい本だけど、文法もたくさん入っていてすごく勉強になりました」と、大変前向きな総合的感想を残してくれた。

一方、成人の参加者もそれぞれの目的を持ち、受講してくれた。英語検定試験3級を目指して英語を勉強中だという成人Aさんの感想は常に、「英語が話せてうれしい。絵も楽しい。全く読めないと思っていましたが、読めてうれしい」と、声に出して英語を読む楽しさを伝えてくれた。

英語講座などに参加して熱心に英語を勉強している成人Bさんも、「動きの悪い舌がよく回るようになりました。英語もリズムですね。発音リズムの大切さがよく理解できました。今日は単語を一つずつ“丁寧に”を意識しました。昨日に続き“丁寧に”を意識したのですが、長文になると語尾が曖昧になるようです。自分自身“早く話す”の拘束があるので、“早く話す”から“ていねいに一語ずつ”を明日再びモットーとしたいです。最初に比べて、ずいぶん単語の発音がclearになったと思います」と、毎時間ごとに自分で課題を持って取り組んだ音読に、ある程度納得できたようだ。最終日の感想で、読み聞かせに関しては、「人を前にして話すのは、より“ていねい”を必要とするようで、“はっきり”“ゆっくり”を意識しました」とあり、また多読本を数多く音読したことに 대해서는、「本を読み重ねるうちに、一語一語を“はっきり”させる口・舌が自然に出来てきたように思います」との感想であった。

音読を中心とした多読図書利用の講座は、参加人数が少なかったことが幸いして、一人一人が満足ゆく講座として展開できたと思う。成人の場合は、英

語学習歴の違いから、感想のポイントが異なっているが、共通点として、音読の有効性(楽しみ・英語発音の向上)を感じてくれたと思う。多読教材や多読の実践を大学内にとどめず、中高大連携および地域連携等の場に広める今回の試みは、今後の可能性を示してくれた。



英語絵本の読み聞かせ

## 7. おわりに

多読では、多量のインプットを目指し、学習者のレベルを考えて、比較的やさしい英語から徐々にレベルを上げていくというやり方を行なうため、持続的な読書習慣が必要であり、場合によっては長期にわたる読書が必要となる。酒井が「急がばまわれ」ということわざで評しているように、元来多読は効率的な英語学習法というわけではない。ただし、そうした効率面での欠点を補っても余りある、読書の楽しみを味わいつつ英語力を高められるところが多読の長所であり、魅力でもある。しかしながら、本学で多読教育を行なうには、こうした多読の特性を理解しつつも、二年間の限られた修学期間での効率性や効果を考慮せざるを得ず、筆者らが多読を行なうにあたって苦慮しているところである。本稿は、これまで継続して行なっている多読教育の効果を聞きわめながらも、広く多読教育の浸透と展開を図るため、これまでとは異なった目的で多読用教材を用いた英語教育を行なう可能性を探る試みであった。

## [付記]

本研究活動は、平成二十三年度科学研究費補助金による研究成果の一部である。

## 注

- 1) 竹森、小玉、ラング「多読・多聴による英語力向上を目指して」、および竹森、小玉、ラング「多読教育の成果と展開 2009、2010年度多読教育から」を参照。
- 2) 竹森、小玉、ラング「多読教育の成果と展開」19、22を参照。
- 3) 竹森、小玉、ラング「多読教育の成果と展開」22、2を参照。2009年度後期、2010年度前期に実施した「多読クラブ」での平均読書語数は、それぞれ6.2万語、5.7万語であった。
- 4) 例えばBurger, Elley and Mangubhai, Elley, Hafiz and Tudor, Janopolous, Krashen, Lai, Lee and Hsu, Mason, Tsang, Tudor and Hafizを参照。
- 5) Masonによれば、半期足らずの期間の多読のみによってTOEFLのスコアが平均33ポイント伸びたという。Mason "Free Voluntary Reading and Autonomy" 参照。
- 6) 竹森、小玉、ラング「多読教育の成果と展開」21を参照。

## 参考文献

- Burger, Sandra. "Content-Based ESL in a Sheltered Psychology Course : Input, Output, and Outcomes." *TESOL Canada Journal* 6.2 (1989) : 45-59. Print.
- Elley, Warwick B., and Francis Mangubhai. "The Impact of Reading on Second Language Learning." *Reading Research Quarterly* 19 (1983) : 53-67. Print.
- Elley, Warwick B. "Acquiring Literacy in a Second Language: The Effect of Book-Based Programs." *Language Learning* 41.3 (1991): 375-411. Print.
- Hafiz, Fateh, and Ian Tudor. "Extensive Reading and the Development of Language Skills." *English Language Teaching Journal* 43 (1989) : 4-13. Print.
- Janopoulos, Michael. "The Relationship of Pleasure Reading and Second Language Writing Proficiency." *TESOL Quarterly* 20 (1986) : 763-768. Print.
- Krashen, Stephen D. *The Power of Reading*. 2nd ed. Westport, Connecticut: Libraries Unlimited, 2004. Print.
- Lai, Fung-kuen. "The Effect of a Summer Reading Course on Reading and Writing Skills." *System* 21.1 (1993) : 87-100. Print.
- Lee, Sy-ying, and Ying-ying Hsu. "Determining the Crucial Characteristics of Extensive Reading Programs: The Impact of Extensive Reading on EFL Writing." *The International Journal of Foreign Language Teaching* 5.1 (2009) : 12-20. Web. 28 Oct. 2011.
- Mason, Beniko. "The Effect of Adding Supplementary Writing to an Extensive Reading Program." *The International Journal of Foreign Language Teaching* 1.1 (2004) : 2-16. Web. 28 Oct. 2011.
- . "Free Voluntary Reading and Autonomy in Second Language Acquisition: Improving TOEFL Scores from Reading Alone." *The International Journal of Foreign Language Teaching* 2.1 (2006) : 2-5. Web. 28 Oct. 2011.
- Tsang, Wai-king. "Comparing the Effects of Reading and Writing on Writing Performance." *Applied Linguistics* 17.2 (1996) : 210-233. Print.
- Tudor, Ian, and Fateh Hafiz. "Extensive Reading as a Means of Input to L2 Learning." *Journal of Research in Reading* 12.2 (1989) : 164-178. Print.
- 小林めぐみ、河内智子、深谷素子、佐藤明可、谷牧子 (編) 『多読で育む英語力プラス』 成美堂, 2010.
- 酒井邦秀、神田みなみ (編著) 『教室で読む英語100万語：多読授業のすすめ』 大修館書店, 2005.

高瀬敦子 『英語多読・多聴指導マニュアル』 大修館書店, 2010.

竹森徹士、小玉容子、ラング クリス 「多読・多聴による英語力向上を目指して」 『島根県立大学短期大学部松江キャンパス紀要』 第48号 (2010) : 47-52.

---. 「多読教育の成果と展開 2009、2010年度の多読教育から 」 『島根県立大学短期大学部松江キャンパス紀要』 第49号 (2011) : 17-28.

# 『リア王』における「怒り」について

松 浦 雄 二  
(総合文化学科)

On the Anger in *King Lear*

Yuji MATSUURA

キーワード：リア、怒り、狂気、阿呆  
Lear anger madness fool

はじめに

ウィリアム・シェイクスピアの手になる『リア王』とはどういう劇か。人間が現状の自己存在のあり方を否定されたのち、いかにその否定されたあり方を修正していくか、そしていかに自己存在を是とし肯定していける道を探して、自己を生き直していくか。つまり、いかにこの世の中できちんと、前向きに生きていくのか、そこには何が必要か。『リア王』はそのような思いにわれわれ自身が晒される劇である。小論は、以上の仮定を証明しようとする作業であり、3幕4場までのリアの「怒り」に焦点を当てた分析・考察を通して、その作業を行う。

## 1. 「怒り」の定義

最初に分析に際して、「怒り」の定義をしておきたい。「怒り」の定義、と言え、それだけで膨大な論考となるはずであるが、ここでの定義は、あくまで作品を読み解くための支点を与えるものであって、いわば石目のようなものである。「怒り」を、「自分の外部から自己存在を否定されて起こる感情」と定義すると、人間リアの物語は大変読み解きやすい。<sup>1)</sup>

ここで「自己存在への否定」とは、ある「個」が「世の中」に存在して世事に対処するための、精神の能力・行動の能力、すなわち悟性・認識・認知・判断・行動の実行などの力に対する自己認識と自己評価を、「個」の外部から否定され揺さぶられる評価を受ける、ということである。リアに対するこの否定は、たとえば冒頭の場面でのコーディリアにより、あるいはゴネリル・リーガンとその郎党らにより、行われる。この「存在」否定には、コーディリアのように非難も悪意もない否定もあれば、利己的な判断・感情にのみ支配されたゴネリル・リーガンのような否定もある。<sup>2)</sup>

元に返り、自己存在の否定を受けて起こる感情が「怒り」であると定義すると、『リア王』は読み解きやすい。それはなぜか。リアの「怒り」は、リアの自己認識の尺度となるからである。そしてリアの「怒り」が続くのは、リアの自己評価が高いのに、他からの評価が低く（「思い通りにならない」のも、周りの評価が低い故、とみなすことができる）、自身の評価と大きくずれている間である。劇中人物に観客がある程度同調するには、登場人物の認識は観客の認識と近づかなければならないが、劇前半のリア

アの関心は常に評価される自己にあり、認識が広がることがない。リアの自己評価の高さ、すなわち自己肯定の度合いと、「評価」を与える相手への信用度との相対関係で、リアの怒りの様相の変化をある程度説明できる。箇条書きの形で下に整理してみた。

- ア. 自己存在を否定されたときの自己肯定度合(自分に対する信用)が、
  - A. 大のとき
    - 相手に対する「怒り」を生ずる
  - B. 小のとき
    - 「自己不信」を生ずる
    - 自分に対する「絶望感」を生ずる、
    - 「狂気」を生ずる
- イ. 否定された相手に対する信頼度が、
  - A. 高いとき
    - 「自己不信」を生ずる、
    - 自分に対する「絶望感」を生ずる、
    - 「狂気」を生ずる
  - B. 低いとき
    - 相手に対する「不信感」を生ずる
    - 相手に対する「怒り」を生ずる

これはリアの精神の動きを事細かに規定するものではないが、大きな流れをつかむことはできる。これに拠って以下に説明しながら、わかりやすくなるよう図示を試みた。(図1、下)

この箇条書きで「怒り」などを「生ずる」としたのは、「生ずる可能性がある」という意味である。自負、あるいは自分自身への信頼感が大きい=「自己評価が高い」ほど、否定されたとき「否定された」という感情は大きい。否定されたときに、自己肯定度が低かったり弱かったりすれば、いいかえれば自分への信頼度が低くなっていけば、自己存在を揺るがして「狂気」に通じていく可能性がある。それぞれのパタンの組み合わせで、場面場面のリアの怒りの様相がある程度説明できる。たとえば、三幕四場に至るまで、リアはつねに「相手に対する怒りを生ずる」(上記アのA)である。ゴネリル・リーガンの屋敷に身を寄せて行った最初の辺りは自分のほうを抑えている(イのA)のであって、冷たくあしらわれることに疑心暗鬼を生じているだけだが、二人が本気で自分を冷遇していることがわかってからは不信感や怒りを感じたりしており(イのB)、自分の信頼度が高い(アのA)リアにおいては、拍車を

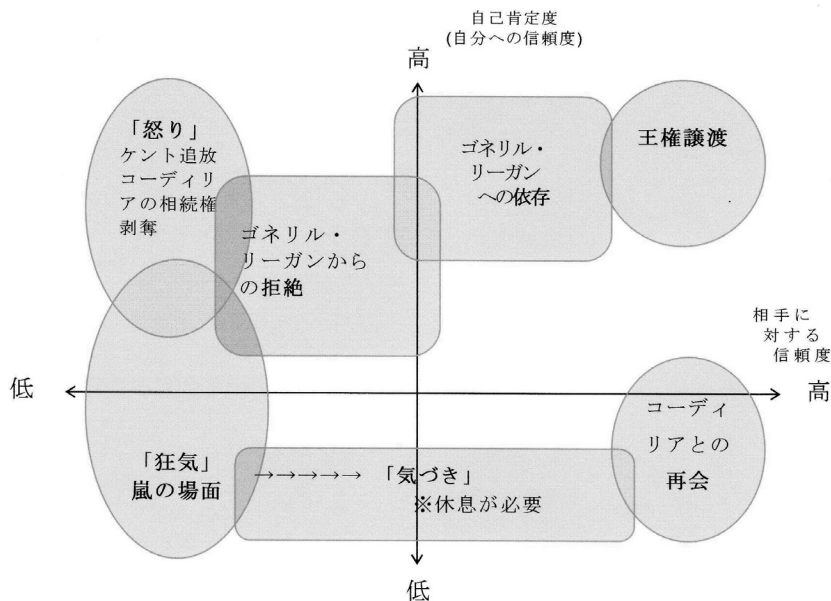


図1. リアの「怒り」の相関図

かけて怒りが高まることになる。1幕1場のリアのコーディリアに対する態度はどうかというと、つねに自己評価が高い（アのA）、コーディリアが "Nothing" 何もないと答えるに及んで相手に対する信頼度はうすれ（イのAからイのBになり）、この落差が急激に訪れたので、相手に対する怒りも倍増し、相続権を奪うという性急な行動に走ってしまう。

1幕4場になってリアは初めて、ゴネリル・リーガンへの怒りを一瞬解いて「裸んぼうの可哀相な連中」に眼を向けるが、それは視野を広くすることで外部への認知や自己評価の根拠となるものを見直す可能性がここで出てきたということであり、自分の愚かさを傲慢に認められない（アのA）ような心性を和らげて相対的にものごとを見る眼を獲得する契機となり得るといふこと、ひいては「怒り」を抑えていく契機となり得るといふことを示すものである。リアが3幕の「狂気」に至る過程は、他人から受けているであろう評価・自己評価ともに低くなって、自分に対する自信が揺らぐ過程であると言うことが可能である。

## 2. 怒りを生み出す心性

それでは、上で述べた定義を踏まえてリアの「怒り」を生み出す心性について、もっと具体的にみていきたい。まず、1幕1場のリアの台詞からみてみる。

... [W]e will express our darker purpose.  
Give me the map there. Know, that we have divided  
In three our kingdom, and 'tis our fast intent,  
To shake all cares and busines of our age,  
Conferring them on younger strengths while  
we  
Unburdened crawl toward death. Our son of  
Cornwall,  
And you, our no less loving son of Albany,  
We have this hour a constant will to publish  
Our daughters' several dowers, that future

strife

May be prevented now. The princes, France and  
Burgundy,  
Great rivals in our youngest daughter's love,  
Long in our Court have made their amorous  
sojourn,  
And here are to be answered.

(1.1.31-43)<sup>3)</sup>

引用の2行目の「もう分けたぞ」ということは、イギリスの当時の法律がどのようなものかわからなくても、リアの世界では、「わしが法律である」と言っているのだと感ぜられる。法律も手続きもリアの一存というわけである。「わしはもう三つに分けた、決めてしまった」といっているそのあとに "our fast intent" ということばが出てきて、それはその下の "constant will" ということばとも呼応している。New Cambridge Shakespeare版はここに注釈して、"fast" は "firmly fixed" と "swift" の意味の double meaning である、"constant will" は "unswerving intention" の意味である、とわざわざ言っている。この "fast" は1608年の四つ折版では "first" と現れ、後の第1二つ折版では編纂者たちが上で述べた double meaning のようなことば遊びの幅を加えながら、リアの決意の表れをさらに強く示唆する 'fast' に変えた箇所ということである。さらに、自分の王国分割は 'a constant will' であるという箇所も第1二つ折版で書き加えられたものである。この辺りの台詞から感ぜられるのはリアの一貫した、先程のNew Cambridge Shakespeareの注釈で言うところの "absolute" な調子<sup>4)</sup> であって、ここには「自分の一番愛する娘に一番の愛の証 (= "A third more opulent than your sisters") を与えることができる」というリアの自分のアイディアに対する絶対的な自信も感じ取ることができれば、思いつきのすばらしさを自画自賛する気分も読み取ることができる。また、自分がもくろんだことは必ず成功すると、自信たっぷり得意満面のリアが、独善的な、絶対権力者としていい気持ちで言い放っている、作者は、そういう人としてリアを描き出そ



うとしている、と言える。

### 3. コーディリアの "nothing"

こういうリアに対してコーディリアはどう答えるかという、1幕1場の "Nothing" の台詞である。

冒頭の段階のリアのほうに肩を持った言い方をすれば、冒頭のリアはコーディリアによって儀式をだいなしにされる。この儀式でのリアは、いわゆる王の自然的身体と政治的身体、王の二つの身体を持った人間として登場する。この儀式は、「二つの身体」のリアという存在の威厳を、十分にばらまこうとする空間だった。王としての権力、面目、家父長的な慈愛と知恵、そういった、王であり父であるリアという人間を構成している屋台骨の部分を含めた全体、それを基にした威厳に満ちた空間だったのであり、いわばリアという人間の全存在に拠って成立する occasionであったわけである。コーディリアの行為は、その全存在を否定するものである。それは、劇世界を象徴するような意味合いを帯びているかのように見える。

CORDELIA Nothing, my lord.

LEAR Nothing?

CORDELIA Nothing.

LEAR Nothing will come of nothing.

(1.1.82-85)

「何も言うことはありません」と答えるコーディリアの行為が、リアの存在を否定する。荘重で大仰な韻文が突然影を潜め、15音節の短い響きの中の10音節が "nothing" で占められる。コーディリアとリアによって "nothing" ということが繰り返されるたびに、そのことばの唐突な短き音声上の軽さが、重々しい威厳に満ちているはずのリアの儀式を軽く転がすかのような印象までも与える。リアの命令に逆らうこの軽いひと言は、リアの王国譲渡における認識と判断、王の威厳、父親の慈愛、つまりはリアの全存在そのものを軽く一蹴してしまうかのようなことばとして、強く観客（あるいは読者）の心に印象づけられる。王国譲渡の儀式は、リアの全存

在の表象として、コーディリアはそのときのリアの存在のあり方を全否定する象徴的存在として、冒頭の場面では機能している。一連の "nothing" のすぐあとに、コーディリアが真実の愛について語るうとしてまことを尽くそうが尽くすまいが、リアには関係がない。それはなぜか。この場面の少し後で、ケントを追放するときリアは次のように言う。

That thou hast sought to make us break our  
vows,

Which we durst never yet; and with strained  
pride,

To come betwixt our sentence and our power,  
Which nor our nature nor our place can bear,  
Our potency made good, take thy reward.

(1.1.162-66)

リアはこれまで、権力を行使するときに刃向かわれたことがない。また、刃向かうものに対しては、権力をもってしか対処できない（というか、この劇ではそういう風に描いてある）。冒頭に登場したリアはどのような人物として現されているか。自分の権力を行使したいひとが、それにふさわしい場所を得て得意満面の体である。そういうリアにとって一番大事なことは、儀式の成就を通して自分の全存在が肯定されることであって、リアにとってそれをひっくり返されるか否かは、本当の愛についてわかるのかわからないかを検分することより、自分の「存在」理由に関わっていく大問題である。他方コーディリアだが、コーディリアはなんとなくキャラクターがはっきりしない所がある。たとえば、本当の愛についてよく知っているひと、もののわかった人間なのであれば、コーディリアがリアの意を汲んで儀式を成功させれば、困ったことにはならない、そういうことができるほうが、ものを見通す眼があるキャラクターとして一貫性があるのではないか、というような評し方は、一見すると妥当であるかに見える。

確かにコーディリアは真実の愛について語るような、そういう意味で「ちゃんとした」人物である。が、この登場人物は、ここでは具体的

な人間のレヴェルというより象徴的なレヴェルの、冒頭のリアを否定する装置のようなものであると仮定すると、装置はリアの心中・意図を汲んでおべんちゃらを言ったり、顔を立てたりする必要がなくて、一番必要な機能を果たせばよい。だからコーディリアには今ひとつ現実に生きている人間としての様子が乏しいように感じるのではないか。そうすると今度は、ではなぜ本当の愛についてのまことを語ることができるのか、という問題が残る。そして重要な点はまさにその部分にあるように思われる。それで、一旦リアのことに話をもちたい。

これまで多くの批評家がこの冒頭の王国分割の場面について、現実的なレヴェルでも芝居の観客に対してというレヴェルでも、王国分割が周囲に不安や懸念を引き起こし得るといふ社会的な事実に触れて、リアの愚かさを説明してきた。が、例えばスティーヴン・グリーンブラットはこのことに触れて、リアの本当の愚かさは王国を分割したことでなく、自分が一番愛している末娘の相続権を「性急に」剥奪したことであり、と言っている (Greenblatt 2309)。性急さは怒りの結果でもあるが<sup>5)</sup>、リアの本当の愚かさとはどういうことであろうか。

.... O most small fault,  
How ugly did'st thou in Cordelia show!  
Which, like an engine, wrenched my frame of  
nature  
From the fixed place, drew from my heart all  
love,  
And added to the gall, O Lear, Lear, Lear!  
Beat at this gate that let thy folly in  
And thy dear judgement out. ....

(1.4.221-27)

この箇所解釈は、多くの版の注釈では、本来あるべき場所から建物などをてこのような機械でもって持ち上げるというイメージで説明している。ここでリアは、"O most small fault, / How ugly did'st thou in Cordelia show!" とコーディリアの「咎」の小さかったことを思っている。コーディリアを愛する気持ちをなくすには、大きな建物を動かすくら

いのエネルギーが必要だった、それほどコーディリアへの愛は大きかったことを表す比喩である。だが、結局言っているのは、些細な咎であったが、コーディリアが言ったがためにコーディリアへの愛がなくなった、もっと単純に言えば、愛していたのにお前のせいで愛がなくなったのだ、と、相手のせいにしていく、ということである。これを真実の愛を知っているひとの言葉だといえるか。リアは「コーディリアのことを一番愛している」と最初から公言しているけれども、その「コーディリアのことを一番愛する」ということがどういうことかがわからない、そして自分がどのようにコーディリアを愛しているのか、もわからない。

つまり、リアは、自分が愛していると思っている人を実態として愛することができておらず、実態として別の物事に執着していることがわからないままにその人を愛していると言い、別の物事に執着しているがために本当の愛がどのような姿をしているのかもわからない。わからないままに最愛のコーディリアに否定され、わからないからゴネリル・リーガンの仮面の愛情がわからず、権力を全面的に委譲してしまっただけからは仮面をつける必要がなくなったゴネリル・リーガンからも容赦なく徹底的に存在を否定されていく。その間自己存在を否定されたことによる「怒り」は継続し、「わからない」状態から「わかり」始めるようになって初めてリアの「怒り」は治まり始める。

コーディリアが、冒頭の自信たっぷりのリアの思惑どうりになっていない、というのは、「愛」に関する価値観が違っていてコーディリアがそれを素直に出すことによってリアの思惑どうりのことばが出てこない、ということである。二人の価値観がどう違うかを確かめると、まずコーディリアがリアに伝えた、父への愛についてのコメントは、リアが財産権を奪うことを断言する前には、次の四行だけである。

... I love your majesty  
According to my bond, no more nor less  
(1.1.87-88)

You have begot me, bred me, loved me. I  
 Return those duties back as are right fit  
 (1.1.91-92)

When she was dear to us, we did hold her so,  
 But now her price is fallen.  
 (1.1.187-91)

コーディリアがこの台詞によって勘当され、諫言するケントとリアがやりあってケントも追放され、リアが二人の花婿候補たちにその後の意向を訊いた時に、コーディリアはさし出でて自分の "nothing" の発言の申し開きのような台詞を言うが、1幕1場での「いかにリアを愛しているか」ということについてのコーディリアによるコメントは、上の計四行ほどの台詞だけである。自分の受けた養育と愛情に相応しい務めを返す、絆に従って愛し、それ以上でもそれ以下でもない、ということばは、迂闊に聞き流せば確かに非常に素気無く響く。が、よく聞くと、「義務」ということばには、強いられてしなければならないことという含意はあるだろうが、コーディリアにとってみれば「どうしてもしなければならないこと」だという覚悟の座った決意であれば、「義務」ということばでも自然である。むしろ "as" 以下の「それに相応しい」と言っているそのことばから覗かれる愛情は、リアが与えたものをコーディリアがどう思っているかによって決まる。コーディリアはこのちょっと前のところで "Love, and be silent" (1.1.57) と言っているので、"as are right fit" とともに抑制の効いた "no more nor less" には、却ってコーディリアがリアに抱いている愛情の深さ、奥行きをのびを感じることができる、そういうもの言いになっている。

4. 変わらないリア

これに対してリアは、コーディリアの相続権を奪った直後、バーガンディの問いに対して次のように言う。

BURGANDY                    Most royal majesty,  
 I crave no more than hath your highness  
 offered,  
 Nor will you tender less?  
 LEAR                            Right noble Burgundy,

バーガンディの結婚の基準が持参金の多さであることはさておいて、リアについて言えば、元々、コーディリアを大事に思うから財産もやる、ということのはずである。ここでリアが、「娘が自分にとって大事であったときにはそのように思っていた」という答え方をバーガンディにしたとき、コーディリアの存在価値は完全に財産・不動産の対価としてあるようにすりかわっていて、コーディリアをなぜ大事に思うのかということを知りたがっているリア自身はまったく意識していない。(シェイクスピアはリアに "dear", "hold" の、「値段が高い」「所有する」というdouble meaning を使わせ、言い方の嫌らしさを倍加させてもいる。)つまりかけがえのない者としてコーディリアを愛しているはずだが、その「愛」の源泉、「愛」の拠って来るところに対しての意識がないから、即物的な「値段が下がった」などと藪味のきつい嫌らしい比喻を使ってしまっても、一向にその藪さ嫌らしさに気が付かない。そういう言い方、台詞回しになっている。このように劇の冒頭のリアというのは、「愛」について意識ができない人間として描かれている。

また、この藪みは、なかなか抜けない。

Those wicked creatures yet do look  
 well-favoured  
 When others are more wicked. Not being the  
 worst  
 Stands in some rank of praise. [To Gonerill]  
 I'll go with thee;  
 Thy fifty yet doth double five and twenty,  
 And thou art twice her love.

(2.4.249-53)

ここでは、ゴネリルに百人の騎士の随行・滞在を半分にするように言われ、泣きつくようにリーガンのもとへ長女の非道を訴えに行ったりリアが、逆に五

十人の半分の二十五人でいいと突き放されて、もう一回ゴネリルの方に「お前の方がまじだった、愛は二倍だ」と言うわけである。この愛の算数もあまりに即物的で、ここはむしろ笑いを誘う、という演劇的な効果が第一の目的かもしれない。とにかくリアにおける愛とか愛情とかを測るものさしは、嵐の直前のこの場面においても齟齬が残ったままで、全然変わらない。つまり、リアが最初から持っていたものの見方考え方を捨てていない。

リアが自分のものの見方考え方に執着する時期は、王権への執着が強い時期と期を同じくしており、この執着するということと、例えば老齢で耄碌するということとは基本的には別の話である。リアは領土の割譲とともに、全権を娘たちに委譲する旨を公式発表するが、供回りの数は百人にするという判断とその実行と維持は、王であるとき、王としての権限を握っているときにのみ可能である。権限の委譲後にこれを実行しようと思えば、その決定事項を権限委譲後も維持していくという決め事、最高権力者の権限を上回る憲法のような決め事が無い限りは、うやむやにされて当然である。こういう決め事を持ち出さなくても譲ったものと譲られたものの関係がうまくいくのは、両者の間に信頼と、本物の紳士協定があるときのみである。「紳士協定」とは日常生活においてまことに怪しげな言葉である事は、われわれは経験的に知っているではないか。自分がひとにやると言ったものの性質がわからない、そうして、ひとにやると言ったそのものに執着する。『リア王』は芝居である。非現実である芝居の中のできごとである限り、リアの真の愚かさのひとつは、権力委譲後に権力に執着し、そのことに自覚がないことであって、王国を分割したことではない。

リアが自信・自負を持っていることと、リアが「権力を保持していること」とは、抜きがたく結びついている。つまり、リアの場合には、周りの評価と比べて自己評価が高くて、すなわち周りの評価が自己評価に比べ低く、いわば裸の王様に近くても、王であるから許されていた、ということである（低さの程度はひとによっており、コーディリア、「忠臣」ケントは逆に高い）。だから、リアが落ちぶれ

て周囲の評価がリア本人にもわかるように低くなったとき、自己の存在理由を求めて「わしは王だぞ」と、王であることを強く、これ見よがしに主張しなければならない。劇が進行して嵐の場面が近づいた次の台詞、

LEAR... Why Gloucester, Gloucester,  
I'd speak with the Duke of Cornwall, and his  
wife.

GLOUCESTER Well, my good lord, I have  
informed them so.

LEAR 'Informed them'? Dost thou understand  
me, man?

GLOUCESTER Aye, my good lord.

LEAR The King would speak with Cornewall,  
the dear father

Would with his daughter speak! Commands -  
tends - service!

(2.4.89-95)

ここでリアが、「Dost thou understand me...?」とグロスターに強く確認を迫っていることは、自分が王国の "The King"、つまりはこの世の最高権力者であること、そしてfamilyの最高権力者、一家の長たる、respectを払われるべき "the dear father" であること、である。この二つの主語に続く "would" という仮定法の婉曲表現には、「ほかならぬ王であり父であるこのリアがわざわざいっておるのではないのか?」というぐらいの、自分自身への自信を欠いた、王としてのアイデンティティを失いつつあるリアの様子が見て取れる。ここではすでにリアは落ちぶれており、王であることにどうしても執着しなければならないリアの姿がある。また、この台詞よりも前、ゴネリルに最初に撥ね付けられたところであるが、

LEAR Does any here know me? This is not  
Lear:

Does Lear walk thus? speak thus? Where are  
his eyes?

Either his notion weakens, his discernings  
 Are lethargied - Ha! Waking? 'Tis not so!  
 Who is it that can tell me who I am?  
 FOOL Lear's shadow.  
 LEAR Your name, fair gentlewoman?  
 (1.4.81-87)

リアにとってリアの存在とは、玉座にあるときに「そうであるはずと自分で思っていたもの」のことである。しかし玉座から降りたリアは、「実際にそうであるもの」でしかない。この台詞でリアが問うているものは、「そうであるはずのもの」と思い込んでいても通用していた時代にリアが身につけていた所作である。リアが実体であると信じているものは幻であり、リアにとっては実体のほうが目に見えぬ影である。リアは自分の「実体」についての検認を求めて半ば悲壮に半ば怨念を込めて叫ぶが、道化はすかさず「リアの影」と見透かす。誰もが取り沙汰する道化のこのひとは、リアの実体と影を乱反射させるような、この上なく苦い追従でもあるさなり、今の御前は影にてまことの御前にあらず、されど昔から影しか見えなかった御前は、やっぱりまことの御前、影がまことか、まことが影か。この道化の言葉にはリアの「阿呆」が乱反射している。<sup>6)</sup>しかし、道化の示すほんとうの苦味はリアにはわからないであろう。リアは常に自分のアイデアを現実の姿とみなして、それを疑わない。袋小路のリアはただ自虐的に娘に対して「お名前は？」と戯言を言うしかない。このリアの姿があるので、上で触れた2幕4場の台詞でのリアの執着ぶりはいっそう引き立つ。『リア王』では、登場人物たちはときどき其処此処で、誰かが誰かに「お前は誰かと」と問う。まるで誰もが、ひとの存在のありかとあり方を問うているようにさえ思われる。<sup>7)</sup>

##### 5. 盲目の人間、人間という存在

このように、自己の存在とそのあり方を当然自然のものと思っていた人間が存在を否定されてその結果陥る状態、その状態がリアの場合は、「怒り」である。権力をなくすと自分の想定するアイデアとその

実現力をすべてなくしてしまう、そういうレベルの人間であることがわからない人間、それがわからないがために、愛の言葉を求めながら、真の愛について腰を落として考えてもいなかったであろう傲慢な人間、これらがケントの諫言 "See better, Lear" から始まり脇筋で盲目のグロスターの形で劇中現実化される、「盲目びと」のイメージリーで象徴しようとする支配的シニフィエであり、これらは劇を覆う盲目の患者の言説の具体的表出である。それは、なにか特殊な人間ではなく其処此処のどこにでもいる人間が日常陥る陥穽であり、そのような陥穽に陥る人間という存在を、鏡をかかげて移そうとするのが『リア王』という芝居である。

「存在のあり方」の問題、人間のあり方の問題は、シェイクスピアが生涯をかけて突き詰めようとしている問題に思える。例えばハムレットの独白は実に象徴的にそのことを表す。"To be, or not to be, that is the question" という台詞には、自分の中に抱え込んだ、結論を導けない難題について、あまりに長い間考えて来て、今一度ポイントを整理して命題を立て直して確認して、また考え続ける、そういう調子がある。問題をつきつめれば、「在る」という方向なのか、「在る」ということはないという方向ないのか、存在していいのか、いけないのか、在るべきか、在るべきでないのか。在るとすると自分はどのように在るのか。ハムレットは狂気を装い、劇中劇その他いろいろな探りを入れて事の真実を確かめようとするが、結局最後には "The readiness is all" と言って、その難題の解決を神の手に委ねる。ハムレットの死は、自分が企画した計画の中でではなく、神の手に身を委ねた結果進んだ一連の出来事の中で、偶々復讐を果たしながら起こる。"The rest is silence." と言い残し、本人は語るができないが、自分が抱えてきた問題については、ハムレットはホレイショーという信頼すべき語り部に預けて語り伝えようとする。死に際しての自分の物語の伝承への望み・願いを託すということは、つまり、"The rest is silence" と言って舞台上から消えるまでのハムレットが抱えてきた問題が、ハムレットにとっていかに大事なものであるかを伝えている。ハ

ムレットは死んでもはや語らないが、その問題は常に考えられるべき重要性を持っている、ということが、『ハムレット』という劇をとおして伝えられる。

『リア王』において、主人公たちはみな死ぬ。グロスターが死に、コーンウォールが死に、ゴネリルが死に、リーガンが死に、エドモンドが死に、最後にコーディリアが死に、リアも死ぬ。『リア王』にはホレイシヨウのような、ことの仔細を、すべてを語る事ができる登場人物はいない。身をやつしてリアに仕えたケントには、おそらくホレイシヨウのような役割はできない。なぜならケントは語り部のような働きは劇中で与えられてはいない。死んだ人たちが生き残ったひとたち、言ってみれば盲目の「阿呆」の仲間のうちのひとりではないからである(リアのいわば「阿呆の素」の一つは王権である。その王権に、ケントもコーディリアも、リアを据え直そうとする)。語り、語り継ぐことのできないケントは、最後に「王国」という世界、どこを見渡しても阿呆ばかりいる「阿呆どもの広い広い舞台」("great stage of fools")<sup>8)</sup>から、ただ去って行くしかない。『リア王』では誰もが死んで沈黙してしまった。ハムレットは、沈黙した後も一番大事なことを伝える手段を持っていた。ではリアはどうか。『リア王』にはホレイシヨウはいない。しかし『リア王』では一番大事なことは一番最初に言っている。

## 6. 阿呆の世界の小さくも強い光

コーディリアの "Nothing" の台詞をきいたとき、その声を聞いた観客は、"Nothing" ということばと、このことばの背後に「愛する」という行為があることが、心の中で結びつくはずである。観客の心の中に呼び起こされたコーディリアの心根との共振、エコーは、即物的な響きを帯びたリアの "Nothing" とコーディリアの言う "Nothing" との間にある大きな次元の違いを感じ取っているはずである。それはリアの生きる拠りどころと、コーディリアの生きる拠りどころとの間の大きな溝を示す違いである。リアの怒り、リアの悲劇はこの溝によってもたらされている。リアの怒りは、愛のありようをめぐって1幕1場に生じる。「阿呆どもの広い広い舞台」の

中で、「怒り」の起こる様、鎮まる様に注目していると「愛」が見えてくる。阿呆の国の阿呆たちは苦難を背負って苦しみ、死んでしまう。誇張もなくことば足らずもなく、唯一「愛」を語る事ができた人物であるコーディリアも死ぬ。このとき、われわれは何を感じているのか。劇の最後の言葉は、「言うべきことではなく、感じていることを語ろう」("Speak what we feel, not what we ought to say." (5.3.298)) というエドガーの台詞である。

『リア王』の中で一番大事なことを伝えていたのはコーディリアである。コーディリアは "Nothing" とリアに答える前に、何と言っていたのか。コーディリアがリアに「愛」について語ったとき、コーディリアは人間存在のあり方についても語ったのである。ハムレットは "The rest is silence" といって大事なものを物語ってくれと頼んで沈黙する。しかし阿呆の国のコーディリアという阿呆は、少なくとも沈黙する前に大事なものがあると知っていた。「愛せよ、あとは沈黙」、 "Love, and be silent." (1.1.57) これは、あくまで静かで小さい、しかし、ハムレットが問い続けたものへの、一つの光明であるように思われる。

## 結語

冒頭に述べたことを今一度くり返せば、人間が自己の存在を否定されたのち、いかにその否定された存在のあり方を修正していくか、そしていかに自己存在を肯定し直して生きていくか、言い換えれば、いかにこの世の中で前向きに「きちんと」生きていくのか、そこには何が必要か、『リア王』はそういうことを示そうとした劇ではないか。『リア王』では怒りについて考えることが人間存在とその存在に与える「愛」を考えることになり、人間という存在は「愛」を大事にして生きていこうとするが、それはまたとても難しいことでもある。『リア王』は、人間世界のそのような有様を映すよう掲げられた鏡なのである。

## 注

- 1) 現代心理学における「怒り」の定義への各種アプローチは、大変興味深い(高木・阿部)。特に、「ある出来事の個別的評価要素が「自己の目標と関係があり」しかも「その目標と一致せず」「その責任が他者」である場合、これらが一緒になって、相手を非難すべき「私を貶める攻撃」という中心関係テーマが形成され、これが怒りの感情を生成する」というSmithとLazarusの説は、小論に即して注目できる(高木・阿部77)。現代心理学ではさらに、怒り生成の個人的なプロセスに与える社会・文化の構造の影響を視野に入れているが(高木・阿部83)、『リア王』という劇は、すでにイギリス・ルネッサンスという社会・文化構造から産出されるべくしてなされた一つの結果である。この文学テキストに現されたリアの怒りの姿が現代にまで届き描かれているということが、間違いなく怒りの本質に触れたものがあることの証しである。
- 2) 例えばセネカの古きより、「怒りを駆り立てるもの」は「不正をこうむ」ること、特に「不正」を「不当にこうむ」ることであり、「予想と期待に反して起きたことが、いちばんひどく心を揺さぶる。」(「怒りについて」第2巻三十一の1、2)(セネカ177)セネカにとっての「不正」とは、「何であれ、それが降りかかるひとに損失をもたらすことである。」(「賢者の恒心について」五の4)(セネカ51)。
- 3) 『リア王』の引用は、すべてEd. Jay L. Halio, *King Lear* New Cambridge Shakespeare (Cambridge UP, 1992) による。引用箇所幕・場・行数は、テキストの示し方に従い、引用文の下に算用数字を( )に入れて示した。また、引用文中の下線はすべて筆者によるものである。
- 4) New Cambridge Shakespeare、1幕1場38行、「constant will」注。
- 5) リアがコーディリアを勘当し、相続権を剥奪する性急さは、心理学的に言えば、欲求不満による「攻撃行動」であり、この攻撃行動は怒りの表出反応の一つとして、怒りの定義における動因

動的アプローチの理論で取り扱われる。「欲求不満」とは「ある目標に向かって行動が開始され、目標達成のための努力が始まったにもかかわらず、それが途中で妨害された状態」である(高木・阿部75-76)。怒りにおける症候としての性急さとその激しさは古来から容易に認められるものであろう。例えばセネカは、「怒り」の「おぞましい上に凶暴」な様相を「全体が駆り立てられ、激情のなすがまま」と描写している。(セネカ87)

- 6) エラスムス『痴愚神礼賛』の表題解釈において高橋康也は、「愚」と「愚」、「愚」と「賢」が互いに相手を相対化しつつ意味空間の奥行きを広げていく様子を、合せ鏡のイメージに寄せて説明しているが(高橋『道化の文学』28-32)、『リア王』における「道化」の存在は、まさしく「阿呆」の世界の住人達におのれの姿を見せつける複数の鏡であるかのようである。
- 7) 翻訳家松岡和子は、『リア王』には「know + 人」という文型が、シェイクスピアの作品中もっとも多く用いられていることを示しながら、この劇が「認識の劇」であることを読み取って、ひとと自分自身のことを知ることの「幸福」についての劇でもあると穿つ。(松岡91-99)
- 8) 4幕5場175行のこの台詞について、高橋は中世以来の「阿呆劇」の伝統を見ている。(高橋『道化の文学』157)

## 引用・参考文献

- Eliot, Thomas Stearns, "Shakespeare and the Stoicism of Seneca" in *Selected Essays* (Faber and Faber, 1932; rev.edition 1951); 平井正穂訳「シェイクスピアとセネカのストア<sup>ストア</sup>克己主義」『T. S. エリオット全集4 詩人論』(中央公論社 1955; 改訂第5版1981)
- Greenblatt, Stephen, Introduction to *King Lear* in *The Norton Shakespeare: Based on the Oxford Edition*, 2nd ed., Ed. Stephen Greenblatt, et. al. (W. W. Norton & Company, 2008)
- Halio, Jay L. ed. *King Lear* New Cambridge Shakespeare (Cambridge UP, 1992)

- Kott, Jan, *Shakespeare Our Contemporary* (1967; Routledge, 1988)
- Noble, Richmond, *Shakespeare's Biblical Knowledge* (Octagon Books, 1970)
- Otto, Beatrice K., *Fools Are Everywhere* (The University of Chicago Press, 2001)
- Salkeld, Duncun, *Madness and Drama in the Age of Shakespeare* (Manchester UP, 1993); ダンカン・サルケルド著 西川正容・山口和世訳『シェイクスピア時代の狂気と演劇』(大阪教育図書 1996)
- Shaheen, Naseeb, *Biblical Refernces in Shakesoeare's Tragedies* (Associated University Presses, 1987)
- Southworth, John, *Fools and Jesters at the English Court* (Sutton Publishing, 1998;2003)
- セネカ著 兼利琢也訳『怒りについて』岩波文庫 (2006)
- 高木修・阿部晋吾「怒りとその表出に関わる心理学的研究の外観」関西大学『社会学部紀要』第37巻第2号(関西大学 2006) pp.71-86
- 高橋康也『道化の文学』中公新書(1977;2006)
- 高橋康也著 笹山隆編『橋がかり 演劇的なものを求めて』(岩波書店 2003)
- 中橋一夫『道化の宿命』(研究社 1959;1972)
- 湯川進太郎編『怒りの心理学』(雄斐閣 2008)
- 野島秀勝『ロマンス・悲劇・道化の死』(南雲堂 1971;1986改訂第2版)
- 野島秀勝『自然と自我の原風景』増補第一版(南雲堂 1997)
- バルレーヴェン、コンスタンティン・フォン著 片岡啓治訳『道化 つまずきの現象学』(法政大学出版局 1986); Barloewen, Constatin von, *Zur Phanomenologie des Storporns* (Athenaum Verlag GmbH, 1981)
- ピリントン、サンドラ著 石井美樹子訳『道化の社会史』叢書 演劇と見世物の文化史(平凡社 1986); Billington, Sandra, *A Social History of the Fool* (The Harvester Press, 1984)
- ポーター、ロイ著 田中裕介ほか訳『狂気』(岩波書店 2006); Porter, Roy, *Madness: A Brief History* (Oxford UP, 2002)
- 松岡和子『深読みシェイクスピア』(新潮社 2011)
- ラーリー、ミュリエル著 濱中淑彦監訳『中世の狂気』(人文書院 2010); Laharie, Muriel, *La folie au Moyen Age. Xie-XIIIe siecles* (Le Leopard d'Or, 1991)



# 松江藩松平直政時代の鷹書と鷹匠

## 宮内庁書陵部所蔵の鷹書・鷹詞の研究

三 保 サト子

(島根県立大学短期大学部総合文化学科)

三 保 忠 夫

(神戸女子大学文学部日本文学科)

On Falconry Books and Falconry in the time of Feudal Lord Naomasa Matsudaira of Matsue Han  
A Study on Falconer's Terminology and Falconry Books Owned by Imperial Household Library

Satoko Miho, Tadao Miho

キーワード：鷹書 Falconry Books 鷹匠 Falconry 鷹詞 Falconer's Terminology

松平直政 Naomasa Matsudaira 宮内庁書陵部 Imperial Household Library

### 1. はじめに

宮内庁書陵部に所蔵される「鷹書」類の内の86.7%は、江戸時代後期の松江藩によって収集、制作・複写されたものである。当時における日本の「鷹書」類を網羅しようとしたもののようであり、これらは同藩放鷹文化史や集書活動の実態解明上、また、日本放鷹文化史、更には文学・語学研究のためにも好個の資料となる。本稿は、この「鷹書」類を通して、松江藩松平家の初代藩主松平直政に召出された鷹匠とその活動をたどりながら、関連する鷹書の年代的・内容的・日本文化史的性格を考えていきたい。

直政は、元和2年(1616)兄の越前国北庄藩主松平忠直より同国大野郡木本に1万石を分与され、同5年12月上総国海北郡姉崎にて1万石加へられ2万石となった(時に19歳)<sup>1)</sup>。更に、寛永元年(1624)6月越前大野郡大野城(5万石)、同10年4月22日信濃国安曇筑摩二郡松本城(7万石)に移り(33歳)、同15年2月11日出雲国において18万6千石を賜り、隠岐国において1万8千石を預けられ、松江城に住した<sup>2)</sup>。寛文6年(1666)3月3日歿(享年66歳)。

松江藩の放鷹は、第6代藩主松平宗行(在職は享保16年1731年10月~明和4(1767)11月。天明2年1782年10月歿)の時代まで、いわゆる御国流で行なわれてきた。だが、この頃には当藩の放鷹術は「退転」してしまったので、この御国流を「江戸流」に切り替えることとなった。宗行の跡を襲って新藩主となった治郷は、これを推進し、同7年当藩の「御鷹匠不<sup>はるざと</sup>残江戸流二被<sup>むねのぶ</sup>仰付<sup>はるざと</sup>」たという。

御国流が「退転」に及んだのは、いわば時の流れによるものであろう。だが、その退転ぶりを顕在化させたのは、第8代將軍徳川吉宗(在職は享保元年1716年8月~延享2年1745年9月。宝暦元年1751年歿)の登場とその施策であろう。吉宗の將軍としての評価は高く、日本放鷹文化史上にも、その存在は小さくない。松江藩の放鷹術は、儀礼上の問題も含め、その影響を少なからず蒙ったのである。

その御国流とは、何時、どのような形で松江藩にもたらされ、かつ、展開していったのであろうか。直政の一族についての研究報告は多く、祖父家康が放鷹を愛し、これを頻繁に行なったこともよく知ら

れている<sup>3)</sup>。直政も祖父に倣って鷹を放ち、これを好んだことは慥かである。その出雲移封後の正保4年(1647)12月、上総国海北郡姉崎において幕府御鷹場を下賜され<sup>4)</sup>、翌年正月22日鷹場法度を触れて鳥見・鷹師・餌指の鷹職制を設けている<sup>5)</sup>。しかし、彼の傍らにあって共に山野を駆け巡った御鷹方の具相については未解明である<sup>6)</sup>。本稿では、「鷹書」という具体的な資料のもとで直政に召出された御鷹方を洗い出し、松江藩松平家当初におけるその状況を窺ってみたい。以下に、宮内省式部職編纂『放鷹』(昭和6年刊、吉川弘文館)、宮内庁書陵部編『和漢図書分類目録』(昭和26年刊)を引くが、後者は『目録』と略称し、「163/1371, 『目録』、795」と函ノ号、頁を示すことにする。

## 2. 「鷹書」制作(伝授・相伝を含む)に関わった人物

「鷹書」とは、鷹狩に伴う技術、鷹飼養・薬方、儀礼などの種々のテーマを文字・図絵に著わし、雛形等の形で写し留めたものである。松江藩松平家の初期段階において、「鷹書」の制作に従事した人物として管見に入った範囲では下記があげられる。

### 1) 加藤一楽、加藤米之助

「加藤一楽」は、松江藩松平家初期の鷹匠である。同藩放鷹史における彼の位置付けにつき、書陵部蔵『鷹術部類書』(元文5年 1740 10月の序)の4冊本(163/932)、また、同6冊本(163/933)に、「鷹術達人」の一人として「慶長十五年比」の「加藤小平次入道一楽/伝書」と見える(後述)。彼の関係する鷹書に次がある。

『鷹脉秘書』 加藤一楽 写 (松平) 1冊 (163/1371, 『目録』、795)

原表紙に「鷹脉秘書」(直、左)、内題に「鷹脉秘書」(右傍「治」)<sup>(ママ)</sup>とある。小本。全7丁。「鷹脉見様」として「六脉ノ 眼の色、毛つや、餌喰、鳩揚様、たふるい、肉の善悪」のそれぞれにつき、口伝を述べる。奥に次がある(ノ印は改行部)。

「右脉見様之秘事、毛頭他見ノ他言有之間敷候、仍条々如件

加藤一楽ノ伝之

堀江佐次右衛門

享保二「酉仲春吉旦」(5丁オ) 5丁ウは白紙  
此主永井五之助(6丁オ、1行目)

右は、加藤一楽から堀江佐次右衛門に鷹術秘伝の相伝があったことを示す。だが、加藤一楽は、元禄2年(1689)に歿している(後述)。「享保二」酉(1717)仲春吉旦」の1行は、その後の文言であろう。佐次右衛門から某 これは、あるいは、「此主永井五之助」(文化13年 1816 9月歿)の父勘平(宝暦4年 1754 6月歿)か への相伝のあった年次かも知れない。勘平は第5代宣維・第6代宗行に、五之助は宗行・第7代治郷に仕えた鷹匠である(後述)。

とすると、一楽から佐次右衛門への相伝時の時日が明記されていないこと、また、「堀江佐次右衛門殿」という接尾辞のないことが問題となる。が、これらは佐次右衛門から某人への相伝時に消去されたかも知れない。「堀江佐次右衛門」とは、次項で言及する「古曆」と号した人物である。

『鷹之書拔書』 享和元年ノ加藤米之助 (松平) 1冊 (163/918, 『目録』、793)

原表紙(灰色・斜め押型文様)の外題に「鷹之書拔書」(簽、原、左)とある。縦22.3cm、横16.1cm。袋綴、楮紙。18丁、1面8行。漢字平仮名・片仮名交じり文。『放鷹』に、「加藤一楽鷹之書拔書 一ノ天和二年(1682)五月加藤一楽より堀江助八へ送れるもの。首に種々の呪文のこと、取飼のこと、符替りを知る歌、調葉のこと、鷹死する時季節により頭のむけ方の異なることを説き、次にノ 八重場に狩する人の箸鷹を手むきにせうと名をばいはましノ以下鷹に関する歌五十二首を挙ぐ。」(505頁)と解説される。奥書に次のようにある。

「右貴発執心源故、色々拔書集令相伝ノ者也、不可有他見候、以上

天和式

加藤一楽

五月日

【花押】

堀江助八殿

享和元酉年八月十一日酒井栄之助(より)らうつし取

加藤米之助(18丁ウ)

「堀江助八殿」とは、やはり、堀江佐次右衛門であろう。天和2年一楽から佐次右衛門への相伝がな

されたい。享和元年(1801)の「酒井栄之助」とは、松江藩御鷹方を勤めた酒井(式右衛門)家の4代目酒井真十郎周成をいう(文政9年9月歿)。「助八」「栄之助」といった名は通称である。「加藤米之助」とは、一楽の後裔で、年代、また、推測される職種からして6代目加藤小平治の弟良助(7代目加藤小平治の美濃衛の叔父)と比定される。寛政7年(1795)御鷹方見習、文政3年御鷹方頭取となり、同7年6月嗣子なく病死した笠原弾内(10代目)の末期名字相続をして11代目笠原良助となった(後述)。

次に、松江藩『列士録』から「加藤小平治 百石役組外 御内用方頭取」の条を引こう。

元祖 加藤小平治 本国不知 生国越前

一寛永年中親父於信濃松本 直政様親父為御鷹方被召出 新知二百石被下 之御鷹頭從富田久助殿御賞 / 嫡子承応元壬辰年親父御鷹方別被召出

一寛文七丁未年親父御者頭役被仰付御加増百石被下之 都合三百石御免之年号 御賞茶如

一天和二壬戌年親父如奉願隠居被仰付隠居料百石被下 号一楽

一元禄二己巳年九月十二日於出雲死

加藤一楽 本国不知、生国越前 は、寛永年中信州松本にて直政に御鷹方として召出されたとある<sup>7)</sup>。直政が、越前大野から松本に移封されたのは寛永10年(1633)4月であり、出雲に移封されたのは同15年2月11日であった。召出されたのは、この間である。また、双行細字注には、「御鷹頭從<sub>二</sub>富田/久助殿<sub>一</sub>御賞」とある。「富田久助」とは、公儀御鷹匠頭戸田久助のことである。この戸田家につき、『新寛政重修諸家譜』<sup>8)</sup>によれば、久助は諱を貞吉といい、某年祖父勝則の遺跡を継ぎ、台徳院(2代將軍秀忠、在職は慶長10年 1605 4月～元和9年 1623 7月)に近侍し、御鷹匠頭となり、しばしば加恩あって1280石余を知行した。寛永15年11月3日500石の地を加恩あり、同19年布衣を着することを許された。正保3年(1646)300石加増あって全て2080石を知行する。慶安2年(1649)5月7日(鷹匠)同心の員を増やされ、全て50人を預けられた。承応元年(1652)10月14日歿した。

一楽は、戸田久助さだよし貞吉の弟子であり、その推挙によって採用され、新知200石という待遇を給わった。直政は將軍家に願ひ上げ、その仲介なり口利きなりを賜ったのであろう。また、ここで一楽が銚考されたのは、彼の生国をも考慮してのことであろう。一楽は、松平忠直の旧臣かその縁者であった可能性もある。越前は、直政が育った地であり、父結城秀康・兄忠直の領国であった。元和9年2月10日忠直が豊後国府内藩の地に蟄居を命じられて後、その家臣の内には、弟忠昌・直政、長子仙千代丸のもとに引き取られる者もいた。

『列士録』における一楽の記録は11行ほどである。彼は寛文7年おんものがしらく御者頭役となって100石加増され(都合300石)、天和2年隠居し(号一楽、隠居料100石)、元禄2年(1689)9月12日出雲で歿した。

嫡子小平治(2代目)は、生国出雲、承応元年(1652)御鷹方へ召出された御免作 豊不。延宝元年(1673)御鷹方御免 勤之年数22ヶ年。天和2年親父の家督200石を下され、御次番を仰付けられた親父。[弟平左衛門一楽2男は、召出されて20石5人扶持を下され、父歿後の隠居料100石を下されたが親父、後に故あって改易となった。弟彦坂与三右衛門一楽3男は、兄平左衛門へ下され来たった20石5人扶持を下されたが、後に故あって改易となった親父。]元禄8年(1695)2月出雲にて歿した。3代目加藤久次郎は、生国出雲、元禄八年親父の遺跡を相違なく200石下されたが、後、難治の病氣となり、翌年親父願出て返上し、引き籠もり、宝永2年親父出奔した。

その嫡子加藤小平治(4代目)は、生国出雲、元禄9年親父の家督御合力米100俵を下され親父御留守居番組へ組入れ、その後、大御番組へ組替。正徳元年8月朔日御鷹從番組へ組替、御供廻。翌2年3月17日、享保5年3月12日、また、その後、両度親父、江戸勤番仰せ付けられる。以後、御次番、大御番組、札座御銀奉行、大御番組筆頭役、隠岐国郡代役(役料20俵)、役組外やくくみはずれとなり、寛延元年(1748)3月4日隠州渡海を仰せ付けられ、同年12月16日隠岐で歿した。5代目加藤小平治は、寛延2年2月19日父の遺跡米100俵を下され、大御番組へ組入れられた。同4年9月5日おん御切替で90石に成し下されたが、

明和4年閏9月21日古免通り米100俵に成し下された。(略) 寛政3年4月15日出雲で歿した。

寛延4年(宝暦元)9月5日の免御切替とは、藩の財政窮迫による藩士俸禄の改定をいう。それまでは4斗俵112俵半=100石として支給されていたが、この時より3斗俵100俵=100石として支給されることになった。藩士の俸禄は一律に三分の二に切り下げられ、小平治も100俵(400斗)から270斗に減俸されたのである。明和4年(1767)閏9月、もとの俸禄に復した。第6代藩主宗衍の時のことである。

加藤家の記録は、以後、10代目(慶応2年12月)まで続くが、6代目加藤小平治(文政8年7月26日歿)の弟良助は、治郷治世下の寛政7年(1797)7月6日御鷹方見習となり、文化9年11月18日御鷹方見習として出精するにつき3人扶持を下された。斉恒の代、文政3年(1820)2月21日御鷹方頭取となり、斉貴の代となった同7年6月16日笠原弾内(嗣子なく病死)の名字相続(遺跡10人扶持)を仰付けられ、11代目笠原良助となる。この家は、元祖を笠原半助 本国・生国共長門 といい、「寛永十七庚辰年<sup>ヲ</sup>歸<sup>リ</sup>於<sup>リ</sup>江<sup>ノ</sup>戸 直政様<sup>ヲ</sup>為<sup>シ</sup>御<sup>ノ</sup>扈<sup>ノ</sup>從<sup>ニ</sup>被<sup>シ</sup>召<sup>ラ</sup>出<sup>ス</sup>之、新知百五十石被<sup>シ</sup>下<sup>ラ</sup>之」と記録されている。笠原良助は、同12年12月6日鷹術指南役となり、御鷹御用で江戸表にも往復した。天保4年(1833)10月3日歿した。12代目笠原良助は、6代目酒井弾助の弟忠次郎を養子に入れたもので、安政3年(1856)7月12日御鷹匠方頭取役東会所懸<sup>リ</sup>合となり、同6年正月21日歿した。孫の13代目笠原庫八も鷹術に秀で、嘉永6年10月15日御鷹匠方本役を仰付けられた。安政6年(1859)3月20日父の遺跡20石5人扶持を下され、御留守居番組組入となった(安政2年度の『御給帳』に見えるのは、この人物である)。11代目笠原良助以下、斉齋の恩顧を被ったようだが、慶応2年12月18日の「御改革」によって御鷹匠方・家業は御免となる。

## 2) 堀江佐次右衛門

「堀江佐次右衛門」に関する鷹書は次である。

『鷹之書』 堀江<sup>(ママ)</sup>左次右衛門 写 (松平) 1冊 (163/1191, 『目録』、792)

原表紙(藍色、龍・亀甲文様)・原題簽(左)に「鷹之書 全」とある。表紙の次の料紙に「鷹ノ手引書」(墨書、旧内題カ)とあるが、今、表紙に接着されて表に見えない。縦25.0cm、横18.0cm。袋綴、楮紙。墨付8丁。1面8~9行。漢字平仮名交じり文。漢字に片仮名付訓。奥に「正徳二年(1712)/辰正月吉 堀江佐次右衛門ノ在判」(8丁ウ)とある。本文首は「鷹飼心掛は朝六時<sup>(より)</sup>居出<sup>シ</sup>朝之内そゝる心<sup>ヲ</sup>を付ノ餌を飼朝餌八五ツ夕餌八八ツ時飼細掛山帰<sup>リ</sup>片餌飼ノ百日に一度も有間敷<sup>(ル)</sup>ノ(後略)」とあり、以下、鷹の飼養方を述べ、また、「鷹類字」として「一角鷹 青鷹 大鷹 兄鷹」(6丁ウ)、「鷹立之次第」(8丁オ)、「大緒本方寸法之事」(8丁ウ)、「鞭本方寸法之事」(9丁オ)等について述べる。

『真要集』 堀江左次右衛門 享保10年(1725)

自筆 (松平) 1冊(163/920, 『目録』、785)

原表紙(薄い藍色、無地)の外題(直、後、左)・内題・尾題に右のようにある。内題下には「堀江氏編輯」ともある。縦25.4cm、横17.1cm。袋綴、楮紙。墨付9.5丁。1面11行。漢字平仮名交じり文。漢字に朱筆で片仮名付訓、注文を付す。

奥の尾題下に「堀江左次右衛門<sup>(ママ)</sup>」(花押)とあり、次行に「享保十<sup>(ママ)</sup>巳年ノ 永井平次殿<sup>(ママ)</sup>」(10丁オ)とある(この後、10丁ウ、及び、11、12丁相当部は刃物で切り取った形跡がある)。享保10年、左次右衛門から永井平次に相伝したものらしい。「永井平次殿<sup>(ママ)</sup>」とあるが、これは後述の「永井平治(四代目永井庄左衛門)」に同じであろう。

本文首部は、「一鷹始る事 磨伽多国日本に始る事仁徳天王よりノ已来也(中略)ノ一鷹は八幡諏訪春日の沙門のそんそう也故に朝夕ノ手にふれ取りあつかふとも手洗うかいもせずして八努々ノ取あつかふへからず是第一鷹師の肝要なり(略)」とあり、以下、「一大鷹仕懸る事」「一鷄巢鷹入掛一大事也」~「一鷹薬飼」などを述べる<sup>9)</sup>。

『鷹脉秘書』 加藤一楽 写 (松平) 1冊 (163/1371, 『目録』、795)

『鷹之書拔書』 享和元年ノ加藤米之助 (松平) 1冊(163/918, 『目録』、793)

これらは先の「加藤一楽」の条で言及した。

『羽合寄方等抜書』 写 (松平) 1冊  
(163/1336, 『目録』、797)

表紙・題簽肩に「堀江佐次右衛門之鷹書歟」とある。松江藩士の手になるか。羽合、拳、身の堅めやう等、18ヶ条を説く(『放鷹』、541頁)。

さて、『列士録』によれば、堀江佐次右衛門の父佐次右衛門は生国丹後といい、正保3年(1646)出雲で直政に御鷹方として召出され、13石3人扶持を下された。元禄12年10月20日出雲で歿した。この本家を嗣いだのは、兄弟の内の弟佐次右衛門(当面の人物)で、兄又兵衛(本国不知、生国出雲)は、万治元年(1658)直政に御鷹方見習を仰付けられ、天和2年20石5人扶持で御留守居番組に御取立となり、元祖堀江又兵衛の家(130石、格式御者頭)を興した。元禄11年まで御鷹方を勤め 勤之年数41ヶ年、宝永4年2月隠居(号静休)、享保3年4月24日出雲で歿した。その2代目堀江金大夫は、元禄6年正月から同11年3月まで御鷹方へ勤仕した。

当面の弟佐次右衛門は、本国不知、生国出雲といい、直政の晩年、寛文元年(1661) 12歳で御鷹部屋に罷り出た。同4年召出されて金5両3人扶持を下され、御小袖3・御脇差を拝戴した。同7年金1両増を下された。第3代藩主綱近の延宝4年(1676)月照寺御番勤務、同5年幸松様(第2代綱隆の5男幸松。後の第4代吉透)御部屋勤仕を仰付けられた。同7年御鷹部屋へ勤仕し、御鷹1居仕うことを、また、貞享元年大鷹を仰付けられた。先に加藤一楽に学ぶところ大きかったであろう。元禄元年前半御鷹相止によって八幡出雲郷橋掛直しの奉行、同2年月照寺御破損奉行、同年仁多飯石大原郷目付役、同3年京橋掛直しの元締、同4年三保関破船の濡米入札払、同5年御作事方役などを仰付けられた。同6年5月16日御鷹方へ勤仕し、同7年12月御褒美銀2枚下された。同10年江戸城北御丸御普請御手伝の節、江戸へ罷り越して大工方を勤め、翌年3月10日御褒美御給1下された。元禄12年父の跡式13石3人扶持を下され、御鷹方へ勤仕した。元禄15年御取立となって20石5人扶持、御留守居番組へ組入となった。同16年松原定右衛門<sup>10)</sup>時に御鷹方支配の江戸留守中、御役所内諸事代判を仕るよう仰付けられた。翌々

年(宝永2年)12月14日その出精により御目録拝戴し、享保4年10月13日新知100石を下された。同7年野合郷方勤め御免となり、同11年(1726)2月11日病により願出て御鷹方勤仕御免となった。同年8月3日願出て隠居し「古曆」と号し、翌年8月5日出雲で歿した(78歳)。佐次右衛門は、直政から第5代宣維<sup>のぶすみ</sup>まで5代の藩主に仕えた。上記の写本3点はその晩年の書写・編書になる。

次の2代目堀江佐次右衛門は、享保11年8月3日父の家督100石を下され、御留守居番組組入、同17年6月23日御鷹部屋勤仕、延享4年12月26日御鷹方頭取となる。寛延3年5月29日御鷹方相止となるが、宝暦2年3月23日御鷹方御用、御鷹部屋勤仕となり、同7年10月5日格式役組外を仰付けられ、同12年(1762)8月2日出雲で歿した。3代目堀江軍五右衛門は、同12年9月23日父遺跡100石を襲い、大御番組へ組入れられ御鷹方を務めたが、明和2年5月29日御鷹部屋出勤御免となり、安永5年8月13日故あって大原郡へ蟄居させられた。以上、「堀江佐次右衛門」に関する記録である。

ところで、先にも触れた『鷹術部類書』という書は書陵部に3本所蔵されている。これは、「鷹術達人」の所説を収集、整理した鷹術の部類書で、『放鷹』にも詳しく解説されている(587頁)。元文5年(1740)10月の序をもつが、編者は未詳である。A本は、『鷹術部類書』6冊(163/933)で、語類・法義・薬方の3部から構成され、それぞれを上下に分かって6冊仕立てとする。完本であろう。B本は、『鷹術部類書』4冊(163/932)で、これは薬方の部(2冊)を欠く。A、B2本は、表紙(紺色、草花の押型文)も寸法(縦25.4cm、横18.1cm)も同じである。C本は、『鷹術法儀之巻下』1冊(163/1242)で、これは法義の部の下冊だけの零本らしい。

A本、B本の2冊目、即ち、「語類之巻」下冊の末尾に次のようにある。本文中に引用した「鷹術達人」の書につき、年代順に並べたものである。

- 1 鷹術達人
- 2 文明十八年(1486) 比
- 3 江崎山城入道 伝書
- 4 永正三年(1506) 比

- 5 雀部藤右衛門入道宗淵<sup>(マ)</sup> / 伝書  
 6 慶長十五年(1610) 比  
 7 依田十郎右衛門守広<sup>(マ)</sup> / 伝書  
 8 加藤小平次入道一楽<sup>(海)</sup> / 伝書  
 9 野間善兵衛入道安心 / 伝書  
 10 堀江左次右衛門<sup>(マ)</sup> <sup>(字形不詳)</sup> / 伝書  
 11 一右之外伝書多といへとも伝来の人不相知ゆへ其性  
 12 名を記すして或書<sup>二</sup>曰とす

右はB本による(頭部の数字は便宜的に付した行数)。人名の部分には朱引、年号や「伝書」の2字には朱で□印が付されているが、今、割愛した。本文中には他にも「政頼<sup>一</sup>書伝云」「渡部書伝云」「山本氏伝云」などに見えるが、著者にとって列挙すべきは右であつたらしい。但し、A本の場合は9行目までで10行目以下は存しない。A本、B本いずれが本来の形か未勘であるが、堀江佐次右衛門(享保12年8月歿)の年代から推して、10行目以下は同人の子弟・弟子筋の後補によるものとも考え得る。<sup>(字形不詳)</sup>「」の箇所も不審な筆遣いで判読できない。

本書は、右のような『鷹術達人』の伝書を引用しながら編述されている。その際、多く、「依田氏云」「野間安心曰」のような形で引用されている。ところが、ひとり堀江佐次右衛門の伝書については「堀江師云<sup>(師)</sup>」と「師」字を添えて引かれている。よって、編纂者は松江藩の、堀江佐次右衛門の子孫か弟子かであろうと推測される。これがその2代目、3代目の可能性もあるが、未詳である。

### 3) 永井六之助、永井平治、赤井角兵衛

「永井六之助」の関係から見ていこう。

『鷹以呂波』 赤井角兵衛 享保8年写 / 永井平治 (松平) 1冊 (163/1339, 『目録』、786)

原本の外題は、「鷹いろは」(原表紙・濃紺、後題籤、左)とある。全18.5丁。奥に、「右之鷹以呂波一卷者永井六之助書也 / 赤井角兵衛伝之而今亦授予、依写 / 焉者也 / 于時享保八<sup>癸卯</sup>二月日 永井平治<sup>(花押)</sup>」(19丁オ)とある。この裏面は、意図的に切除しようだが、何か書いてあったのかも知れない。花押は本来のもので模写ではない。永井六之助の成書

『鷹いろは』は、赤井角兵衛之に伝へられ、享保8年(1723)2月永井平治の伝写するところとなった。内容は、鷹のなづけ方を手ほどきするもので、『放鷹』に、「鷹のなづけ飼様、ひねり教へやう、引鳥を使ふやう、口餌、野守鏡等のことを説く。」(544頁)と解説される。

さて、「永井六之助」とは、2代目永井六之助のことであろう。『列士録』によれば、その父は元祖永井勘左衛門、即ち、後述の元祖永井平之丞の実父である。本国・生国共に信濃といい、寛永12年<sup>癸卯</sup>信濃松本において直政に御鷹匠として召出され、米70俵を下された。同19年<sup>癸卯</sup>新知100石を下され、それ以後、50石加増されて都合150石となった。記録の内には、「二男平之丞明暦元乙未年<sup>癸卯</sup> 直政様<sup>江</sup>被召出」とも見える。父と共に直政に仕えたこと知られる。寛文3年4月13日出雲にて歿した。

勘左衛門の嫡男が2代目永井六之助であり、元祖永井平之丞の兄である。生国は信濃で2代目「永井六之助」を襲った。寛永19年<sup>癸卯</sup>出雲で直政へ御鷹匠として別に召出され、小判3両を下され、正徳2年<sup>癸卯</sup>新知100石、以後、100石加増、また、50石加増され、都合250石を下された。元禄10年5月29日願い出て隠居が許され、隠居料100石を下された。号養花。同14年(1701)9月2日出雲で歿した。

元祖が「六之助」を名乗らなかつた証はないが、ここは2代目永井六之助を考えておきたい。「永井六之助」は、以後、11代目まで続き、明治を迎えるが、これらの代と御鷹方との関係は認められない。

次に、「赤井角兵衛」であるが、これは元祖赤井角兵衛か2代目赤井角兵衛か、2人の内、いずれに該当するか、はっきりしない。『列士録』によれば、元祖赤井角兵衛は、本国丹波、生国摂津といい、寛永19年<sup>癸卯</sup>直政に雇用され、御鷹匠を勤めた。彼は、もと、三谷権太夫<sup>一)</sup>方で鷹役を勤めていたが、鷹の用事で御鷹部屋に罷り出たところ、直政が遊ばされ、その御前で鷹居<sup>すえ</sup>を仰せ付けられた。その技量が御意に入り、早速に御雇いになったという。明暦元年(1655) <sup>癸卯</sup>網隆に召出され、15石4人扶持を下された。同年<sup>癸卯</sup>直政に御雇され、御切米5石下され、合わせて20石4人扶持となった。江戸御供数度、上総

御鷹場へも度々罷り越し、御用を勤めた。寛文7年(1667) 𨔵御取立、新知100石下された。延宝3年4月<sup>日不知</sup>御鷹方御免、御番方を勤め、同7年<sup>𨔵</sup>豊姫様江戸へ御越遊ばされるにつき、御供(道中御簾附)を仰付けられた。左記の元祖永井平之丞より年上だが、御鷹方の同僚ではあった。

その嫡子赤井角兵衛(2代目)は、寛文7年8月25日に綱隆に御雇され、御鷹部屋に罷り出た。延宝元年<sup>𨔵</sup>召出され、金3両3人扶持を下された。同6年<sup>𨔵</sup>御鷹受取のため江戸表へ罷り越すように仰付けられた。貞享元年(1684)12月25日御取立、金3両5人扶持を下され、御留守居番組へ組入れられた。同四年<sup>𨔵</sup>御鷹方御免となった。元禄5年(1692)5月27日父遺跡100石下され、御鷹方出勤を仰付けられた。正徳6年<sup>𨔵</sup>御鷹方御用で江戸表へ遣わされ、享保4年10月12日加米30俵下された。同10年7月27日病気につき、願い出て御鷹方勤仕御免となり、同11年(1726)正月15日出雲にて死去した。以後、3代目赤井角兵衛・4代目赤井久右衛門も御鷹方に勤めたが、5代目赤井角蔵は、家業(御鷹方)怠慢につき、御番方へ配置換えとなった。

6代目赤井角兵衛・7代目赤井林左衛門たちも御鷹方に勤めた。就中、6代目に関しては下記がある。

『大鳥肉当<sup>テ</sup>秘密伝<sup>キ</sup>』 古谷定右衛門 写(松平)1冊(163/1070, 『目録』、781)

寛政の頃(7年8月とも)、古谷定右衛門<sup>したた</sup>が認められた大鳥肉当の秘伝を弟子の菊川好陽に相伝し、菊川は、寛政9年(1797)8月これを赤井角兵衛に伝えたというものである。菊川も松江藩御鷹方の武士であった(別に「菊川好陽(伊太郎)」の条で述べる)。

7代目赤井角兵衛も御鷹御用に功績があった。8代目赤井林左衛門・9代目赤井熊蔵は、時節柄、警衛・防備関係の役職を担当することとなった。

次に、「永井平治」とは、享保8年という書写年次からして、その4代目の永井平治、即ち、永井庄左衛門をいうのであろう。『烈士録』によれば、「元祖 永井平治」の元祖は永井平之丞 本国信濃、生国出雲 という。平之丞は、永井勘左衛門(元祖)の2男に生まれ、明暦元年(1655) 𨔵出雲において直政に召し出され、御次に勤仕した。万治3年

(1660) 𨔵20石5人扶持を下され、御鷹方を仰付けられ、御留守居番組へ組入となった。明暦3年江戸御供仰付けられてより、毎年往来して都合16度、その他、大坂・甲州への御使を度々勤めた。綱隆の度々の江戸御供、上総姉崎の御鷹場御用を仰付けられ、大坂の御使者も勤めた。延宝3年(1675) 𨔵江戸勤番を仰付けられ、姉崎御鷹場へ罷り越す御用を勤めた この年、御鷹場は幕府に返上する 。また、御番方、豊姫様江戸御供、掛合在番(19年間)を勤め、享保2年8月16日願い出により隠居を仰付けられた。号楽睡。同5年(1720)5月15日出雲にて歿した。

この家督は、享保2年8月16日2代目永井庄左衛門が嗣いだ(20石5人扶持・御留守居番組組入)。鉄炮御用、唐船御用として勤めたが、同14年(1729)正月25日出雲にて病歿した。亡兄の病中願い置きにより、同年3月18日永井勘六(元祖平之丞の2男)が遺跡を嗣ぎ、3代目となる。だが、同11月13日出雲で歿した。平之丞の3男永井庄左衛門は、享保4年11月<sup>𨔵</sup>願出により御鷹方を仰付かっていたが、同14年12月16日亡兄の病中願い置きによりその遺跡20石5人扶持を下され、御留守居番組へ組入れられ、4代目となった。寛延2年12月9日御番方10ヶ年出精相勤めるにつき御裕1下された。同4年9月5日免御切替につき、73石を成し下された。宝暦9年7月18日御番方10ヶ年出精相勤めるにつき御帷子1下された。明和4年閏9月21日古免の通りと仰付けられ、20石5人扶持を成し下された。同6年7月9日10ヶ年御番方皆勤につき御帷子1下された。同7年3月18日願い出によって隠居し、無心と号した。天明4年7月26日出雲にて歿した。以下、5代目、6代目、7代目(共に名は運平)、8代目平治と続いたが、御鷹方の務めに就いていない。

こうしてみると、享保8年時に御鷹方と関わっていたのは、4代目の永井庄左衛門しかいないことになる。2代目永井庄左衛門、その他の人物については御鷹方との関係が認められないようである。先の加藤一楽の条に「永井五之助」とあるのも、また、「堀江佐次右衛門」の条にあげた書陵部蔵『真要集』1冊(163/920)の奥に「享保十<sup>ニ</sup>巳年ノ 永井平次<sup>(マ)</sup>殿<sup>ハ</sup>」とある「平次」も右4代目永井庄左衛門

をいう。

#### 4) 野間善兵衛入道安心

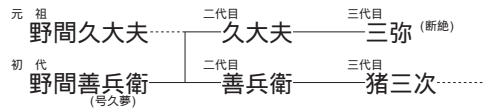
「野間善兵衛入道安心」は、直に「鷹書」の制作に関わったわけではなく、「鷹書」の中に「鷹術達人」として見える人物である。即ち、先に言及した宮内庁書陵部蔵『鷹術部類書』4冊(163/932、『目録』、799)の第2冊(語類下)の奥に、「鷹術達人」の1人として「野間善兵衛入道安心」の名が見えた。その前行に「加藤小平次入道一楽」、次行に「堀江左次右衛門」の名が挙がっているから、2人に同様、やはり、松江藩の人物かと推測される。しかし、松江藩『列士録』に、このような記録をもつ人物を見出せない。ただ、同書に「野間善兵衛(号久夢)」、また、その2男善兵衛という名が見え、これが気になる。代々、御鷹方と関わりがあったような記録が見えないが、直政に召出された家系ではある。

初代善兵衛につき、『列士録』に本国・生国の記載はなく、「織田信長公御家来野間忠右衛門三男」、「越前黄門秀康卿<sup>江</sup>奉仕」とある。次いで一つ書で「一新知百五拾石被下之<sup>年号月日</sup>、ノ一御加増五百五拾石被下之、都合七百石、御徒頭被仰付<sup>年号月日</sup>」云々と見え、後、御鷹從御番頭役、大御番頭役を勤め、寛文5年(1665)隠居(隠居料300石)、久夢と号し、同7年正月7日出雲で歿した。明確な文言はないが、この「一新知百五拾石被下之…」以下は、松平直政に仕えた後の人事記録となろう。

秀康は、慶長12年(1607)6月8日に歿し(34歳)、跡を忠直が襲った。善兵衛が秀康に仕えたのは十代の頃と見られ、秀康の歿後は忠直に仕えたであろう。兄忠直の庇護下にあった直政は、慶長19年大坂冬の陣に奮戦し(14歳)、翌元和元年夏の陣に戦功を挙げた(越前家第3隊)。祖父家康は、その功を賞して手ずからその打飼袋(鷹の餌入)を与え、忠直は、越前大野郡木本1万石を分け与えた。直政は、同5年6月叙爵されて従5位下出羽守となった。同9年2月10日忠直は豊後国大分郡萩原村に蟄居を命じられたが、直政は、この8月6日家光將軍宣下の際、その上洛に随行して従4位下に叙された(23歳、『東武実録』巻10)。翌寛永元年6月、越前大野5万

石に加増移封され、同3年8月19日侍從に任じられた。同10年4月には信濃国安曇・筑摩両郡で7万石を賜わり、松本城に移った(33歳)。転封加増に伴い、直政は家臣団の充実に努めなければならなかった。秀康・忠直の越前宗藩系家臣団(御譜代之者)からは、重臣となって直政を支えた乙部九郎兵衛可正・朝日丹波守重政・神谷源五郎富次、その他が採用された。「御鷹方」関係でも、加藤一楽、その他のように、寛永年中(1624~1643)から召出された例が目立つ。右の初代善兵衛は、この頃、直政に召抱えられた可能性がある。善兵衛の縁者(あるいは、兄か)に「元祖 野間久大夫 本国尾張、生国越前」があり、これも「寛永年中<sup>果</sup>於越前大野 / 直政様<sup>江</sup>被召出米百俵被下<sup>様式等</sup>」と『列士録』にある。

初代善兵衛の嫡子 生国出雲 は、「明暦2年(1656) <sup>果</sup>別<sup>ニ</sup>被召出<sup>製作等</sup>」て、元祖野間久大夫の跡を継いで2代目久大夫と称した(この後の3代目は三弥と称したが、拜知召上げとなり、家は断絶した)。同2男善兵衛 生国出雲 は、寛文5年<sup>果</sup>に父家督400石の内の200石を下され、江戸勤番となり<sup>年号月日</sup>、貞享2年(1685)7月4日武蔵で歿した。直政(寛文6年2月歿)晩年に父と共に仕えたらしい。



こうして、当面の「野間善兵衛入道安心」は、初代善兵衛か、2代目善兵衛かに比定し得るのではないかと考えられる。もっとも、前者は「号久夢」といい、これが「入道安心」と抵触するのではないかと問題がある。一般の号と道号・法名とは必ずしも同一ではないが、隠居を願い出る場合の「号」はかなり公的なものである。やはり、これが問題であるとすれば、2代目善兵衛を候補として考えたい。

因みに、この後裔となる7代目の善兵衛 生国出雲 は、藩主第6代宗衍、第7代治郷、第8代斉恒の代に御右筆、また、「入木道持明院家御門弟<sup>ニ</sup>被仰付」(寛政7年8月)、「手跡<sup>書</sup>書式指南」を務めた人物である。御書物写、兵学御書物写、兵法御秘書写



などをも務め、文化5年(1808)10月11日出雲にて歿した。入木道持明院家は、『鷹経弁疑論』、『新修鷹経』などの書写本を遺した持明院基春(天文4年1535歿、享年82歳)を祖とする。放鷹関係の書籍類を書写している可能性もあろう。

一方、『新訂寛政重修諸家譜』<sup>12)</sup>巻986(藤原氏、支流)の「野間安信 忠右衛門」の条によれば、この人物は、織田右府(信長)に仕えた今の『呈譜』、重信に作る。息重安 忠左衛門、今の『呈譜』、忠右衛門に作る。は、東照宮(家康)に仕え、天正18年関東御入府に伴って武蔵国豊嶋郡の内に采地を賜り、元和3年歿した(享年86歳、法名宗心)。重安の1男重久は、天正10年東照宮に拝謁したが、落馬で身を損なって奉公できず、30歳で死んだ。この孫重吉は、御鷹師を務め、寛永14年12月8日家を継ぎ、15年家光にまみえ奉った。

重安の2男政次は、東照宮に仕えて元和4年遺跡を継ぎ、同5年12月豊嶋郡の内にして150石を加えられ、同6年2月歿した(享年55歳、法名道忠)。3男は重起 権兵衛、4男は重成 野間金三郎成澄が祖。金三郎、金左衛門、5男は善正 善兵衛 といひ、この善正の条に「松平出羽守が家臣となる。」との注記がある。この「松平出羽守」とは、年代から推して叙任後の松平直政のことと見られ(元和5年6月従5位下出羽守叙任)、とすれば、この5男こそ、右の初代「善兵衛」(または、その2男の2代目善兵衛)に相当する人物かと考えられる。『諸家譜』には、この子孫についての記載は全くない。「松平出羽守が家臣となる」と同時に野間家の『家譜』から分けられたのであろう。但し、『列士録』には「野間忠右衛門三男」とあった。同書は、専任右筆の担当する一藩の公的人事記録である。だが、直政時代ともなれば、年月日や擬作等につき、「不知」と記されることも多い。誤写・誤伝、あるいは、修訂などもないとはいえないであろう。これは、幕府人事記録や諸家譜等においても同様である。

政次の嫡子政成 藤市郎 は、慶長18年より秀忠に仕え、元和6年5月8日遺跡を継いで御鷹師となり、寛永2年12月11日采地の御朱印を下され、新墾の田を合わせて270石余を知行し、飛鳥山の林

を賜った。正保3年11月8日御鷹御用で武蔵・上総・下総等の諸国に赴いた。後、御裏門切手番の頭に進み、明暦2年9月17日歿した(享年56歳)。弟正道は駿河大納言忠長卿に、同正勝は尾張大納言義直卿に仕えた。政成の嫡子正利 与五右衛門 は、正保元年家光に拝謁し、明暦2年(1656)12月21日遺跡を継ぎ、戸田久助が支配となった。万治元年(1658)7月6日歿(享年26歳)。この「戸田久助」とは、秀忠に近侍して御鷹匠頭(千駄木組)を勤めた戸田久助貞吉<sup>13)</sup>をいう(既出)。嫡子正信 市之助、藤右衛門 は、万治元年閏12月18日遺跡を継ぎ、後、御鷹師となった。天和2年3月21日小十人に移り、享保元年閏2月6日歿した(享年60歳)。

江戸時代初期から享保期にかけて、この家系からは幕府の御鷹師を務めた人物が出ている。重安の孫重吉も、政成 正利 正信と続く代々も御鷹師を家業とした(この後も家系は続くが、御鷹師という文言は見えない)。つまり、「松平出羽守が家臣とな」った善正 善兵衛 には、公儀の御鷹師を家業とする近親者がいたのであり、彼自身もそれなりの鷹術の達人であった蓋然性がある。むしろ、こうした近親者や御鷹匠頭戸田家の関与によってこの召出しが可能となったとも考え得る。

### 3. 「鷹書」制作を支えた人物・環境

「鷹書」の制作やその伝授・相伝に直に関わった人物を見てきた。こうした「鷹書」類が成立するには、まず、それなりの人的環境が必要である。彼らの背後にはどのような人物がいたのであろうか。検討資料が乏しく、この全体像については未だ十分に把握できないが、『列士録』により、直政時代の御鷹方として管見に入ったところをあげてみよう。

「大嶋八右衛門」は、「大嶋八右衛門 雲久孫組付」家の元祖で、本国・生国共信濃といい、「寛永二十癸未年御取立新知七拾石被下之御鷹方被仰付」となった。これに先立ち、「一直政様江於信濃松本為御鷹匠被召出 新知式百石被下 / 一寛永十五戊寅年出雲御入国之節御供仕罷越御切米十三石三人扶持被下之」と記録され、慶安2年7月朔日出雲にて歿した。2代目五左衛門は、父とは別に御

鷹匠として召出され、慶安2年御取立てとなったが、嫡子は故あって追放となった。この家は、五左衛門の2男八左衛門(万治3年2月「直政様御代御鷹方<sup>江</sup>御雇相勤之」)の子八右衛門(元文5年1740 御取立)が、新しく元祖となって慶応4年まで続いた。

「榑崎作右衛門」は、「榑崎七兵衛 八拾石 役組外」家の元祖で、本国・生国共近江、「寛永年中<sup>年</sup>於越前大野 直政様<sup>江</sup>被召出新知式百石被下<sup>勢</sup>」と記録される。後、200石加増されて御番頭役となり、慶安2年江戸勤番を勤め、万治元年正月12日出雲で歿した。嫡子七兵衛 生国越前 は、寛永4年越前大野にて直政へ「御鷹方」として召出された。同15年新知100石、万治元年父遺跡200石下され(都合300石)、旅役数度勤め、寛文3年正月13日摂津で歿した。3代目作右衛門 生国出雲 は、寛文2年直政に「御鷹方」として別に召出され、同3年父跡式200石下されて大御番組へ組入れられ、御鷹方御免となった。大御番組筆頭役となり、元禄12年4月21日出雲で歿した。以下、11代目作右衛門までの記録があるが、御鷹方には関与していない。

「武藤平太夫」は、「武藤平太夫 百石 組付」家の元祖とされる。本国・生国共美濃で、「寛永八辛未年於越前大野 直政様<sup>江</sup>為御鷹方被召出之」と記録される。同12年新知100石下され、寛文6年御鷹方御免、同9年加増50石、延宝3年2月26日出雲で歿した。嫡子弥三右衛門 生国出雲 は、寛文5年直政に「御鷹方」として父とは別に召出され20石5人扶持を下され、延宝4年4月遺跡150石下され、大御番組に組入れられ、御鷹方御免となった。元禄11年6月大御番組筆頭役仰付けられ、同14年8月4日歿した。以下、8代目平大夫までの記録があるが、御鷹方には関与していない。

「井上仁右衛門」は、「井上織衛」家の元祖で、本国不知、生国出雲といい、万治2年(1659)9月10日直政へ「御鷹方」として召出された。この父井上九郎右衛門は生国筑前で、寛永16年直政に「御鷹方」として召出され、天和元年12月20日出雲で歿した。

父九郎右衛門の跡は第九郎右衛門が嗣いだ。弟も延宝元年御鷹方として召出され、宝永3年御鷹方御免となった。2代目仁右衛門 生国出雲 は、元禄16年御鷹方見習を仰付けられ、享保7年2月23日父の家督20石5人扶持を下され、御鷹方唯今まで通り、御留守居番組へ組入れられた。寛保3年11月12日御鷹羽合方を仰付けられた。延享四年12月26日御鷹方御減少につき、御番方御雇を仰付けられ、宝暦2年6月26日隠居(号一心)。

「酒井与五右衛門」は、「酒井祖左衛門 組付」家の先祖で、生国信濃という。寛永7年信濃松本において直政へ「御鷹方」として召出され、24石4人扶持を下された。上総御鷹場に詰め、大坂へも御鷹御用をし、江戸往来も数度であった。有馬中務大輔(久留米藩第4代藩主有馬頼元)へ進上する御鷹を護送した。元禄6年11月11日出雲で歿した。以下、代々御鷹方・御鷹方頭取・鷹術指南などとして勤務してきた。

「永井六之助」の父「元祖永井勘左衛門」は、本国・生国共に信濃といい、寛永12年(1635)信濃松本において直政に御鷹匠として召出された(六之助は同19年出雲にて召出)(既出)。

右、記録に名を留める人物を見てきた。これらは「御鷹方」として主君に仕えた藩士であった。この一方、やや立場を異にする家老格の「鷹場御免」という問題にも注意される。例えば、次がそれである。

「乙部九郎兵衛」家は、代々松江藩松平家の家老を勤めた家である。その元祖は御鷹2居を拝領し、「鷹場御免」を賜わったという。即ち、『列士録』によれば、元祖乙部九郎兵衛 本国伊勢・生国美濃は、慶長8年結城秀康に新知300石で召出された。父掃部<sup>大久保加賀守殿</sup>は同年秀康に召出され、先に800石下されていた。九郎兵衛は、忠直の大坂両御陣に御供し、元和5年12月28日忠直から直政へ付けられた。同7年3月嫡子も直政の御児小姓となった。直政は、寛永元年6月越前大野拝領、次いで同15年2月2日出雲拝領となった。九郎兵衛は先行して御城を受取り、直政の入部を待った。同4月加増されて都合5千石となった(内1千石与力)。同16年「御鷹二居拝領之、且又出雲郡平田大川筋、不

残鷹場御免」とある。正保元年12月17日「家来鷹飼遠山市郎左衛門<sup>左衛門</sup>」が伯父・弟の仇討ちをしたとも見える。慶安2年6月8日出雲で歿した。

3代目乙部九郎兵衛 生国出雲 も、寛文4年「同九月<sup>日不知</sup>御鷹拝領之、意宇郡忌部平原・嶋根郡佐陀・古志・古曾志・永井、鷹場御免」といい、直政～綱近に仕え、元禄6年9月3日出雲で歿した。

この家は、以下、幕末の10代目乙部九郎兵衛可時まで続くが、もはや放鷹関係の記事は見えない。

家老格の放鷹に関しては、先に元祖赤井角兵衛 本国丹波・生国撰津 が、仕置役（家老）三谷権太夫方の鷹役であったことを見た。このような松江藩の家老格における放鷹は、資力を有していたとしても勝手にしない得るものではない。家格や功績によって藩主から賜わる一種の褒賞であり、特権であった。

平和の打ち続く時代において、鷹狩（放鷹）は、獵師の生業は別として、誰にでも許されてはいなかった。禁野・鷹場は、庶民の生活、中でも農水産の業に影響するところが大きかったからである。鷹狩は、将軍家や藩侯などの特権階級に行なわれ、その意義も儀礼上、礼法上のそれに移行しつつあった。『徳川実紀』には、「紀伊黄門狩場より使もて鷹を献ぜらる。」（『徳川実紀』、第8篇、「有徳院殿御実紀」巻52、享保16年10月12日。『新訂増補国史大系』、577頁）、「又松平出羽守治郷はじめ五人へ御鷹の雁を賜ふ。」（『続徳川実紀』、第1篇、「文恭院殿御実紀」巻29、寛政12年11月2日。同、446頁）といった記事が目立つ。「鷹の鳥」「鷹の雁（鶴、白鳥など）」は、既に格式や栄誉を象徴するものとなっていた。勿論、鷹飼養のための経費や人件費も決して軽微なものではなかった。家老格の放鷹は、直政時代であるから可能であったのかも知れない。

以上に、「鷹書」制作を支える人的環境を探った。『列士録』の悉皆調査を踏まえたならもっと確実なことがいえようが、今は一端に留める。

#### 4. おわりに

松江市八幡町の平浜八幡宮に直政の奉じたとされる『鷹図絵馬』一対が所蔵されている。向かって右

側の絵は、左向きの白鷹 大緒は白・赤 を背面から、また、左側の絵は、右向きの鷹 同、赤・緑 を正面から描いた「架鷹」の板絵である。共に、「奉掛八幡大菩薩御宝前」（上部に横書）、「日寛永歳 舍庚辰蜡月吉祥 日 / 刺史敬白」（前者は右端に、後者は左端に縦書）との墨書がある。奉納者も絵師もその名は明示されていないが、寛永17年12月における出雲国の「刺史」とは松平直政をにおいて他にはない（「蜡月」とは、<sup>さいさい</sup>蜡祭 <sup>二年の農後に</sup>万神を祭る に因む陰曆12月の異名）。入部して1年10ヶ月後のこととなる。絵師は、狩野永雲（元禄10年 1697 正月6日 武蔵にて歿）では若過ぎる。彼も鷹絵に委しかつたはずであるが、年代的にはその1、2世代前の筆になろう。永雲は、狩野安信の門弟で、第2代藩主綱隆（延宝3年 1675 閏4月歿）に仕えた。

この鷹絵は、新国守としての直政の立場を象徴するかのようである。大御所家康の直系という矜持、鷹を愛した祖父家康への想いなども籠められていよう。既に美術史研究の方面からの検討<sup>14)</sup>もなされているが、しかし、こうした絵については、「鷹絵」「架鷹」という観点からの分析が必要である。これらは単なる鷹を描いたものでなく、希代の逸物、または、愛鷹を写したものである。鷹の能力、相、羽の符、体形などには一定の、あるいは、それなりの評価の基準があり、それを満たした故のこの鷹絵である。勿論、鷹の個体上のことばかりではない、それに付随する問題もある。鷹の据え様、大緒の繫ぎ様・結び様、色合い、架のしつらい・幕、その他、作法・儀礼に従って描き、筆を運んだものが鷹絵である。我々は、それを見究め、読み解かなければ、鷹絵を理解したことにはならない。口承も失せ、伝承も乏しくなった現在、こうした諸問題を解きほぐすには「鷹書」類に依拠する他はない。「鷹書」といえば、文字資料が多を占めるが、図解・絵画、雛形・模型などをも含め、これらを読み解きながら放鷹文化の歴史を総合的に記述していく必要がある。

#### 注

- 1) 『新訂増補国史大系 徳川実紀』の「台徳院殿御実紀」巻51、元和5年12月是月の条。

- 2) 斎木一馬、他校訂『徳川諸家系譜 第4』(1984年、続群書類従完成会)所収「越前家支流 松江松平」の系譜第2部には、寛永15年戊寅2月11日移封出雲国18万6千石、且管隠岐国(1万8千石)之事とあり(129頁)、古川貞雄氏(注<sup>6</sup>文献、<sup>7</sup>信濃、19巻6号)は「直政の出雲へ向けての松本城出発は三月二日か三日のことであったとしてよい。」とされる。
- 3) 山名隆弘「徳川家康と鷹狩」、『国学院雑誌』82巻4号、昭和56年。この他、多くの論著がある。
- 4) 『内閣文庫蔵諸侯年表』(1984年初版・1989年再版、東京堂出版、754頁)。第3代藩主綱近の延宝3年(1675)7月16日に返上したともある。天和年間(1681~1684)には御鷹師頭小栗長右衛門正直の管轄となった(根崎光男著『江戸幕府放鷹制度の研究』、2008年1月、吉川弘文館、137頁)。なお、この地は、直政の旧領地であった。
- 5) 根崎光男著『江戸幕府放鷹制度の研究』、2008年1月、吉川弘文館。92頁、137頁。
- 6) 直政の初期家臣団については、古川貞雄「松江藩初期家臣団の拡大過程 信濃松本との関係を中心に (一)・「同(二)」(信濃史学会編『信濃』、第19巻第6・7号、1967年6、7月)参照。
- 7) 「召出さる」という言葉は、「四、被召出ノ嫡子にして一人前の御用に使はるゝ時は被召出、小額の米或は金を給せらる。」(正井儀之丞<sup>メンブツサレ</sup>『雲藩職制』、昭和54年、歴史図書出版、128頁)と説明される。
- 8) 編集顧問高柳光寿、他『寛政重修諸家譜』、第14、昭和40年(平成3年第6刷)、続群書類従完成会。333頁、351頁以降。また、『放鷹』、110頁)。
- 9) 『放鷹』には、「真要集 一ノ鷹始のことより大鷹仕懸くること、鷗、巢鷹、入掛一大事なること、(中略)鷹葉飼までのことを誌す。宝永六年(1709)堀江佐次右衛門の編。」とし、「新益柳営秘鑑」10巻、以下のことを述べる。
- 10) 松原定右衛門(3代目)につき、『列士録』によれば、次のようにある。即ち、彼の生国は出雲で、元禄3年8月19日父家督100石を下され、大番組に組入れられた。同4年3月12日大御番組筆頭役、同5年9月25日新御貸方奉行、また、同8年2月10日御使番役を仰付けられ、加増100石を下された。なお、定右衛門の祖父松原五郎大夫(本国・生国とも不知)は、寛永年中信濃松本において直政に召出され、新知200石を下された。後、50石加増され、万治元年12月25日出雲で死去。
- 11) 三谷権太夫(元祖)は、三好長基の長子半助(月照院の同母兄)の子で、祖母(長基の妻)、及び月照院に養われ、常に松平直政の傍らで成長した。『列士録』によれば、三谷権太夫は本国阿波・生国伯耆といい、寛永2年<sup>親</sup>越前大野において直政へ召出され、新知250石を下された。同年号の内、信濃松本で250石を加増され、寛永15年4月13日御仕置役を仰付けられた。同年<sup>親</sup>出雲において加増2000石、更に加増500石を下された<sup>親</sup>。与力7騎を仰せ付けられ、追って1騎をなし付けられ、都合3770石、内770石与力を下され、御家老を仰付けられた<sup>親</sup>。以後、代々松江藩家老職を務めた。明暦2年3月23日綱隆(寛文6年4月に第2代藩主となる)へ成し付けられ、御仕置役御免となる<sup>親</sup>。寛文5年正月22日出雲で歿した。
- 12) 高柳光寿、他編集『寛政重修諸家譜』第15、昭和40年9月(平成3年、第6刷)、344頁。
- 13) 『寛政重修諸家譜』第14(351頁)による。但し、戸田久助貞吉は、承応元年(1652)10月14日歿しており、この点、問題がある。貞吉の子吉成も御鷹をもって家光に仕えたが、慶安4年(1651)正月2日に父に先立って歿した。貞吉の跡は、承応元年12月27日孫正吉が襲い、寛文3年(1663)12月4日御鷹匠の頭となった。延宝7年12月24日歿。年代上、この正吉をその「戸田久助」候補と考えてもよいが、正吉は「七之助」と称して「久助」と称したという記録はなく、明暦2年にはまだ御鷹匠頭となっていない。当面の『寛政重修諸家譜』は、事実(戸田久助貞吉の歿年時)より遅れた形で記されているのであろう。
- 14) 猿田量「平浜八幡宮『鷹図絵馬(一対)』に関する考察 松平直政の奉納動機について」、『島根大学教育学部教育学部紀要(人文・社会科学)』、第27号第2号、1996年3月。

# 古往来から見た武家の教養

## 書を学ぶ・書で学ぶ

三 保 サト子

(総合文化学科)

Knowledge and skill of the samurai class in Koorai

Satoko MIHO

キーワード：新札往来 *SINSATSU-ORAI* 尺素往来 *SEKISO-ORAI*

入木道 (書道) Calligraphy 武家 Samurai class 手習い Writing practice

### はじめに

何時の時代にも、より良く生きるために必要な知識や技能がある。しかしそれは、時代や所属する社会・階層、また性別等によって自から異なるに違いない。現代の子供たちが学んでいるあれこれも、次世代の現代社会を生きるために必要と見なされた事どもであり、不断に見直され、修正を重ねられている。

往来物が、言われるように初学者の教科書であるとすれば、その時代を映す確かな鏡である。中世に成立・流布したと見られるそれらは、雑然とした語句集成の観があり、文学性も低い。そのため、独立した作品として取り上げられ、研究対象とされることは希であったが、ここには、時代が必要と考えた必須知識が盛り込まれているはずである。

本稿では、日本の中世、特に南北朝・室町期を中心として、この時代に作成された教科書(往来物)から、次の2点について明らかにしようとした。

- 1 当時の子供たちが何を学んでいたかの全体像を把握すること。
- 2 それら必須教養の内から、「学習すべき書物」

と「学習方法としての書写」について内容を整理し、「書写」の意義を見直しすること。

対象とした作品は、『新札往来』(新札と略称)と『尺素往来』(尺素と略称)である。制作年代がやや早い『新撰遊覚往来』(遊覚往来と略称)と『異制庭訓往来』(異制庭訓と略称)についても併せて考察した。本文は、原則として『日本教科書大系』底本に拠った。本文の異同については、必要に応じて諸本の状況を示すこととした。

### 1 南北朝・室町期の必須教養

#### 1) 資料の概要

はじめに、対象として扱う作品(資料とした往来物)について、簡単に説明しておきたい。

#### (1) 新札往来について

『新札往来』が収める教育内容は南北朝のものである。執筆・成立は貞治三年1364から同六年7月1367の間であり、作者は素眼法師(生没未詳~康暦二年8月1380以降間もなく歿か)である。素眼は時宗の京都四条道場金蓮寺の僧であり、書家としてまた連歌師として著名である。1392年の南北朝合一に

先立って亡くなったと推測される。素眼の事跡については別稿参照のこと（『武家文化圏で製作された古往来についての研究』（課題番号14510478）所収「新札往来について」、科学研究費研究成果報告書平成17年3月）。

## (2) 尺素往来について

作者は一条兼良（1402-81）と伝えるが、疑義も多い。内容は、『新札往来』の大幅増補版とも言うべき物であるが、筆者の見識による取捨選択が行われた跡が見える。特に、貴族文化の伝統色が強い年頭の宮廷行事、鷹狩記事などの加筆、また、浄土宗関係記述の削除などが行われたと見られる。

本往来については、現存する伝本の状況から推して、よく流布したと見られる。一代の碩学、一条兼良の名が冠せられていることや、所収語句が多いにもかかわらず無駄に学術的でないこと、語句集成型でありながら、部分的には一通の書状としての組立てを持つので書式の手本としても使えることなどが人気の要因と考えられる。

## 2) 所収項目から見る武家の教養（新札・尺素）

前述したように、『尺素』は『新札』の増補版と言われる。全体が一続きに記されているので区切りは分明でない。全体像を把握するために項目を立てて内容を整理し、作品間の対応を示したのが表1である。項目名は『新札』の記事を基にして私に設定した。『尺素』以下の作品に、是に対応する記述があれば印で示し、無ければ×印とした。印は有無を示すのみで、記述内容まで重なるとは限らない。この表によって、当該時代の必須教養を概観することができるように意図している。本稿末に表1としてこれを収めた。

項目毎に詳細な検討が必要であることは言うまでもないが、紙面の制限もあり、本稿ではこの内、「学習(1)書写と読書」に焦点を絞っている。ここに収められたのは、書写用基本書目（勅撰集等の書写）、手蹟の名人、稽古用基本図書に関する記事である。一部とはいえ、「学び」の根幹をなす核心部分であると言える。

## 3) 中世武家の教養

表1を概観すると、ここには実に多岐にわたる学習内容が示されている。大きくまとめてみると、こうした知識が、鎌倉期以降、新たな為政者として台頭してきた武家に相応しいものであることが分かる。E（弓と鞠の技術と知識）やH（年貢取立・訴訟裁判等の為政の知識）が、正に武力を背景に世を治める武家に必須のものであることは容易に理解されるが、C（お客のもてなしに必要な、料理・茶・各種遊技についての知識と技能）やF（音楽・芸能についての知識と技術）、また、G（病と医薬品についての知識）についても幅広く知っていなければ、教養有る武士とは認められなかったのである。

- A、宮中・幕府の年中行事についての知識
- B、季節の行事・催しに参加できる知識
- C、お客のもてなしに必要な、料理・茶・各種遊技についての知識と技能
- D、内外の基本図書についての知識と書写力
- E、弓と鞠の技術と知識
- F、音楽・芸能についての知識と技術
- G、病と医薬品についての知識
- H、年貢取立・訴訟裁判等の為政の知識
- I、神事・仏事についての知識

これらの習得は決して容易なことではなかったに違いない。しかし、現存する日記、家訓等、あるいは物語・説話等に散見する関係記述に於いても、一部であるにせよ当時の人々が、こうした教養の持ち主であったことが知られるのである。このことについて、次項4)において確認しておきたい。

## 4) 家訓・置文に見える武家の教養

室町期の武家教育について記す『世鏡抄』（続群書32輯上）によると、武士には寺に入って教育を受ける途が開かれていた。入寺による教育ルートが一般化するのは室町時代に入ってからのことである。7 - 8才で入寺し、13才を下山の年とするので、教育期間は4 - 7年であった。

これ以前、一般的なのはやはり家における教育であった。『御成敗式目』十八条は、親の子供への教育責任を挙げている。所領讓与権をもつ親は絶対的

優位に立っていた。教育内容は、第一に「弓箭の道」、次が「文字を知ること」とされている。經典語録を聴聞することなど、文字・文章による学習、典籍による教育が行われていた。

鎌倉時代、未だ成立過程にあった武士の教育内容は、まずは武技であった。「六波羅殿御家訓」(桃裕行著作集3所収、北条重時1198-1261)では弓箭の道以外は大きく重要でないとしている(もっとも彼は、礼式作法について細かく配慮し、歌も嗜む人である)。ところが、「竹馬抄」(群書27輯 斯波義将、永徳三年1383)では、武芸の錬磨や名利の追求ばかりに執心せず、詩歌管弦などの芸能や源氏物語・枕草子、あるいは和歌・連歌などの教養をも深めるよう説いている(第六条・八条)。さらに、「多胡辰敬家訓」(続群書32輯下 天文十三年1544ごろ)になると、手習学文・弓・算用、馬乗、医師・連歌(歌道)・包丁・乱舞(謡・笛・小鼓・大鼓・太鼓・土形)・鞠・躰・細工・花・兵法・相撲・盤上遊技(碁・将棋)・鷹・容儀の17箇条からなり、さまざまな技能に通じているのを良いこととするようになる。しかも、弓箭の道は第2に重要な能力とされ、手習学問第一と序列が逆転しているのである。「早雲寺殿21箇条」(日本思想大系21『中世政治社会思想上』岩波、北条早雲1432-1519)でも、「よき友を求むべきは、手習・学文の友也」とあって、手習・学文が益々重視されるようになってきているのである。学問は人間の心を正すものと考えられ、前掲の「多胡辰敬家訓」に、「学文ナキ人八理非ヲモウキマヘガタシ」「ヨキ人ニ御成アルベク候」とあるように、学文の重要性は「理非を分別し、人になる」ためであることが強調されている。

#### 5) 遊覚往来と異制庭訓の所収話題

異制庭訓往来と新撰遊覚往来についても話題対照一覧表(表2)を次に掲げる。『異制庭訓』の配列を基本として月毎の話題を挙げ、『遊覚往来』に同じ話題(語句群)が有るかどうかを示したものである。両作品の関係は、『遊覚往来』を加筆集成して『異制庭訓』が成ったようにも見えるが、私見では、共通の材料を使っただけの制作がなされた結果、部分的

に親子の如き類似が生じたかと考えている。

表2【異制庭訓：遊覚往来 話題対照一覧】

月	異制庭訓往来	新撰遊覚往来
1	月遊宴・諸道(六種の会/戯論の遊)	6月遊技・遊戯
2	*《酒宴・料理》	××
3	喫茶(歴史/産地/茶銘)	4月産地・銘柄・種類
4	香道(出来方/伝来/銘)	7月名香銘
5	*《財物・珍宝》	××
6	*《兵法・武具》	××
7	学問(外典書名)	11月外典書名
8	習字(東西書家の筆法/小陽殿八曲)	8月筆法の諸形図 9月少陽殿八曲
9	詩・聯句・和歌・連歌	1月連歌(家作りの材/作文の体/聯句/連歌新式) 2月和歌(八代集/三代集)
10	管弦(五音)	10月管弦の徳
11	仏事(七山名刹/諸役名/堂舎名/作法礼式/飾の具足/点心/茶子/菓子)	11月仏事(七山/諸役/堂舎名/点心/茶の子/菓子) 3月十服茶(室礼/喫茶の具足)
12	仏事(室礼/仏具)	12月仏事(莊嚴/具足/)

『異制庭訓』には『遊覚往来』にない項目(語句集団)が加わっている。それらは《酒宴・料理》《財物・珍宝》《兵法・武具》と纏めることができ、旧来の貴族文化では取り上げられなかったものである。これらは全て、『新札』『尺素』にあっては重要項目になっている。

なお、此処に挙げた全項目の内、8月の小(少)陽殿八曲を除く全ての話題が、『新札』『尺素』にも共通して存在し、時代の教養の在りどころを示している。「小(少)陽殿八曲」については後述する。

2 学習基本図書と書写

ここでは、表1における「学習(1)」グループについて詳しく検討する。同じ項目とはいいながら、作品間に見られる記述内容には大小の差が見られる。その差は何に起因するのか、何処が、何故違うのか。その原因を明らかにすることで、それぞれの作品が持つ背景や成立事情が見えてくるように思われる。

学習(1)に分類したのは、書写と読書の教養であり、内容は、1) 書写用基本書目(勅撰集等)、2) 手蹟の名人、3) 稽古用基本図書の3項目に分けられる。項目別に見ていくこととする。

1) 書写用基本書目(勅撰集等)

ここに盛り込まれたのは初学の人の手習用の手本候補、書写用基本書目である。これから始まる長い書記生活の出発にあたり、「なにを」真似るかは人生の重要事である。選ばれたのは名人の手になる歌集であった。

表3-1【書写用基本書目】

<p>勅撰等、悉可書写候。 御子左家御本、可申出候。</p> <p>万葉集者、一本相伝候。 古今・後撰・拾遺三代集者、定家卿一行書本、 後拾遺・金葉(中略)八代集者、先急速大切候。</p> <p>其後、新勅撰・続後撰・ 続古今・続拾遺・</p>	<p>又近日勅撰事、其沙汰候。然者、可出微望於宗匠家候。因茲、為歌道練習、古集共、書写之志候。諸家之御証本等。暫時拝借之段、不可為尾籠候哉。</p> <p>定家卿一行書之本、於或所見及候。隨而彼御子孫者、二條家為当代宗匠、撰集及度々候。家隆卿嫡流、九條羽林下向于防州以後、未及帰洛。有家朝臣者、余胤断絶。雅經卿苗裔者、飛鳥井公宴御出仕、勿論候。於御在京之向家者、内縁候之間、雖為御秘本、恩借可容易候。</p> <p>撰集之最初、万葉者、并手左大臣橘諸兄公、奉奈良御門勅撰之。一本感得仕候。</p> <p>古今者友則、貫之(中略)拾遺者花山院御自撰。以上三代集。先急速大切次後拾遺者、(中略)是共八代集、次第可令書写候。</p> <p>次新勅撰者定家卿、奉後堀河院勅撰之。続後撰者、奉後嵯峨院撰之。新</p>
--	---

<p>新後撰・玉葉・続千載・続後拾遺・風雅・新千載・新拾遺、</p>	<p>拾遺者、為明卿、奉同院勅撰之。 新後拾遺者、為重卿奉後円融院勅撰之。 此外、天曆千五百番等之歌合、堀河院百首、八雲御抄(下略)</p>
------------------------------------	--

さて、『新札』は「勅撰等、悉く書写す可く候」と切り出され、学習の第一歩は勅撰和歌集の書写に始まることが強調されている。手本として特筆されたのは「御子左家の御本」である。

御子左は前中書王兼明親王914-987の邸宅であり、親王自身をも指す。一品宮禎子内親王裳着の祝いに後撰集20巻を贈ったといい(栄華物語)、能筆として知られる親王であるが、真跡は現存が知られていないとのことである。「万葉集は一本相伝に候」といい、三代集は「定家卿一行書本」を使うようにとも言う素眼であるから、親王の書跡が彼の手元にあった可能性を全く否定するわけではないが、親王の書風を承けた子孫のそれであったかと推測する。あるいは単に3家分立以前の定家の家をこう呼んだものが、『尺素』には「二条家」が使われ、二条家は当代の宗匠として度々勅撰集編纂に及んだと記している。

尊円流から分派したという素眼は、書家として御子左の書跡を所蔵し親しんだのかも知れない。

一方、『尺素』では、近々勅撰集の編纂が行われるに備えて、「歌道練習の為に古集共書写の志候」といい、書写は歌道練習の一方法とされている。求められたのは「諸家の御証本」であった。

続いて古今集以下の三代集、新古今集までの八代集が挙げられる。書名だけを挙げる『新札』に対し、『尺素』は撰者名全員と下命者とを併記する形を取っている。

その後、『新札』では『新勅撰』から『新拾遺』までの11歌集名が、『尺素』ではこれに『新後拾遺』を加えた12歌集名が挙がっている。順序に差はない。新拾遺和歌集の成立が貞治三年1364であり、新後拾遺和歌集の四季の部奏覧が永徳二年3月1382であることからして、これも当然のことである。『尺素』のいう「近日勅撰事」は『新後拾遺集』に続く『新



『続古今集』(飛鳥井雅世撰、永享五年8月1433將軍義教推挙、後花園天皇下命)を指すのであろうか。この部分が現実を踏まえてのこととすれば、『尺素』執筆もこれより前、近い頃となる。

此処には又、定家の子孫、二条家流が度々撰集に携わったこと、家隆の嫡流が山口(大内)へ下向したまま都に不在であること、有家の流れは断絶し、雅経の子孫が在京して活躍していることなど歌の家の消息が語られている。また、二条・飛鳥井両家は『尺素』筆者と内縁があり、秘本の借用も容易であるとも記している。いずれにせよ、筆者の勅撰集に対する関心の深さ、知識の確かさが知られる。

ところで、『遊覚往来』、『異制庭訓』にも勅撰集についての記述があるが、八代集以降の部分が大きく違っている。検討のために該当部分を抄出した。

表4-1【遊覚：異制庭訓 八代集・十三代集】

遊覚往来 二月	異制庭訓 九月
(往) 八代集・十三代集者、誰人御撰、又、自何御代被定置候哉。 (返) 八代集・十三代集事、万葉者平城天皇御宇、左大臣橘諸兄公御撰、古今者延喜御代、貫之・躬恒・友則・忠峯等撰。(中略)新古今者、通具・有家・定家・家隆・雅経等撰也。以此八代集号。 其後、新勅撰者~、続後撰者~、続古今者~、続後拾遺~、続千載集者為世卿撰也。加彼等、号十三代集。 此外代々勅撰、家々撰集、雖多之不能委註。以彼等作例之本歌。	所謂万葉集者平城天皇御宇、左大臣諸兄公御撰也。古今者延喜御宇、貫之・躬恒・友則・忠峯等撰也。 (中略)新古今者、通具・有家・雅経・家隆・定家等撰也。是号八代集也。 続古今者鶴殿・続拾遺・続千載・続後撰、新続古今等、定家・為家・行家・光俊・為氏・為世等撰之也。加是号十三代集也。

問題の一は、「十三代集」の数え方である。両書とも、八代集に5勅撰集を加えたものを十三代集と呼ぶと解説している。この見解は新勅撰以降の13集を指す現在の説とは異なっている。中世に伝えられる家々の秘伝に違いがあったと解すべきであらうか。これについてはさらに調査したい。

問題の二は、八代集以後に撰進された歌集名の違

いである。『遊覚往来』が挙げる5本は、新勅撰・続後撰・続古今・続後拾遺(イ、続拾遺)・続千載集であって、続千載集に先行する新後撰と玉葉2本が無視されたことになる。これは、単なる無知に原因する誤りであらうか。

『異制庭訓』が挙げる5本は、掲出順に、続古今・続拾遺・続千載・続後撰・新続古今である。制作年代は前後し、もはや選定理由の見当もつかないが、一見博識に見える『異制庭訓』筆者が、かかる過ちを犯すのは何故であらうか。

問題の三は、『拾遺集』花山院親撰説についてである。早く定家が親撰説を唱えていて、『尺素』も「拾遺者花山院御自撰」と断言する。これに対し、「花山院御時、一条摂政殿・長能・道濟御撰」(遊覚往来)・「花山院御時一条摂政殿御撰」(異制庭訓)のような一条摂政伊尹924-972撰進説をどう解すべきであらうか。

## 2) 手蹟の名人(書写の故実を含む)

(1) ここで取り上げられるのは書跡の名人とされる和漢の人々である。本朝では、『尺素』のみが、嵯峨天皇・弘法大師、是に次ぐ光明皇后・道真の名を記し、次いで、道風・佐理・行成の「三賢(三跡ではない)」、さらに、文昌・保時・時文・文時に及ぶ。『新札』は道風・佐理・行成の「三賢」のみを詳しく紹介する。

中頃の名人として特筆されるのは、法性寺殿、弘誓院殿、後京極殿の3名である。これは両書に共通する。この後、書の世界を圏席したのは、行能、定成、経朝ら権跡行成の流れであり、他流の追隨を許さなかったという。また、『尺素』執筆の現在、青蓮院尊円法親王(1298-1356)の書跡が規範として仰がれているとのことであるが、『新札』に言及はない。

(2) ところで、同じく書についての知識であっても、『遊覚往来』や『異制庭訓』が重視したのは筆法・書写の故実であった。それらは家々に受継がれた秘伝・口伝と推察され、これら往来の執筆・制作に際して、往来物作品制作の場に取り込まれたのであろうと推察される。既に秘伝ではなくなってい

たので往来物の世界に入っているのか、特定の学習者を想定しての制作であるため意図的に入れたのか、いずれにしても制作圏を特定する大きな手掛りになると期待している。

筆法・故実に相当する記述を『遊覚往来』から抄出し、表4-2・表4-3として示した。引用が多くなるのを避けるため、『異制庭訓(八月往返)』との対比は割愛した。両書はよく似ている。

諸家の形図

往状の質問と返状の解答とは、必ずしも合致していない。少人の教育を開始するに当たり、書の手本は誰のものを使うがよいのか、筆は何の毛がよいのか、墨はどのように摺るべきかなどの問に対し、説かれるのは専ら名人の形図である。王羲之の6様図、周即之の4様図をはじめ、道風の十八形図、佐理の五形図、行成の十六形図が紹介され、「筆法之得伝」と号される。

表4-2【遊覚 諸家の形図】

遊覚往来 往	遊覚往来 返
(八月往) 手本者、用何人筆跡、毫筆者、勝何毛、墨者、摺何体、硯者、何石吉候哉。不審候。 又、家々習、入木之法、所々額文字、御願寺之扉文、異国之返牒、御表官物、諸人之願文、貴所之屏風、障子色紙形、折扇、団扇、番張、戒牒、歌合、懐紙等、不審多候之間、如形所欲令存知其法。	(八月返；諸家の形図) 漢朝六義(王羲之)者、懸針、垂露、返鵲、迴鸞、魚鱗、虎爪、六様図。又、周即者、藤花、雲行、楊柳、枯木之四様図。 其後、日域成闡仁者、天曆年中、村上天皇之御宇、木工頭小野朝臣道風者、成十八形図。所謂、鳥相、蛇形、枯松、立獅子尾、垂露、下藤上、雲出、雨足、雁飛之点。仁豆、龍走、木折点、高峯墜石、乱草、落玉之点。月、方丈、人頭等之点也。 長和之比、冷泉院御代、正三位兼左兵衛佐藤原佐理卿者、於永一字、成五形図。所謂、雪中落雁之点、牛行角折之点、野口長立之点、半月雲出之点、遠山雲井之点等也。 寛仁之比、一条院御時、大納言藤原行成者、成十六形図。所謂、往還、梅枝、鐵切、飛鳥、枯草、落

石、池入江、牛尾草、生水流出、青草、乱糸、下登上等。小石散、海岸、石平、巖立之点也。 以斯為三師之図、号筆法之得伝。
---

形図への言及は、現存する秘伝書に散見する。一例として次に『玉章秘伝抄』(続群書 31輯下)を引いたが、さらなる調査が必要なところである。

(前略) 以上於図大虎六義是也。又於大唐周郎四様藤花雲行楊柳枯木也

一於我朝、木工頭小野朝臣道風者十八形図。所謂鳥相羽、蛇形、枯松立、獅子尾、垂露、下藤・上雲・出両足・雁飛点・仁頭・龍走・折木・高峯・墜石・乱草・落玉点・月輪形・大神頭等ノ点也。是者村上天皇御宇。

一冷泉院御宇、正三位兼左兵衛佐藤原佐理卿者、於永字成五形図。所謂雲中落巖点、半片角折点(中略)

一一条院御宇、大納言藤原行成卿、成十六形図。所謂、往還梅枝鐵切。飛鳥、枯木、落石、池入(下略)

小松茂美氏の『日本書流全史』(講談社 昭和45年)が紹介する『入木用筆伝(寛永六年1625六月持明院基定書写奥書)』の冒頭にも同様の図説があり、ここでは、道風十八形・行成十六形、佐理については「正三位佐理卿一行図」とする。

少陽殿八曲

「小湯殿(遊覚往来)・小陽殿(異制庭訓)」(教科書大系)と翻刻される該当箇所について、諸本の状況は、「少陽殿」「昭陽殿」「照陽殿」など多様であったが、正しくは「昭陽殿」とすべきものである。早くに実態が分からなくなっていたために誤写が生じやすかったのであろう。

『金玉積伝集末』(続群書 31輯下)の冒頭に、「照陽殿八曲次第」の撰述について次のように記す。  
一条院御伯父三品中将四具平親王。号後中書王。彼宮暫円融院照陽殿伝御座。(中略)正三位前太宰大貳参議藤原朝臣佐理卿、為照陽殿親王之間、号照陽殿八曲云々。

これによると、後中書王具平親王(964-1009)は暫く円融院の梨壺(昭陽殿)を殿舎にしていたため、

「昭陽殿」と呼ばれ、本書は、具平親王の入木道秘伝を説くものだという。

表4-3【遊覚 昭陽殿八曲】

<p>(9月往)          每見入木之法、諸家之形図、筆跡之口伝、甚深之体而不審多惟。然者、真行草之三体、筆墨之所持、書写之故実、主君・貴人仰書、本書・消息之体、色紙・双紙之書様、並小湯殿之八曲次第等、委細示給候者、可悦入候。</p>	<p>(9月返；昭陽殿八曲)          筆法並小湯殿之八曲、一者、得手習之能書、有三種之品。上根者習千字。中根者学七千字、以下五百字、為下品云々。詩歌・消息之古詞、自習一字能、可知千字云々。真・行・草之三体者、以真為骨。以行為肉、以草為皮云々。二者書写之故実。書者、硯和墨堅弱摺之。硯墨堅和入力可摺云々。若紙古不付墨、入白水可摺之。(中略)三者、令書写色紙文字時者、可用夏毛。若唐筆虎羊毛、但依料紙可用之歟。(中略)八者、消息法者、可奉貴人状之文字者不可書極草。可書墨黑。是則恐人法也。但為傍輩者、如乱秋風万草可書之。將又仰書者、入硯水、向御前摺墨、染筆後、可申案内。書竟後、以硯水洗筆、可指笠。雖多異曲、不可過之。</p>
---	--

さて、田安德川家の所蔵する入木道関係資料160点余が国文学研究資料館に寄託され、紹介された(新井栄蔵『「書」の秘伝』平凡社 1994)。持明院家からまとめて伝えられた、世尊寺流・持明院流と明示される入木道の伝授書である。ここに、「世尊寺六 昭陽殿八曲」が登録されている。原本調査の結果、『遊覚往来』は全文をそのまま正確に引用していることが判明した。

その後、「薬師寺蔵「持明院家歌道書道聞書伝書」略目録(稿)」(調査報告、武井和人)によって、同書が薬師寺にも収められていることを知った。次のようにある。

D10 昭陽殿八曲 6丁 27.0×20.0 袋綴  
 じ 1冊 写 1丁才内題「昭陽殿八曲」、  
 照者作昭為将依後中書王令藤原佐理書、6  
 丁才「右八曲如斯深可思之行成」、朱丸・  
 朱訓点アリ)

これによると、昭陽殿八曲は後中書王具平親王が

藤原佐理に書かせたものと伝えられ、しかも、外ならぬ行成自身がこの書を重んじて一筆記したことになる(八曲は八曲とすべきであろう)。田安家蔵本からも、昭陽殿八曲は世尊寺時代から受継がれた古いものと考えられる。

このことは、『遊覚往来』のみではなく、中世の往来物の作成を考える上で大事なことを教えてくれる。百科辞典的な往来物は、多くの先行文献を参照するは当然のこと、家々に伝わる秘伝書の如きをも取り込んで作られたということである。

因みに、『金玉積伝集』本末2巻は「先行する秘伝書の抄録」であり、近世初期の成立先行秘伝書の一だと考えるが、撰述者を具平親王や藤原佐理に直接結びつけるのは躊躇われる。『金玉積伝集』前半は前中書王兼明親王(914-987)の口伝・伝書に「権大納言行成」(972-1027)が追記・撰述したとされており、前中書王兼明親王と後中書王具平親王との対比がいかにも作為を感じさせる。これについてはなお調査したい。

### 3) 稽古用基本図書

「少生稽古の為」として『新札』が求めている書物は、全て漢文の25編である。これが『尺素』になると、4倍近くに増大している。思いつく限りを目一杯挙げた観があるが、室町時代の子供たちはこんなにも多くを学んだのであろうか。古代・中世の文化人たちが、いかに多くを手習いに費やしたかにつき、新井氏は前掲『「書」の秘伝』において『実隆公記』や『讓仁親王日課表』の例を示している。彼等は、原則として毎日書いている。幼くより日常的に書く生活を続けているので、ずいぶん早く書けるようでもある。子供の教育にも相当数の書物を揃える必要があるとすれば、師は(親あるいは子供自身も)せっせと書写するしかない。「菅家一流、殊以読合之志候」(新札)とか、「清・中両家之儒、伝師説而候于侍読歟」(尺素)とあるので、訓註注釈が中心であったかと考えるが、それでも此処に挙がる書物を読破するのは大人にも子供にも並大抵ではあるまい。まして、書写するにおいてをやである。

表 3 - 3 【新札：尺素 稽古用基本図書】

新札 (稽古用基本図書)	尺素 (稽古用基本図書)
<p>為少性稽古、本書等相尋候。</p> <p>先五経者、周易・尚書・毛詩・春秋・礼記並老子経。左子・漢書・後漢書・史記・文選・論語・孝経・孟子・遊仙窟・貞観政要・白氏文集、乃至、楽府・朗詠・蒙求・百詠等、可預御秘計候。</p> <p>菅家一流、殊以読合之志候。</p> <p>玉篇・広韻、可借給候。</p> <p>近来、以毛晃之韻、為字之本歟。然者、其以前字書、可被捨候哉。是又一篇之儀候。</p>	<p>為小童稽古、本書大要候。</p> <p>先全経者、周易、尚書、毛詞、周礼、儀礼、礼記、春秋、論語、孝経、孟子、爾雅也。</p> <p>此外、老子、莊子、荀子、楊子、文中子、列子、管子、淮南子以下、清・中両家之儒、伝師説而候于侍読歟。伝註及疎正義者、以後漢晋唐之博士所釈、古来雖用之、近代、独清軒健叟法印、以宋朝濂洛之義為正。開講席於朝廷以来、程朱二公之新釈可為肝心也。</p> <p>次紀伝者 (中略) 法家者令及律。中家坂家、各伝其義説者也。官方者格、外史者式並儀式、内史者詔勅宣命、卜部一流相伝之。秘説者専在日本紀、日本後紀、続日本紀、続日本後紀、文徳実録、新国史等歟。同伝受之志候。</p>

『尺素』の特色は、日本の作品「本朝文粹・和漢朗詠・新朗詠・風土記」等を加え、「一々訓受すべき」とするところ、また、家職によって、専門分野別に学ぶべき書目をそれぞれ挙げるところである。特に後者は、専門の家が確立した時代ならではの配慮と言えよう。なお、ここに『風土記』が含まれることには幾分違和感を覚える。

韻書について「近来、以毛晃之韻、為字之本歟」(新札)とあり、素眼の頃『毛晃之韻』が流行したようであるが、『異制庭訓』も「玉篇・広韻・毛晃」を挙げていて、成立の近さを思わせられる。また、『尺素』に「独清軒健叟法印」こと玄慧 (?-1350) が朝廷で宋学を講じたとあるが、確証を得ない。持明院殿の『礼記』談義に列席したことを指すのかも知れない。

付記

本稿は、平成21 - 23年度科学研究費補助金による研究成果の一部である。

表 1 【新札：尺素 話題対照一覧】

項目	新札往来	尺素往来	遊覚往来	異制庭訓
正月 儀式	(1)年始挨拶慣用句 (2)元三の儀式 × × × 唄飯 両社行幸 御評定始 御所的 聖廟御参籠 (3)返状冒頭慣用句	(2)同左 小朝拝・三節会・朝観行幸  ×  」正月往状として完結。 返状の始り	× × × × × × × ×	× × × × × × ×
2月	稲荷社初午		×	×
3月	花見連歌など 東山西郊之花 地主鷲尾花下 大原野花 × 嵯峨清涼寺	桜狩 (鷹狩)	連歌式目 × × × × ×	× × × × ×

項目	新札往来	尺素往来	遊覧往来	異制庭訓
4月	茶会など 新茶 名香・× 諸道具類  日吉祭礼 賀茂祭	+ 茶具 ・合香  朝飯+食材	3月 7月  × ×	3月 4月  2月 × ×
5月	賀茂競馬・深草祭		×	×
6月	祇園会 鉾 馬 弓・甲冑・刀 進発(警備;侍所)		× × × × ×	× × 6月 6月 ×
接待	朝飯 点心 茶子 菓子 遊技 風呂	・・4月 に続く 巻末語彙群 巻末語彙群 巻末語彙群 4月 朝飯材料から続く 4月日枝・賀茂祭へ	×   ×	食材   ×
学習 (1)	書写と読書  書写用基本書目 (勅撰集等の書写) 手蹟の名人 稽古用基本図書	(8//9月の記事とする) 近日、勅撰の沙汰下る	8月;筆法 (能筆の形図) 2月;八代集 十三代集 11月;外典の 書目	8月 9月 8月 7月
学習 (2)	スポーツ系 蹴鞠 犬追物 笠懸		× × ×	1月 1月 1月
学習 (3)	芸能系(田楽・猿楽・管弦・ 舞楽) 勸進講 佐女牛八幡放生会 舞楽等 別当供僧等-出仕の行粧 山門・南都の強訴-供奉の 儀式		管弦  × × × × ×	10月 12月



## 保育者養成における「教職実践演習」の取り組み(1)

小山 優子 栗谷 とし子 白川 浩  
(保育学科)

Seminar on Teaching Practice for Kindergarten  
and Nursery Teachers in Junior College(1)

Yuko KOYAMA, Toshiko KURITANI, Hiroshi SHIRAKAWA

キーワード：教職実践演習 Seminar on teaching practice  
資質能力の向上 the development of traits and abilities  
保育実践力 practical teaching skills

### 1. はじめに

平成18年7月の中央教育審議会答申において、教員養成課程における学生の学びの質を向上させることを目的とした「教職実践演習」の新設と必修化が提言された。それを受け、幼稚園教員養成カリキュラムにも「教職実践演習」が新設され、本学でも平成22年度入学生から必修科目として開講することとなった。教職実践演習の科目の趣旨は、「他の教職課程の授業科目の履修や教職課程外での様々な活動を通じて学生が身に付けた資質能力が、教員として最小限必要な資質能力として統合・形成されたかを、課程認定大学が自らの養成する教師像や到達目標等に照らして最終的に確認するものであり、全学年を通じた『学びの軌跡の集大成』として位置づけられるもの<sup>1)</sup>」である。すなわち、2年後期に開講される教職実践演習は、幼稚園教諭としての資質や教師としての力量を深め確かめる、教員養成の総仕上げの授業として位置づけられるものである。

この授業の実施にあたっては、教員に求められる4つの事項、使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項、社会性や対人関係能力に関する事項、

幼児児童生徒理解や学級経営等に関する事項、教科・保育内容等の指導力に関する事項、を含めることが適当であるとされている。また、授業方法は、講義だけでなく、ロールプレイングやグループ討議、実技指導、事例研究、フィールドワーク、模擬授業等を取り入れる、教科に関する科目担当教員と教職に関する科目担当教員が協力して実施する、教職経験者を指導教員に含め、学校現場の視点も加味した適切な評価が行われる、ことが挙げられる。このように、教職実践演習は、複雑で多岐にわたる授業目標や授業内容、授業方法に考慮した上で構成することが求められるが、実施上の方法的困難さを克服するために検討すべき課題は多い。

本研究は、保育学科学生に対し、授業担当者となる3名の教員で協議しながら、本科目の目的達成のためにどのような授業を展開していくことが適当か、またそこに横たわる課題とは何かを明らかにし、平成23年度後期の保育学科2年の授業実施に向けた詳細な授業計画を立案することを目的として進めたものである。なお、本学では授業科目名を平成23年度のみ「教職実践演習」、平成24年度以降「保育教職

実践演習」<sup>2)</sup>としているが、本稿では「教職実践演習」と表記する。

## 2. 研究の進め方

「教職実践演習」は、上記のように新設の授業科目であり、幼稚園教諭に求められる資質や基礎理論・知識、社会性や対人関係能力、保育や教科の指導力などの総合的実践力が、短大2年間の学びの過程で幼稚園教諭免許を取得しようとする学生全員が身につけているかどうかを確かめる科目ということ以外は、特に決まった枠組みはない。つまり、授業科目担当者が上記の趣旨に則り、学生の実態に即した授業計画を立案していかなければならず、文字通りゼロからのスタートとなる科目であった。そのため、教職実践演習の授業内容、シラバス及び具体的な授業の展開方法、担当教員間の役割分担や業務分担など、実施に向けた作業概要についての協議を行った。特に、履修カルテと学習ポートフォリオの作成と運用、シラバスの深化と修正、教職実践演習の授業内容の具体的な進め方、成績評価方法に焦点を当て検討を重ねた。

## 3. 履修カルテ・学習ポートフォリオの作成

### 1) 履修カルテと学習ポートフォリオの作成

履修カルテは、学生が教職や保育実践についてどのような知識や技術を身につけているのかを診断・評価するものとして、教職実践演習の履修前に学生が必ず作成すべきものとされている。本学においては、文部科学省から示されている履修カルテ例や、先行する他大学の履修カルテやポートフォリオを参考に、履修カルテの内容や様式、作成方法や提出時期などを検討した。

その結果、本学保育学科では、1年前期終了時を初回に、学生が半期ごとに記入した履修カルテを担当教員に提出して検印を受けること、記入に際しては、各期毎に作成した学習成果物を学習ポートフォリオとして綴じ込み、自分の成長過程を確認しながら自己評価することにした。学生には入学時に教職実践演習についての説明を行い、2年間を通じて使用する履修カルテ・学習ポートフォリオ用のファイ

ルの配布と、履修カルテの様式を本学ホームページからダウンロードして記入する方法を指導した。一方、保育学科教員をはじめ専門科目の担当教員には、学生が履修カルテを作成する際に、どの授業で何を学び、身につけたのかを確認できるように、各授業担当科目のシラバスに授業目標や到達目標を明確に記述すること、学生が各々の授業で作成したレポートや提出物は最終的に教職実践演習の学習ポートフォリオとして綴じていくことを説明し、こうした学習成果物については検印後、速やかに学生に返却することを関係教員での共通認識とした。

### 2) 履修カルテの内容

本学の履修カルテは「履修した科目に関する内容」と「自己評価シート」の2つの内容で構成した。

#### (1) 履修した科目等に関する内容

履修した科目に関する内容は、「教職に関する科目の履修状況」「教科に関する科目の履修状況」「教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目の履修状況」について、科目名、単位数、必修/選択の別、修得年度、教員名、成績評価、学習効果(学生が自己評価を自由記述)を記入することにした。その他の事項としては、「教育実習に関すること」、保育士養成関係の「保育所実習、施設実習に関すること」、「教育・保育に関する自主的な活動等」の欄を設定した。「教育実習に関すること」では、実習園名、実習期間、教育実習の学習成果や自己課題の記入、教育実習中の指導案のコピーを添付することにした。「保育所実習・施設実習に関すること」では、科目名、単位数、必修/選択の別、修得年度、実習施設名、成績評価、学習成果と自己課題を記入することにした。「教育・保育に関する自主的な活動等」では、幼稚園や保育所でのボランティア活動や学生支援員、サークル活動での遊びの指導など、教育・保育に関連する自主的な活動について、名称、期間、活動場所、活動内容、学生自ら学んだことを記入することにした。

#### (2) 自己評価シート

自己評価シートは、「教職に必要な資質能力についての自己評価」をするもので、学生が授業の履修



状況や自主的な学習活動に基づいて記入する。質問項目は、文部科学省中央教育審議会答申の4つの事項である「使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項」「社会性や対人関係能力に関する事項」「幼児児童生徒理解や学級経営等に関する事項」「教科・保育内容等の指導力に関する事項」について、必要な資質能力の指標を37指標設定した(表1)。これらの指標に基づき、学生は1年前期終了、1年後期終了、2年前期終了、教育実習終了、2年後期終了時の5つの時期に自己評価を記入する。評価の基準は、「未学習(0点)」と、「全くできなかった(1

点)」「あまりできなかった(2点)」「ふつう(3点)」「よくできた(4点)」「十分できた(5点)」の5段階評定である。また、「教職を目指す上で課題と考えている事項」として、1年前期から4つの時期に分け、自己評価シートの表を参考に、どの項目が特に身についたのかをまとめるものとして、学生が学習成果と課題に関する自由記述の表も設定した。

自己評価シートの指標のうち、特に本学の学生できちんと身につけてほしい指標として「4遊びと生活を柱とした幼児教育の基本を理解している」「12子ども一人一人の発達の課題を理解し、個々の子ども

表1. 教職に必要な資質能力についての自己評価シートと結果

N = 48

事項	視点	答 申 指 標	1 年次前期終了	2 年次前期終了	標準偏差
			平均	平均	
使命感や責任感、教育的愛情	教職の意義・学校教育についての理解	1 教職の意義や教員(保育者)の役割、職務内容、子どもに対する責務を理解している	3.71	3.98	0.64
		2 教育の理念、教育に関する歴史・思想についての基礎理論・知識を習得している	3.04	3.49	0.58
		3 学校教育の社会的・制度的な性質や学校の経営の側面についての基礎的な知識を習得している	3.10	3.48	0.59
		4 遊びと生活を柱とした幼児教育の基本を理解している	3.94	4.09	0.62
		5 保護者や地域との連携・協力の意味と重要性について理解している	3.88	4.06	0.73
	課題探求力	6 特別支援教育、預かり保育などの学校教育に関する新たな課題に関心を持ち、自分なりに意見を持つことができる	2.90	3.47	0.95
		7 教職に向けての自己の課題を認識し、その解決にむけて学び続ける姿勢を持っている	3.98	4.13	0.65
子ども理解や学級経営	子どもについての理解・集団理解力	8 子ども理解のために必要な心理・発達論的な基礎知識を習得している	3.48	3.66	0.60
		9 集団の性質や集団形成に関する基礎理論・知識を習得している	3.29	3.68	0.63
		10 個々の子どもの特性や状況に応じた対応の方法を理解している	3.35	3.70	0.75
		11 特別支援教育についての知識や特別な支援を必要とする子どもへの対応の方法を理解している	2.15	3.02	0.99
		12 子ども一人一人の発達の課題を理解し、個々の子どもに応じた関わりができる	3.23	3.74	0.79
	コミュニケーション力	13 子どもの声を真摯に受け止め、公平で受容的な態度で接することができる	4.00	4.17	0.67
		14 子どもに積極的に関わったり、コミュニケーションをとることができる	4.23	4.43	0.62
社会性や対人関係能力	他者との連携・協力、社会性や対人関係能力	15 他者の意見やアドバイスに耳を傾け、理解や協力を得て課題に取り組むことができる	4.21	4.38	0.68
		16 他者と共同して保育を企画・運営・展開することができる	3.08	3.66	1.07
		17 集団において、他者と協力して課題に取り組むことができる	4.06	4.30	0.66
		18 集団において、率先して自らの役割を見つけたたり、与えられた役割をきちんとこなすことができる	3.75	4.06	0.67
		19 社会人としての基本	挨拶、言葉遣い、服装、他人への接し方など、社会人としての基本的な態度やマナーなどが身についている	3.98	4.19
保育・教科の指導力	教育方法・教育課程・学級経営に関する基礎的な知識・技能	20 教育課程(カリキュラム)の編成に関する基礎的な知識を習得している	2.35	3.15	0.86
		21 幼稚園教育要領の内容や、教育の5領域の内容を理解している	3.62	3.81	0.71
		22 遊びを通しての指導や環境を通した指導に関する基礎理論・知識を習得している	3.46	3.74	0.71
		23 基本的生活習慣の指導や内容に関する基礎理論・知識を習得している	2.92	3.64	0.71
		24 指導法に関する基礎理論・知識を習得している	2.40	3.19	0.80
		25 教材や遊具などについての基礎的な知識を習得している	2.60	3.41	0.58
		26 指導案の作成に関する基本的な知識を習得している	3.21	3.91	0.55
		27 学級経営・クラスづくりに関する基礎的な知識を習得している	1.44	2.83	1.19
		28 情報教育機器の活用についての知識を習得し、活用することができる	2.98	3.49	0.83
		保育実践力	保育実践力	29 これまで履修した教科(音楽)に関わる科目の内容を習得している	3.83
30 これまで履修した教科(美術)に関わる科目の内容を習得している	3.77			3.98	0.74
31 これまで履修した教科(体育)に関わる科目の内容を習得している	3.81			4.02	0.74
32 教材を分析し、教材研究を生かした保育実践を計画することができる	1.77			3.21	0.86
33 子どもの主体性を尊重し、遊びを中心とした保育や設定保育を構想して指導案にまとめることができる	2.71			3.62	0.71
34 保育を実践する際、子どもの姿を捉え、子どもの反応に的確に応じながら保育を行うことができる	3.10			3.43	0.68
35 子どもへの説明の仕方や話し方など、保育を行う上での基本的な表現の技術を身につけている	3.33			3.60	0.74
36 保育実践後に子どもへの指導・援助について評価・反省し、次の保育実践に活かすことができる	3.10			3.87	0.71
37 月案(や週案)などの長期的な指導案を作成することができる	0.79			1.49	1.60

もに応じた関わりができる」「26指導案の作成に関する基本的な知識を習得している」「34保育を実践する際、子どもの姿を捉え、子どもの反応に的確に応じながら保育を行うことができる」「36保育実践後に子どもへの指導・援助について評価・反省し、次の保育実践に活かすことができる」「37月案（や週案）などの長期的な指導案を作成することができる」等の保育実践に重点を置いた指標を挙げた。また「29.30.31これまで履修した教科に関わる科目の内容を習得している」は、音楽、美術、体育の3つの科目を別々の指標として挙げ、教科別に学生の学習状況を評価することにした。

4. 「教職実践演習」の授業内容

1) シラバスの作成

教職実践演習の授業を行うにあたり、授業の目的や目標、各回の授業の到達目標、授業の具体的内容やスケジュール等の授業設計を担当教員間で話し合い、シラバスを作成した。

授業の目的は、教職実践演習を通じて、学生が教職課程および保育士養成課程の知識・態度・技能を統合的に学び、保育者（幼稚園教諭・保育士）としての確かな実践力を修得することとし、到達目標は、

保育者として求められる「使命」「責任感」「教育的愛情」を理解する、保育者として求められる社会性や対人関係調整力を身につける、保育者として求められる子ども理解力および学級経営力を身につける、保育者として求められる指導力を身につけることとした。成績は、出席状況や態度、模擬保育の発表や課題レポートの提出等で評価することにした。授業内容は、表2のとおりである。

表2. 教職実践演習の授業内容

授業回数	活動内容
第1～2回	グループワーク（保育者に求められる資質能力をグループで話し合う）【話し合い120分、発表60分】
第3～8回	現職教員授業（教材研究と教育内容の指導方法）
第9～11回	模擬保育・指導計画の作成と準備（学生がグループに分かれて活動）
第12～14回	模擬保育・実践（ロールプレイ、相互評価）
第15回	模擬保育の評価、総括（保育者としての自己評価）

2) 教職実践演習の授業内容

(1) グループワーク

教職実践演習の最初の授業では、学生がこの時期に、保育者としてどのような力が身につけているのか、また保育者に求められる力とは何かを学生自身が確認することからスタートすることにした。

学生は、教職実践演習を開始する前に、保育所実習10日間を2回、幼稚園実習4週間を終了しており、保育者に求められるものや自分の保育者としての実力を実感し認識している時期である。それゆえ、学生が実習内容を思い出したり、履修カルテの自己評価シートを見ながら、保育者としての現在の自分の力量を知り、保育者としての自己課題に気づくことでさらなる学びにつなげることを目標にした。そこで「学生から保育者へ巣立つ!」というキャッチフレーズを掲げ、ワークショップ形式のラベルワークの手法を用いたグループワークを行うことにした。具体的には、学生が学んだことや身につけたことを付箋に書き、模造紙に貼りながら話し合い、グループでまとめた後、全体に向けて発表し、学んだことや今後の課題を全体で共通理解するものである。学生51人のうち、グループは議論の進めやすさを考慮し、1グループ5.6人で合計9グループとした。

(a) グループワークの授業の目的

保育者に求められる資質・能力の理解

- ・自己の実習や履修カルテに照らして、保育者に求められる資質や能力が理解できる。
- ・保育者としての自己の特徴や長所を確認すると共に、自己課題を発見できる。
- ・グループで話し合い、協力してグループワークができる。

(b) グループワークの授業内容（第1～2回）

付箋に記入する（第1回）

「学生から保育者として巣立つ!」を念頭に、付箋に以下の内容を1枚1項目で書く。

- A. 2年次の実習のことを思い出し、指導を受けた保育者からこういう力が短大で身につけている、実習中にこういう力がついたと評価された

こと（指導を受けた保育者から直接ほめられたことや実習日誌で評価されたこと）、実習中に身についたと思う事項を書く。また、履修カルテの自己評価シートを見ながら、短大2年間の学びの過程で学び習得したことを書く。

B. 実習中に指摘された保育者としての今後の課題面や実習中に気づいた保育者として必要な力や、保育者になるにあたり自分の弱いところ、残りの短大生活で身につけるべき課題面を書く。  
グループでまとめる（第1.2回）

A. Bの内容について、模造紙に貼りつけ、グループメンバー全員で発表する。次に、内容の似通ったもの、共通するものを集めたりグルーピングしていき、最終的に自分たちの考えを図式化し、ペンで模造紙上にまとめていく。最後に、図にまとめた内容を一言で表す「テーマ（“学生から保育者に巣立つ”という問いに対し、グループで最終的にまとめた答えを簡潔に言い表したもの）」をつける。

全体に向けて発表する（第2回）

グループ順に前に出て、グループでまとめた模造紙を使いながら発表する。（1グループ5～6分）

活動を評価する（第2回）

同じグループ内の学生に対し、「グループワーク評価シート（個人用）」を使い、本活動全体のピア評価を行い、同時に自己評価も記入する（図1）。また、学生が各自、「授業ふり返りシート」

教職実践演習「グループワーク評価シート」(個人用:自己評価・ピア評価)					
グループ	番号	氏名	日付	月	日
自分・( )さんを評価します。					
[1]課題に真剣に取り組んでいた	5	4	3	2	1
[2]自分の意見を積極的に伝えていた	5	4	3	2	1
[3]相手の意見をしっかり聞き、理解しようとしていた	5	4	3	2	1
[4]話の進行、内容の整理、展開のヒントなど、議論を活発にする役割をしていた	5	4	3	2	1
[5]考えを掘り下げ、グループの意見としてまとめようと努力していた	5	4	3	2	1
[6]相手へのコメント（良いところ、もっと良くなることを書いてあげましょう）					

図1. グループワーク・模擬保育（計画・準備）評価シート

に授業で学んだことや気づいたことを記入する（図2）。

(2) 現職教員の授業内容

教職実践演習は、学校現場の視点を取り入れる観点から、必要に応じて教育現場の教員又は教員勤務経験者を講師とした授業を含めることが望ましいとされており、本学でも現職教員による授業を取り入れることにした。その際、教職実践演習は、2年後期の学びの最後の時期に設置されていることを考慮し、模擬保育の参考となり、保育の実践に直結する保育内容や幼児への指導法に重点を置く授業内容となるように、現職教員に相談・依頼した。

(a) 現職教員の授業の目的

学級経営力や保育実践力の向上

- ・子ども理解の仕方や学級経営(クラス運営)、指導方法を理解できる。
- ・クラス担任の役割や実務、他教員との協力のあり方が理解できる。
- ・題材や教材研究を実施し、教材や指導形態、指導の評価が理解できる。

(b) 現職教員の授業内容（第3～8回）

現職教員の授業は、幼児を対象とした保育実践場面の活動のヒントとなるような教材研究や指導法を学ぶ授業とした。後半で行う模擬保育につながるように、学生が多くの保育内容を知り、保育活動のイメージを持つことを目指し、学生が幼児に対する様々

教職実践演習「授業ふり返りシート」		
グループ	番号	氏名
この授業であなたが学んだこと、気づいたことについて書いて下さい		
授業内容:グループワーク	月	日～月

図2. 授業ふり返りシート

な指導法を経験する中で、保育者としての言葉かけや幼児へのかかわり方、教員としての立ち振る舞いなどの総合的な実践力を高め、教員としての姿勢や心構えを身につけることを目的とした。

(3) 模擬保育の実践

模擬保育については、今まで短大で学んできたことを踏まえ、学生が幼児を対象とした20分程度の保育をグループに分かれて計画し、その保育実践を指導計画にまとめる活動を3回の授業の中で進めていくことにした。その後の3回の授業では、各グループで考えた模擬保育の内容を順番に発表し、保育者として子どもたちを指導していく実際を模倣的に行い、保育者として発表しない学生は、クラスの幼児として役割演技(ロールプレイング)をする。実践後に発表者には他者評価を行い、模擬保育への評価をフィードバックすること、担当教員は、学生の模擬授業の様子をビデオカメラで撮影し、最後の授業でそのビデオを学生全員と見ながら、全体で評価を行うことにした。

(a) 模擬保育の授業の目的

教材作成と模擬保育の実践、発表と評価

- ・題材探究や教材研究を行い、保育者としての表現力や子どもの反応を生かした指導計画を立案する。
- ・子どもへの指導方法と環境構成の方法などに配慮した模擬保育ができる。
- ・グループで話し合い、役割分担をしながら、協力して活動に取り組むことができる。
- ・模擬保育を分析する中で、自己や他者の良い点や改善点を発見し、評価できる。

(b) 模擬保育の活動内容 (第9～15回)

教材研究と指導計画の作成 (第9～11回)

- ・グループで教材研究を行い、子どもを対象とした模擬保育案を考える。3.4.5歳児のクラス担任として20分程度の部分指導計画を立案する。
- ・授業や実習などで取り組んだ活動以外を考える。体育、美術工芸、音楽などの範囲を組み合わせ

たり、保育内容の5領域を横断的に捉えた活動、子どもが楽しく取り組める活動を発想する。

- ・模擬保育で対象とする子どもの人数は、20～35人のクラスを想定し、活動にふさわしい発表場所や人数を指導計画に書き入れる。
- ・指導計画に盛り込むことは、「グループとメンバー」「発表のテーマ」「問題意識(この活動を取り上げる理由)」「予想される子どもの姿や保育者の願い」「対象・人数」「設定場所」「活動のねらい」「教材観・活動内容」「活動の具体的展開」等(様式自由)である。教材などの必要資料があれば添付する。指導計画は、印刷したものを発表前に全員に配布する。
- ・発表時のグループの役割分担を決め、保育者は主担当と裏方の2人か、副担当を加えた3人で進める。模擬保育の発表中に、導入、展開、まとめ等の活動の節目で学生が役割を交代し、全員が「主担当」と「裏方」の役割を担当しながら進めるよう計画する。
- ・第9回～11回の授業の最後に、グループでその時間に活動した内容を「グループ活動報告書」に記入し、担当教員に提出する。  
模擬保育の発表・活動の評価 (第12～14回)
- ・1グループ20分の時間で、模擬保育の発表を行

教職実践演習「模擬保育(実践)評価シート」(個人用:自己評価・他者評価)

発表日	月	日	グループ	番号	氏名( )	テーマ
模擬保育を発表、または参加した評価を10段階でつけて下さい。5,6を「普通」、7,8を「良い」、9,10を「とても良い」、逆に4,3を「もの足りない」、1,2を「とてももの足りない」と考えて下さい。						
【評価視点】						
[1]	テーマ設定や活動のねらいは、子どもの興味・関心を引きつけるものであった					
	1	2	3	4	5	6 7 8 9 10
[2]	題材探究や教材研究がしっかり行われ、発想豊かな発表内容として工夫されていた					
	1	2	3	4	5	6 7 8 9 10
[3]	場の設定、活動時間や流れ、予想される子どもの活動などの計画が適切であった					
	1	2	3	4	5	6 7 8 9 10
[4]	保育者の行動や言葉かけは、意図的で適切であり、保育者としての表現力を生かしていた					
	1	2	3	4	5	6 7 8 9 10
[5]	保育者の行動や言葉かけは、子どもの反応に適切に柔軟に対応していた					
	1	2	3	4	5	6 7 8 9 10
[6]	本日の発表や実施は、準備が十分にでき、スムーズであった					
	1	2	3	4	5	6 7 8 9 10
[7]	総合的にみて、満足いく発表であった(発表時)					
	総合的にみて、自分にとって参考になる発表であった(参加時)					
	1	2	3	4	5	6 7 8 9 10
◆質問・意見・感想						

図3. 模擬保育(実践)評価シート

う。1コマで3グループ発表する。

- ・発表したグループの模擬保育を評価する。「模擬保育評価シート(個人用)」に発表者以外は他者評価を、発表者は学生個人で自己評価を記入する。他者評価は記入後に集め、グループに渡す(図3)。

#### 模擬保育の反省と評価(第15回)

- ・模擬保育を録画したビデオを見ながら、発表グループ別に模擬保育の評価を話し合ったり、参加者の評価を見ながらグループでまとめ、「模擬保育評価シート(グループ用)」(図3)に記入する。
- ・「模擬保育(計画・評価)評価シート(個人用)」(図1)に各自記入する。
- ・担当教員から、模擬保育に関する総評を行う。
- ・学生が各自「授業ふり返しシート」に記入する(図2)。

### 5. 授業の総括と成績評価方法

教職実践演習の成績は、テストを実施せず、授業の取り組みと最終課題物となる「履修カルテ・学習ポートフォリオ」の提出で評価する。最終課題物の「履修カルテ・学習ポートフォリオ」とは、教職実践演習で作成した以下の文書を指定のファイルにはさみ込んだものである。

#### 1) 最終課題物(履修カルテ・学習ポートフォリオ)の内容

##### 「履修カルテ(最終版)」

- ・2年後期の内容まですべて記入したものが「履修カルテ(最終版)」になる。

##### 第1・2回 グループワークの資料

- ・「グループワーク評価シート(個人用)」<sup>3)</sup>(図1)

##### 第3～8回 現職教員の授業資料

- ・現職教員からの課題物

##### 第9～15回 模擬保育の資料

- ・「模擬保育(計画・準備)評価シート(個人用)」<sup>3)</sup>(図1)
- ・「模擬保育(実践)評価シート(個人用)」<sup>4)</sup>

(図3)

- ・「模擬保育(実践)評価シート(グループ用)」<sup>4)</sup>(図3)

##### 「授業ふり返しシート」

- ・グループワーク、現職教員授業、模擬保育(指導計画の作成・準備、模擬保育(発表)の4つの活動に関する自らの学びについてまとめる(図2)

##### 「自己評価・まとめシート」

- ・履修カルテの「自己評価シート」の2年後期終了時の自己評価をもとに自己分析する。
- ・「自己評価・まとめシート」の“評価の高い指標に関する分析・考察”の欄に、必要な資質能力の指標の項目欄ごとに自己評価の高い指標と低い指標はどれか(学生が身につけている/いないと思う指標)を分析・考察して記述する。
- ・「自己評価・まとめシート」の“その他に関する分析・考察”の欄には、項目別の自己評価の高い/低いに関する分析以外のうち、自分で気づいたことなどを書く。また、「履修カルテ(最終版)」を見て、1年前期から2年後期の間に、特に評価が高くなった指標(2年間で成長した指標)や評価が低い・変わっていない指標(これから身につけるべき課題指標)について分析・考察する。
- ・「自己評価・まとめシート」の“卒業・今後に向けての課題”の欄には、“評価の高い指標に関する分析・考察”や“その他に関する分析・考察”を踏まえ、今後の自分の課題となる指標や項目を書く。

##### 過去に作成した履修カルテ

- ・1年前期分から、古い順番にとじる。

##### 学習ポートフォリオ

- ・短大で学んだ成果物の代表的なものをとじる。分量が多い場合は厳選し、1冊にまとめる。

### 2) 教職実践演習の成績評価方法

学生の成績評価の評価者は、現職教員の評価と合わせて教職実践演習の担当教員3名で協議し、成績

をつけることとした。また、成績評価は、出席状況や態度 (20%)、履修カルテ・学習ポートフォリオの最終課題物 (現職教員の提出物も含む) (40%)、グループワークや模擬保育の取り組みと発表 (各種評価シートやふり返しシートも含む) (40%) により、総合的に判断することとした。

## 6. 教職実践演習開始直前の学生の学修実感

教職実践演習の授業を開始するにあたり、短大1年半における学生の学修実感について、1年次前期と2年次前期の科目終了後に記入した自己評価シートをもとに検討した。

### 1) 倫理的配慮

平成23年10月に、保育学科2年生に対して研究目的、方法等を、担当教員が研究協力依頼の文書を用い口頭で説明し、学生個々の研究参加の自由意思が阻害されないように配慮した。また、個人が特定されないこと、データの慎重な取扱等について説明し、研究協力の同意の意思があれば署名を依頼して了承を得た。

### 2) 自己評価の結果

保育学科2年生51名中、研究協力の同意を得られた48名の履修カルテを対象とし、自己評価シートの得点を各指標で比較した (表1)。網掛け部分は平均値が4.0以上と、3.0未満の指標である。

37指標すべてにおいて、1年次前期終了時 (以下1年次と記す) より2年次前期終了時 (以下、2年次と記す) の得点が高くなっていた。平均値4.0以上の指標が1年次では4に対し2年次では10、逆に3.0未満の指標が1年次では10あったが2年次では2と減っている。学生は1年次と比較して、学べたという実感を高めていることが推察される。

1年次から平均値4.0以上の高い自己評価を示したのは「13子どもの声を真摯に受け止め、公平で受容的な態度で接することができる」「14子どもに積極的に関わったり、コミュニケーションをとることができる」「15他者の意見やアドバイスを耳を傾け、理解や協力を得て課題に取り組むことができる」

「17集団において、他者と協力して課題に取り組むことができる」の4指標であった。さらに2年次には、「18集団において、率先して自らの役割を見つけたり、与えられた役割をきちんとこなすことができる」「19挨拶、言葉遣い、服装、他の人への接し方など、社会人としての基本的な態度やマナーなどが身につけている」でも4.0以上の高い自己評価を示していた。これらコミュニケーション力、社会性や対人関係能力については、1年次から「できた」という自信をつけ、2年次でも一貫して学んだ実感を強く持っている現状が明らかとなった。

これらの資質能力は、保育・教科の指導力の指標 (指標20~37) で示される知識や技能、表現力のような見える能力というよりは、むしろ関心、価値観、思考力、判断力、意欲などの見えにくいところの能力である。梶田は、見えにくいところの育ちが見える学力を支えている「冰山モデル」により、体験・感動と知識の往復作用の重要性について述べている<sup>5)</sup>。学生は入学後すぐに本学科の伝統的かつ特色ある授業の「ほいくまつり」の活動に加わり、特に2年生は、自らがリーダーとなって1年生をまとめたり、対外的な交渉を重ねるなど、様々な体験をしながら喜びや感動を味わっている<sup>6)</sup>。このような経験が、まず見えにくいところの育ちを後押しして1年次からのコミュニケーション力、社会性や対人関係能力の自信に実感としてつながっていると考える。

また、「4遊びと生活を柱とした幼児教育の基本を理解している」「5保護者や地域との連携・協力の意味と重要性について理解している」「7教職に向けての自己の課題を認識し、その解決にむけて学び続ける姿勢を持っている」といった教職の意義・学校教育についての理解や課題探求力、「29、30、31これまで履修した教科 (音楽、美術、体育) に関わる科目の内容の習得」も自己評価が高い。

1年次に平均値3.0未満の低い自己評価を示した指標は、「20教育課程 (カリキュラム) の編成に関する基礎的な知識を習得している」をはじめとした教育方法・教育課程・学級経営に関する基礎的な知識・技能に関するものが多かった。しかし、授業の進行に伴い、2年次にはこれらについても大部分は

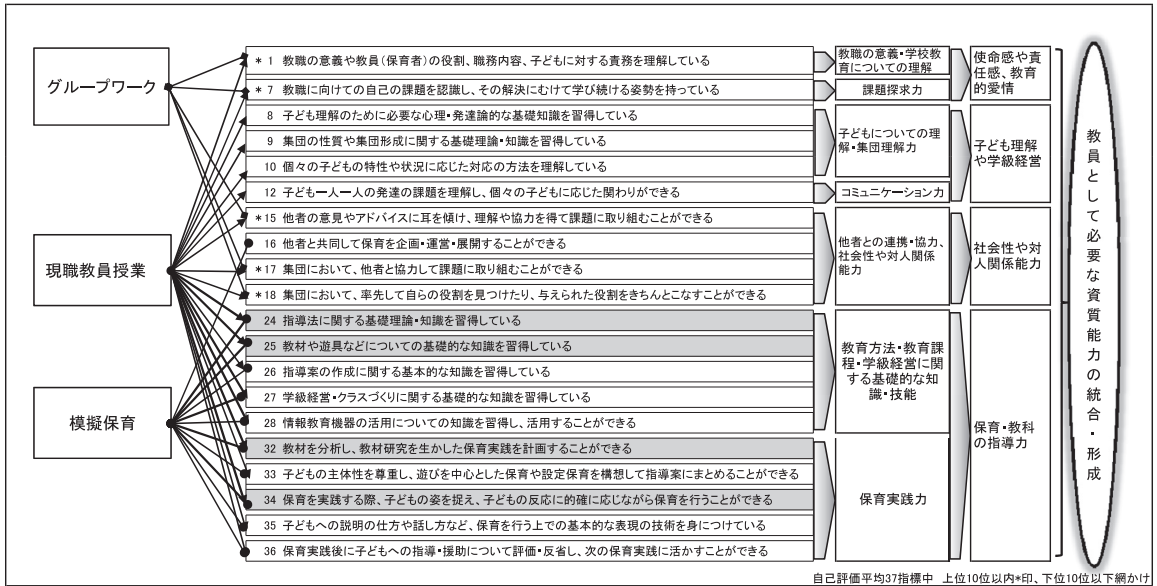


図4. 教職実践演習で強化する指標

学んだ実感を高めている。

一方、2年次においても自己評価が低い指標は「27学級経営・クラスづくりに関する基礎的な知識の習得」「37月案(や週案)などの長期的な指導案の作成」であった。これらは、0点(未学習)と回答した学生がそれぞれ4名、22名おり、平均点の低さにつながっている。実際、これらの内容を含む科目「教育方法の研究」「保育内容総論」は2年後期に開講されており、得点が低いのはやむを得ない面もあると捉えている。逆に5点と高い自己評価をしている学生がいるのは、自らの主体的な学習により身につけた成果かもしれないし、指標の認識の不十分さや自己評価の稚拙さによるものと捉えることもできる。学生の主観的な基準で自己評価されているので、何がどこまでできれば「できた」と評価するのはかなり幅があるが、前述したグループワークの中で評価基準を具体化しながら、深化できるものと考えている。また2年前期終了時で自己評価の低い指標については、指標の該当する2年後期の授業科目の中で学生に身につけさせる必要があり、保育学科の教員全体で授業内容の見直しや改善をする必要がある。

### 3) 教職実践演習で強化する指標

教職実践演習の授業内容に対応している自己評価指標は、全37指標中20指標あると考えた(図4)。図4の中で、自己評価平均が37指標中上位10位以内の高い指標は\*印を、下位10位以下の低い指標は網掛けで示した。図4のとおり、教職実践演習の授業内容に、高い指標、低い指標ともに5指標ずつ含まれている。

高い指標は中教審答申の「使命感や責任感、教育的愛情」や「社会性や対人関係能力」であるが、これらの事項は、教職実践演習のグループワークや現職教員授業の演習を通してさらに力を高められると思われる。

一方で、低い指標は「教育方法・教育課程・学級経営に関する基礎的な知識・技能」や「保育実践力」といった「保育・教科の指導力」の事項であるが、これらの指標を高めるように現職教員授業、模擬保育の演習で強化し、学生の学びが深まるようにしていきたい。

以上、教職実践演習の授業は、保育者に求められる広範にわたる資質能力を統合的に扱っていることから、個々の学生が自己評価の低い指標を卒業前の最後の学期において、さらに向上させることに資す

る内容になっているといえる。このことは冒頭に記した「教員養成課程における学生の学びの質の向上」を保証することにつながると考える。加えて、本授業で学生が得た知見及び自己評価指標等は、卒業後の自己学習への大きな糧となるものと予測し期待するものである。

## 7. おわりに

教職実践演習の授業は、平成23年度後期に本学保育学科で初めて行われる授業であり、実際のところはこれから授業を実施し、内容を吟味していく必要がある。しかし、授業内容や授業構成を授業担当者間で話し合いながら、教職実践演習を短大2年間の学びを統括する授業内容に設計できたことは大きな成果であるといえる。本学保育学科の学生が短大2年間の学びの過程で身につけるべきことは何かを考え、学生への教育に具体的に反映させていくことが、豊かな人間性と優れた専門性を兼ね備えた、質の高い保育者の育成につながるものと考えられる。

今回の教職実践演習の事前準備や授業構想は、実際に授業を実施したのち、点検及び授業内容の工夫・改善を重ね、保育者養成課程における教職実践演習の1つの授業モデルとなるよう完成度を高めていくことを目指している。

今後の展望としては、学生の2年間の学習過程と教職実践演習の取り組みを照合し、カリキュラムポリシー及びディプロマポリシーに関わる保育者養成課程の全容を掌握することができるものとなるよう、研究を深めていく考えである。そして本研究の成果が、保育学科教員間のさらなる教育連携の強化に貢献し、保育者として社会に巣立っていく学生の質を保証する、より確かな教育の営みへと展開することを目指したい。

## 注・引用文献

- 1) 文部科学省「教職実践演習の実施にあたっての留意事項」(『教職課程認定申請の手引き』平成22年度改定版)、2010年
- 2) 「教職実践演習」は、幼稚園教諭二種免許状取得のための教職課程科目であるが、本学では保育

士養成も同時に行っている。平成24年度以降については「総合演習」に代わり、保育士資格のための科目「保育実践演習」の内容も含むため、本学では教職実践演習の科目名を「保育教職実践演習」としている。

- 3) グループワークや模擬授業の指導計画立案において、学生が自己評価とピア評価を行うシートは「グループワーク・模擬保育(計画・準備)評価シート」であるが、グループワークと模擬保育では同一の評価シートを使うことにした。それは、2回の活動の中で評価項目を意識させ、評価項目を念頭に置くことで、学生により意欲的な活動を促すことをねらいとしている。
- 4) 模擬保育の発表の評価は、発表した学生個人や子ども役をしていた学生も 図3の「模擬保育(実践)評価シート」を元に自己評価や他者評価をする。同時に、グループで話し合っている評価についても、図3の同一の項目が含まれた評価シートを使うが、それは学生個人の自己評価がグループ全体の意見としてまとめられやすいように配慮したためである。
- 5) 梶田叡一・加藤明「改訂実践教育評価事典」文溪堂、2010年、p.18-29
- 6) 小山優子・白川浩・福井一尊「『ほいくまつり』活動を通じた保育者養成の意義( ) - 学生指導と教員連携の観点から - 」島根県立大学短期大学部松江キャンパス紀要第49号、2011年、p.51-60

## 参考文献

- 岡山大学教育学部「実践的指導力育成のための学びの航跡 教育実践ポートフォリオ(幼児教育コース)」[第2版] 2010年
- 相模女子大学「教職実践演習・履修カルテ」(<http://www.sagami-wu.ac.jp/work/education/record.html>) (2011/10/30アクセス)
- 佐藤浩章『大学教員のための授業方法とデザイン』玉川大学出版部、2010年
- 明治大学「明治大学教職課程履修カルテ」(<http://www.meiji.ac.jp/shikaku/risyu-karte/>) (2011/10/30アクセス)



# しまね子育て支援専門職カンファレンスにおける 研修ニーズ調査の分析

山下 由紀恵<sup>1</sup> 三島 みどり<sup>2</sup> 名和田 清子<sup>3</sup>  
(1 保育学科 2 専攻科助産学専攻 3 健康栄養学科)

Analysis of the training needs in Shimane professional conference  
participants for supporting child and family development

Yukie Yamashita, Midori Mishima, Kiyoko Nawata

キーワード：子育て支援 Supporting child and family development  
キャリア成長 Career development  
研修ニーズ Training needs

## 1. 目的

島根県立大学短期大学部が平成19年度から21年度まで実施した文部科学省委託「社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム」事業は、再チャレンジ事業として本来資格・免許を生かして復帰する離職者向けに企画されたりカレント教育事業であったが、本学が実施した再教育講座の実際の第1期第1期合計受講申込者1,756人のうち、現職（正規）957人（54.4%）、現職（臨時）304人（17.3%）、離退職者468人（26.6%）であり、現職専門職者が全体の71.7%を占めていた。さらに受講後の講座評価アンケートの選択項目「新しい知識を得ることができた」「自分の免許・資格に関わる専門性を高めることができた」「自分の免許・資格に関わる仕事に必要なことを学んだ」で、圧倒的多数が「当てはまる」「とても当てはまる」と回答しており、平成21年度までに実施された文科省委託事業講座のほとんどが、専門職者にとって、これまで現場で研修されていない知識・技能であったことがわかった。

そこで、平成22年度は、カンファレンス・プロジェクトと同時に進められた本調査により、「子育て支援」現場に不足する新しい知識と技術の研修、現任者の資質向上ニーズをより明らかにし、高等教育機関として、保健・栄養領域（助産師・保健師・看護師・栄養士・管理栄養士）、保育・教育領域（保育士・幼稚園教諭・通園通級指導者・特別支援学校教諭）の専門性維持向上にいかに関与すべきか、新たな専門職ネットワークと現場研修体制の構築を目指して検証を進めた。

文部科学省委託事業の再教育プログラム開発研究では、「子育て支援」のための各コースの複合的なカリキュラムを修得するに当たって、専門性にかかわる受講前の学習および経験要因が履修結果の自己評価に影響を残すことがすでに示されていた。「産後うつケア・虐待予防」「食育実践指導」では、事前に関係する研修をどのくらい受講したか、という専門研修による知識・技能の積み重ねが受講後の自己評価点に影響していた。「早期発達支援」では、

「障害児」保育の経験がどの程度あるかが、受講後の自己評価に影響していた。障害児保育経験のない保育士は受講後も、他の医療・教育専門職ほど講座理解の自己評価が伸びないなど、養成課程の実習等の教育内容にも問題がみられた。現場の現在の研修実態では、このような学習・専門経験要因が考慮されずに画一的に研修が実施され、結果的に期待された効果を生んでいない可能性もあり、研修ニーズ調査と開発研究の結果の比較検証は、今後の島根県内の研修体制活性化に大きく寄与するものと思われた。このような問題点を踏まえて、上述の「社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム」事業の総括として最終事業で実施した専門職ワークショップの実施体制を引き継ぎ、島根県内の「子育て支援」関係者の研修推進をめざして、「支援現場の研修はいかにあるべきか」をテーマに領域横断的カンファレンスを実施した。カンファレンスに先立ち、県内の障害児の「親の会」等の「子育て支援」を受ける立場の方々による座談会を実施し、過去20年から10年の間の「子育て支援」関係機関のあり方、専門職連携について、どのような問題があったかを検討した。その検討結果と文科省委託事業の再教育プログラム開発研究を比較検証する目的で、12月5日に協議会開催を企画した。

会議では、今後の専門職ネットワークに必要な研修機能を、シンポジウムと分科会討議で検討。シンポジウムでは、「子育て支援」に関わる領域横断的な職能について見直し、新たな地域貢献的専門職ネットワークの構築をめざして協議することを目的とした。前述の検討内容と協議結果を踏まえて、

- (1) 「子育て支援」専門職におけるキャリア成長モデル
- (2) 成長段階に応じた専門教育のあり方
- (3) 大学と専門職者の教育研究連携のあり方を明らかにすることを目的とした。

平成22年12月5日に行われた「しまね子育て支援専門職カンファレンス」の参加者99名中の45名が参加者調査に回答して、「支援現場での研修はいかにあるべきか」というカンファレンス・テーマに呼応した。参加やアンケートの結果をまとめた調査は、

「『子育て支援』領域の専門職のキャリア段階別研修実態とニーズに関する調査研究」として本学研究倫理審査委員会において承認されている。島根県内の子育て支援専門職者の現在の研修実態と、専門職者本人が認識する「本来あるべき研修」についてこの調査から明らかにし、研修ニーズと実態の差異がどこにあるのかについて検討する。

調査の対象者を含むカンファレンス申込者のうち、平成19年度から21年度までに実施した文部科学省委託「社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム」事業の講座参加者中の現職者による講座の効果に関する自由記述回答を、調査として分析する。

## 2. 調査

### 1) 調査対象

上述の12月5日カンファレンス参加専門職者99名。このうち45名が配布した調査用紙に記入して回答した。45名の専門免許・資格は助産師・保健師・看護師等の「看護系」5名、栄養士・管理栄養士等の「栄養系」3名、保育士・幼稚園教諭等の「保育系」37名であった。カンファレンス会場で休憩時間に筆記をもとめる調査であったため、後半の回答が不完全なものが多く、半分以下の項目にしか回答していないサンプルは予め分析対象からはずすことにした。削除したサンプルは、看護系回答1名、保育系回答6名であった。結果的に分析対象は、看護系4名、栄養系3名、保育系31名の、計38名であった。

### 2) 調査用紙

添付資料のとおり、質問項目は以下の13項目であった。Q1免許・資格(複数回答可)、Q2最終学歴、Q3免許・資格職経験年数、Q4年齢、Q5性別、Q6現在の職種、Q7専門職キャリア5段階別「子育て支援」研修回数・内容実態、Q8回答者の現在のキャリア段階、Q9現在の「子育て支援」研修回数についての満足度(4段階評定)、Q10現在の「子育て支援」研修内容についての満足度(4段階評定)、Q11専門職キャリア5段階別にみた本来あるべき「子育て支援」研修回数・内容、Q12「子育て

て支援」研修強化の必要なキャリア段階、Q13「子育て支援」取得が望ましい免許・資格。

### 3. 調査の結果

#### 1) 分析対象者の年齢

38名の分析対象者のうち、31名がQ4年齢に回答していた。年齢の最大は58歳、最小は23歳であり、平均は43.3歳であった。

#### 2) 分析対象者のキャリア段階

この調査では、専門職キャリア段階を5段階に分けて質問している。第1段階は、「上司の助言・指示を受けて、職務が実施できる」新任スタッフである。第2段階は、「自主的に判断・実行することが求められ、自立して職務が実施できる」スタッフである。第3段階は、「特定領域の担任・リーダーを割り当てられた担当責任者。困難事項の対応ができる」リーダー・シニアスタッフ・専任職である。第4段階は、「現場管理者・現場責任者・現場職員の代表」師長・主任・教頭などである。第5段階は、「管理者・責任者・組織全体の代表」院長・所長・園長・校長などである。

38名の分析対象者のうち、31名がQ8回答者の現在のキャリア段階に回答していた。図1のとおり、第3段階の「リーダー・シニアスタッフ」が最も多く、このカンファレンス調査対象者が、年齢40代の中堅リーダー専門職を中心とするグループであったことが分かった。



図1. 対象者の現在のキャリア段階

#### 3) 専門職キャリア5段階別研修回数

38名の対象者が回答したキャリア段階別の現在の「子育て支援」年間研修回数は、平均値で、第1段階1.89回、第2段階2.58回、第3段階2.12回、第4段階2.88回、第5段階3.29回、であり、年平均1回から3回程度の研修に参加していることがわかった。所長の回数が最も多い。

現在の研修内容についての満足度 - この現在の専門職研修実態について、回答者自身はどのように評価しているのか。まず、38名の分析対象者のうち、31名がQ10現在の「子育て支援」研修内容についての満足度(4段階評定)に回答していた。図2のとおり、「どちらかという役立つ」が最も多く31名中19名(61.2%)、次いで「大変役立つ」8名であり、両方をあわせて27名(87.0%)が内容が役立っているという肯定的回答を示した。

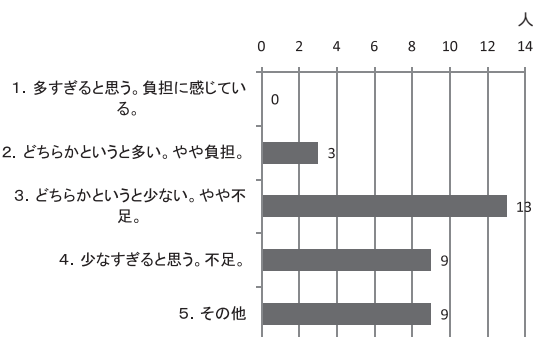


図2. 現在の「子育て支援」研修の内容への満足度

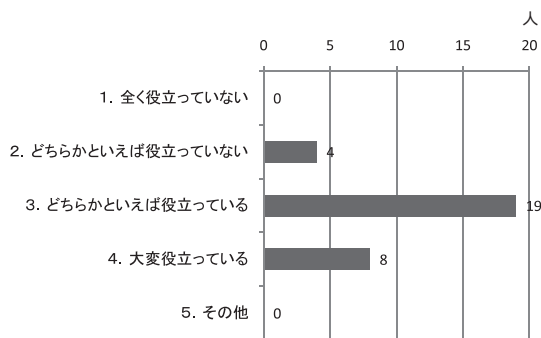


図3. 現在の「子育て支援」研修回数への満足度

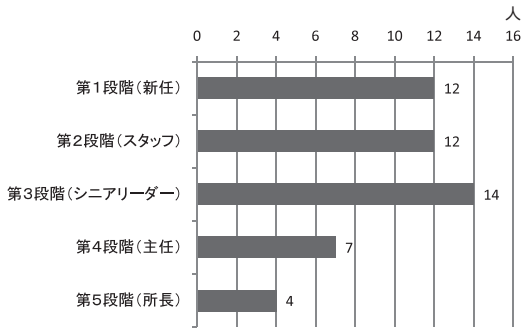


図4. 「子育て支援」研修強化の必要なキャリア段階

#### 4) 現在の研修回数についての満足度

38名の分析対象者のうち、34名がQ9現在の「子育て支援」研修回数についての満足度(4段階評定)に回答していた。この結果は、図3のとおり、「どちらかというと不足している」が最も多く13名(38.2%)あり、次いで「不足している」9名(26.4%)と「その他」9名(26.4%)であった。「その他」には「ちょうどよい」という意見が3名あり、「少ないが増加すると負担になる」が1名あった。「どちらかというと不足している」「不足している」「少ないが増加すると負担になる」を合わせると34名中22名(64.7%)であり、「子育て支援」研修の回数には、不足を感じている専門職が多いことがわかった。

回答者中最も多かった「シニアスタッフ」の現在の研修状況として具体的に上がっていたのは、例えば、看護師の場合、「全国病児保育研究大会(年1回参加)」、保育士の場合、「中堅者研修(年1回)」「中堅研修、小1プロブレム、子育てネットワーク等(年2~3回)」「中堅研修、初級カウンセラー講座、町保育研修(年4回)」、幼稚園教諭の場合、「虐待対応・特別支援教育-個別支援計画作成・ロールプレイ等(年3回)」「特別支援教育コーディネーター研修(年2回)」「音楽・歌合奏指導(年1回)」などであった。

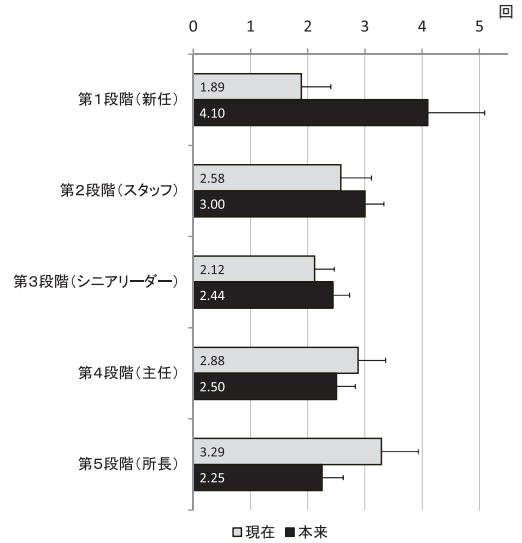


図5. 「子育て支援」年間研修回数の実態(現在)とニーズ(本来あるべき回数)(平均値と標準誤差)

#### 5) 研修強化の必要なキャリア段階

38名の対象者は、本来どのキャリア段階で研修強化が必要と考えているのだろうか。Q12の回答を見ると、図4のとおり回答者の多くが集まる「第3段階シニアスタッフ」が最も多かったが、次いで「第1段階新任」・「第2段階スタッフ」が多く、若手での研修強化が必要と考えられていることが分かった。

#### 6) 本来あるべき研修回数

Q7で専門職キャリア5段階別の「子育て支援」研修回数・内容の実態を質問し、Q11で本来あるべき「子育て支援」研修回数・内容を質問した。図5のとおり、38名の対象者が回答した本来あるべき「子育て支援」年間研修回数は、平均値で、第1段階4.10回、第2段階3.00回、第3段階2.44回、第4段階2.50回、第5段階2.25回、であり、第1から第3段階のキャリア段階では現在の研修実態より上回る研修ニーズがあり、特に新任段階での研修ニーズが最も高いことが分かった。

## 7) 本来あるべき「子育て支援」研修の具体例

回答者が挙げた「子育て支援現場の体制上必要な研修」の内容は以下のとおりであった。

第1段階（新任スタッフ） - コミュニケーション、ロールプレイ・演習等を入れた研修、仕事の意義、保育の技術、初任者としてのあり方、教諭としての手立て、先輩教諭の事例研究への参加、など。

第2段階（スタッフ） - 他方面の研修、ケース検討会、教材研究、発達について、職務について、事例検討会、カウンセリング、など。

第3段階（リーダー・シニアスタッフ・専任職など） - 中間職員研修、専門研修、スキルアップと専門性、子育て支援全般、特別支援教育、カウンセリング、発達スクリーニング、保護者への相談援助方法、保護者対応、障害児保育知識、スタッフ指導法、中間管理職のあり方、保育研究、など。

第4段階（師長・主任・教頭など） - 中間職員研修、専門研修、子育て支援の基本の再確認、職員の意志決定方法、園経営、管理職研修、保育行政施策研修、責任職務研修、地域の子育て支援、など第5段階（院長、所長、園長、校長など） - 管理職職員研修、専門研修、専門以外の一般講師の管理職向け講義を聞く、管理職としての基本、職員管理、など。

第4段階と第5段階の研修内容は、ほぼ管理業務研修であり、保育の基本に関わる研修は、第1段階から第3段階に受けるべきと考えられていることが分かる。

第1段階では、コミュニケーション、ロールプレイ、保育の技術など、保育者が他の保育者の行動を取り入れるため、実際に活動して学ぶ研修が必要、と指摘されていた。これらの実習やインターンに匹敵する活動を、図5のとおり年4回程度実施するというのが、回答者の考える「本来あるべき第1段階研修」であった。

第2段階では、教材研究、事例検討会、ケース検討など、困難事例を中心に園内研修で定期的実施されるべき内容があげられていた。これらは子育て支援現場の必須職務であると思われるが、この職務について指導を受ける研修を、図5に示すとおり年3回程度実施するというのが、回答者の考える「本

来あるべき第2段階研修」であった。

第3段階では、専門性をさらにアップさせるための、相談支援知識・技術に関する研修があげられていた。保護者相談支援についての研修は、この第3段階のみであげられており、「特別支援教育」「発達スクリーニング」「障害児保育」等は、この第3段階のスキルアップのために必要と指摘されていた。図5に示すとおり、これらの研修を年2回半程度実施するというのが、回答者の考える「本来あるべき第3段階研修」であった。

以上の「本来あるべき研修」についての調査結果から、「子育て支援」職能は3段階で成長しているものと考えられる。

- (1) 第1段階（新任スタッフ） - 実習やインターンに匹敵する活動中心研修（年4回程度）、
- (2) 第2段階（スタッフ） - 現場でのケース検討、教材研究について指導をうける（年3回程度）、
- (3) 第3段階（リーダー・シニアスタッフ・専任職） - 困難事例、保護者相談支援に関する「個別の支援」「社会福祉援助技術」のスキルアップ専門研修（年2回半程度）。この第3段階までの研修が「子育て支援」専門職の職能の基本を学ぶ研修であり、その後管理職研修が必要になると考えられる。

## 8) 研修の必要性（理由）

第1段階から第3段階までに必要な「子育て支援者」のための研修内容について、なぜその段階で必要なのか、Q12に対する回答は、以下のとおりであった。

第1段階（新任スタッフ） - 新任は仕事に慣れる段階。つまりきが多いと思うので丁寧に支持していく必要がある。

第1段階（新任スタッフ）と第2段階（スタッフ） - 保育士の専門職としての現場研修が必要、現場で活用できることを研修する必要がある。

第3段階（リーダー・シニアスタッフ・専任職） - 現場と管理職の中間としてつなぎの役割が重要であるので、その指導力の研修強化が必要。現場での指導者として第1段階・第2段階を指導するための研

修が必要。上と下に挟まれ、それぞれ対して発信する必要がある。キャリアアップのための自己研鑽が大切である。

第1段階(新任スタッフ)から第3段階(リーダー・シニアスタッフ・専任職)まで - 発達支援に関わることが多いので、その方法を勉強すべきである。

#### 9) 専門職キャリアアップのための免許・資格

それぞれの回答者の専門領域で、取得が望まれる免許・資格について、「子育て支援」と関係ない場合も含めてQ13で質問した。その回答は以下のとおりであった。免許・資格の名称ではなく、関心領域を示した回答が多かったが、研修ニーズ領域として、そのまま示している。

看護系の回答は1名であったが、不妊・小児救急・骨盤ケア・ストーマ等を上げていた。

保育系の回答は9名であったが、カウンセリング能力を高める研修、相談支援者になるための公的資格、特別支援教育コーディネーターになるための免許・資格研修、傾聴法、カウンセリング法、救急処置法、医療研修、障害児とのふれあい方、音楽療法士(3名)、パソコン資格を上げていた。

音楽療法士と回答した方が3名あったことに象徴されるように、困難事例、保護者相談支援に役立つスキルアップを上げている回答が多かった。回答者の多くが、現在第3段階(リーダー・シニアスタッフ・専任職)であったことが反映しているものと思われる。

#### 4. 調査

##### 1) 調査対象

上述の12月5日カンファレンス参加者99名のうち、平成19年度から21年度までに実施した文部科学省委託「社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム(以下「学び直し」)」事業の講座参加者は44名であった。このうち、現職の参加者の「学び直し」講座感想は、調査の第3段階シニアスタッフ向けキャリアアップ専門研修効果を表すと思われるため、ここでその概要をまとめる。

##### 2) 調査の方法

上述の12月5日間ファレンス参加申し込みはFAXにより行われたが、その参加申し込み用紙に学び直し講座修了者の意見記述欄があった。この自由記述欄への回答をまとめ、研修効果を検討する。自由記述回答者は「学び直し」参加者44名中30名、うち現職者22名(看護系3名・栄養系3名・保育教育系16名)、離退職者8名(保育系8名)であった。以下結果のまとめでは離退職者を除いて現職者22名の回答を取り上げている。

#### 5. 調査の結果

##### 1) 回答内容

平成19年度～21年度講座についての、現職者22名(以下[1]から[22]まで)の感想、自由記述回答の内容と、回答者属性の一部を記載する。

- [1]助産師(現職) - MCGについて、とても関心をもっています。母親たちとの関わりの中で、傾聴すること、受け入れることについて、大きな学びを得ました。
- [2]助産師(現職) - 時代の流れの新しいことを沢山学び、本当に有意義な研修ありがとうございました。
- [3]看護師(現職) - 現状や対応の方法など、今の仕事(病後児保育)にも生かすことができました。
- [4]栄養士(現職) - まわりの保護者への指導に役立った。
- [5]栄養士(現職) - 授乳・離乳の支援ガイドについて、講座で詳しく解説していただき、今年度より乳児の受入数が急増したが、保護者や園児に対応する際に役立っています。
- [6]栄養士(現職) - 障害児施設で働いておりますので、発達につまずきのある子どもの支援について、知ることができました。
- [7]保育士(現職) - 発達検査等をもっと深く学ばなければ現場で活用することはできないが、この研修で学んだ子どもたちへの支援については参考になることが多いです。現場に入ってしまうと専門の学びの場が少なく、(いつも園から

研修に出られるとは限らないので)、自分で研修に参加し、学ぶということがとても大事なことだと思いました。

- [8] 介護職員（現職） - 現在、救護施設の介護職員ということで子育てには直接関係していません。利用者の方がほとんど40歳以上の高齢者（精神障害）の方ですが、幼児期をどのように過ごしてこられたのだろうか、常に考えさせられる毎日です。学習の機会を得たことは大変良かったと思っております。
- [9] 幼稚園特別支援員（現職） - 意識の中にはありますが、直接役に立っているわけではないと思います。
- [10] 保育士（現職） - 大変勉強になり、仕事をしながら思い浮かべ、参考にさせていただいております。感謝の気持ちでいっぱいです。
- [11] スクールサポーター（現職） - 今年度より、小学校のスクールサポーターとして1年生のクラスで子供達のサポーターをしています。講座で学んだことが役立っています。保育園勤務の時にわからなかった就学からのこと、子供の育ち、問題点等、考えさせられることの多い日々です。
- [12] 保育士（現職） - 昨年は20年ぶりに学生に戻り、沢山学んだり、考えるきっかけを与えていただきました。日々の慌しさの中にも、意識をしながら取り組むようにしています。ポータルも試してみたいと思っています。さて、今回の分科会Cのテーマは関心の深いところです。ぜひ参加したいと思います。
- [13] 保育士（現職） - どこがどのように役立っているか、端的には伝えられないが、身近な場所で研修できるよさがあった。本を読むだけでは頭に入らないことも解りやすかった。
- [14] 保育士（現職） - 日々の保育で参考になっています。
- [15] 幼稚園教諭（現職） - 発達支援を行う上で、とても役立っています。
- [16] 保育士（現職） - デンバー式発達判定法はとても勉強になった。園で気になる子がいたため、

一緒に遊びながら判定法を使ってみた。遅れが分かり（苦手な部分）通級等に結びつけることができた。

- [17] 特別支援学校教諭・放課後児童クラブ（現職） - ありがとうございます。とても役立っています（現場で）。
- [18] 幼稚園教諭（現職） - 幼児の気になる姿について、園内で話し合う際に参考になっています。
- [19] 保育士（現職） - 特別支援の担当になったので、ソーシャルスキルや発達検査の内容、特に専門コースに進んでからの内容が役に立っていると思われま。
- [20] 小学校支援員（現職） - 役立っています。修了後も案内をいただき勉強できる機会をいただき嬉しく思います。
- [21] 幼稚園教諭（現職） - 近年特に支援を要する子供が増えており、保護者との接し方、伝え方などにも役立っている。
- [22] 保育士（現職） - 知識として知るというより、見方として変わったのではないかと考えています。

## 2) 現職者に役立った研修内容

以上の現職者22名の感想から、現場で役立つスキルアップ研修の特徴をまとめた。「直接役立っているわけではない、参考にしている[9][10]」といった感想や、単に「役立っている[14][17][20]」といった感想もあったが、そのほかの回答は大きく3つの系列に分けることができた。

- (1) 保護者の相談支援に関する「個別の支援」「社会福祉援助技術」のスキルアップ専門研修として役立ったという回答  
[1][4][5][21]
- (2) 困難事例に関する「個別の支援」「社会福祉援助技術」のスキルアップ専門研修として役立ったという回答  
[1][3][5][6][15][16][18][19]
- (3) 専門性の拡大、子どもの見方の変化につながったという回答  
[2][6][7][8][11][12][13][22]

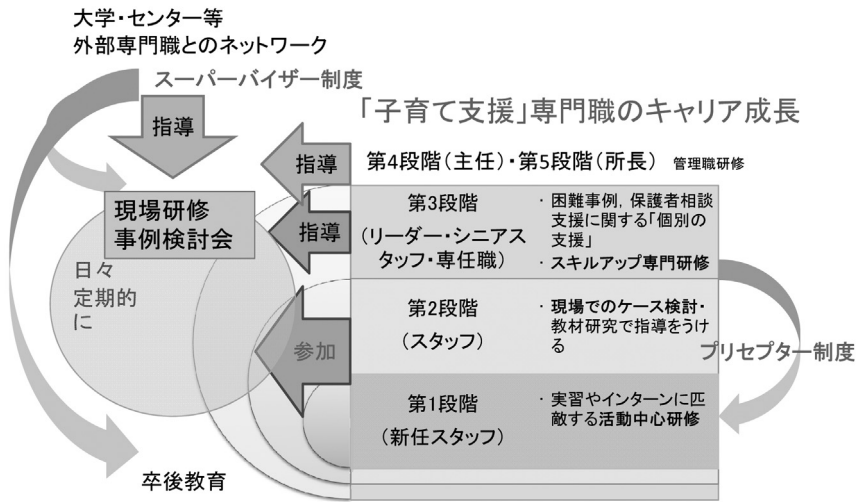


図6. 「子育て支援」専門職研修のあり方

以上の系列をまとめると、シニアスタッフの研修が必要とする内容は、(1)保護者支援の修得、(2)困難事例への対応方法の修得、(3)専門性・見方の変化の体験、あると思われる。この3つの系列の研修効果は、調査でシニアスタッフの研修が必要とする内容と対応していると思われる。

## 6. 考察

### 1) 調査のまとめ

本調査は、島根県内の子育て支援専門職者の現在の研修実態と、専門職者本人が認識する「本来あるべき研修」について明らかにし、研修ニーズと実態の差異がどこにあるのかについて検討することを目的とした。分析対象は、カンファレンス参加者のうち看護系4名、栄養系3名、保育系31名の、計38名であった。本来どのキャリア段階で研修強化が必要かについて、38名の回答者は、「第3段階シニアスタッフ」次いで「第1段階新任」・「第2段階スタッフ」の段階での研修強化が必要と回答しており、シニアスタッフまでの若手での研修強化が必要と考えられていることが分かった。また、専門職キャリア5段階別の「子育て支援」研修回数・内容の実態を質問し、本来あるべき「子育て支援」研修回数・内容を質問したところ、第1から第3段階のキャリア

段階では現在の研修実態より上回る研修ニーズが示された。第4段階と第5段階の研修内容は、ほぼ管理業務研修であり、保育の基本、発達支援に関わる研修は、第1段階から第3段階に受けるべきと考えられていることが分かった。

(1)「子育て支援」専門職のキャリア成長段階に対応した種類の異なる研修ニーズがあること、(2)特にシニアスタッフになるまでの3段階での研修ニーズが、専門職として現場での成長に必要な研修として重要視されていること、の2点が本調査より明らかとなった。さらに研修内容のニーズは以下のとおりであった。

第1段階(新任スタッフ)では、コミュニケーション、ロールプレイ、保育の技術など、保育者が他の保育者の行動を取り入れるため、実際に活動して学ぶ研修が必要、と指摘されていた。これらの実習やインターンに匹敵する活動を、年間4回程度実施するというのが、回答者の考える「本来あるべき第1段階研修」であった。

第2段階(スタッフ)では、教材研究、事例検討会、ケース検討など、困難事例を中心に園内研修で定期的実施されるべき内容があげられていた。これらは子育て支援現場の必須の職務であると思われるが、この事例検討や研究について指導を受ける研



修を、年間3回程度実施するというのが、回答者の考える「本来あるべき第2段階研修」であった。

第3段階（シニアスタッフ）では、専門性をさらにアップさせるための、相談支援知識・技術に関する研修があげられていた。保護者相談支援についての研修は、この第3段階のみであげられており、「特別支援教育」「発達スクリーニング」「障害児保育」等は、この第3段階のスキルアップのために必要と指摘されていた。第1段階や第2段階のスタッフのリーダーとして指導するためにも、これらの研修を年間2回半程度実施するというのが、回答者の考える「本来あるべき第3段階研修」であった。

シニアスタッフのためのキャリアアップ研修では、(1)保護者支援の修得、(2)困難事例への対応方法の修得、(3)専門性・見方の変化の体験、の3つの系列の研修が必要とされることがわかった。この3つの系列の必要性は、カンファレンス参加申し込み者のうち「学び直し」事業講座に参加した現職者22名の感想からも裏付けられた。本調査から明らかになった「子育て支援」専門職研修のあり方を、図6に示す。

## 2) 今後の「子育て支援」専門職養成に向けて

現在、「子育て支援」に関わる専門職養成課程の再検討が国で進められ、それに対応する形で各職能団体がキャリアの成長モデルを構築し、現場でのステップアップ研修に取り組んでいる。以下の各職種の研修システムが、今後、島根県内でどのように構築されていくか、この点についても本調査結果を踏まえて、注目していく必要がある。

公益社団法人日本看護協会では、高度化・専門分化が進む医療現場における看護ケアの広がりや看護の質向上を目的に、資格認定制度を発足させている。現在、専門看護師、認定看護師、認定看護管理者の3つの資格を出している。1996年に専門看護師が初めて誕生し、1997年に認定看護師が、1999年に認定看護管理者が誕生している。このうち認定看護師は、特定の看護分野において、1) 実践：個人、家族及び集団に対して、熟練した看護技術を用いて水準の高い看護を实践する、2) 指導：看護実践を通して看護職に対し指導を行う、3) 相談：看護職に対し

コンサルテーションを行う、といった専門役割に向けての研修を必修としている。平成22年2月現在特定されている分野は21分野である。今後は、地域医療の水準維持と向上のために、新たな専門研修を現場での成長にいかにつなげるかが問われるであろう。

社団法人日本栄養士会では、現場の管理栄養士・栄養士が、最新の栄養管理・栄養指導等を国民に提供できるだけの資質の向上を求められていることを考慮し、卒業後教育の基盤的事業として、生涯学習制度、特定分野認定研修制度を設置している。また、専門管理栄養士認定制度を準備中である。このうち、特に生涯学習制度はすべての会員に必要な単位制の卒業教育であり、各都道府県栄養士会で、5年間60単位（必須7単位を含む）以上取得しているかを確認後、5年間ごとに4サイクル（4段階）の色分けされた修了証明書が発行されることになっている。2サイクル目以降からは、必須科目のテーマの中のトピックスとして、各自が選択設定したテーマについてレポートを提出するか、あるいは生涯学習研修会や各都道府県の栄養改善学会等で講師や発表をすることが求められ、現場での成長が体制化されている。

社会福祉法人全国社会福祉協議会・全国保育士会は、平成19年3月に「保育士の研修体系」検討特別委員会報告書「保育士の研修会系 保育士の階層別に求められる専門性 -」を発表し、その中で、保育所長以外の保育士を「初任者」「中堅職員」「リーダー的職員」「主任保育士」の4段階に分けた階層性の研修体系を示している。平成22年2月26日の第5回保育士養成等検討会では全国保育士会から保育士のキャリアアップについて、「領域別の専門保育士」とジェネラリストとしての「主任保育士」について、研修修了や認定試験などを条件に認定資格取得をさせる資格認定制度案が示されている。同じく幼児期の保育にあたる幼稚園教諭については、文部科学省の定めた「教員のライフステージと研修」モデルに基づき、国レベルの中堅・教頭・校長研修、都道府県レベルの初任者研修・10年経験者研修等「法定研修」、教職経験に応じた、5年経験者研修・20年経

験者研修等諸々の研修が設定されている。さらに、国は平成22年1月29日の少子化対策会議で「子ども・子育て新システム」の検討を開始しており、「保育士」「幼稚園教諭」の両方の免許・資格の併有をさらに推し進めている。このような状況で、就学前保育・教育専門職者の研修はいかにあるべきか、「子育て支援」に焦点を当てつつ、今後は、新システムと合わせて、本調査で明らかとなったキャリア成長モデルの第1段階から第3段階までに焦点を当て、現場研修の推進体制を構築する必要があるだろう。

#### 参考文献

文部科学省「平成21年度生涯学習施策に関する調査研究～わが国の企業等における中堅人材ニーズに関する調査研究」文部科学省中央教育審議会キャリア教育・職業教育特別部会 平成22年2月23日第20回資料

全国社会福祉協議会・全国保育士会「保育士の研修体系～保育士の階層別に求められる専門性～」平成19年3月

資料. 調査アンケートの様式

平成22年度 島根県立大学地域貢献プロジェクト助成事業「子育て支援専門職ネットワークの構築に向けた領域横断的カンファレンス・プロジェクト」  
平成22年12月5日「子育て支援専門職カンファレンス」参加者アンケート

お問い合わせ先

島根県立大学短期大学部保育学科教授 山下由紀恵(事業代表者) 0852-20-0262  
島根県立大学短期大学部専攻科助産学専攻教授 三島ひとり 0853-20-0243  
島根県立大学短期大学部健康栄養学科教授 名和田清子 0852-20-0233

【調査協力をお願い】

- 1) このアンケートは、「子育て支援」領域における、地域の専門職のキャリア上の研修実態とニーズを調査することを目的としています。
- 2) このアンケートへの回答はカンファレンス参加者の任意によるものであり、調査に参加しなくても何ら不利益とはなりません。
- 3) このアンケートは無記名で回答していただきます。全体的に統計処理しますので、決して個人が特定されたり、個人に迷惑がかかることもありません。
- 4) このアンケートの回答をもって調査への同意を得たこととして、本調査研究に使用させていただきます。
- 5) 調査データは島根県立大学短期大学部の上記事業担当者研究室で厳重に保管し、本事業の目的以外には使用しません。
- 6) 調査の結果は、平成22年度末の事業終了時に大学に対して報告するとともに公表します。調査研究結果の一部については、事業終了後も、関連する学協会等で公表します。
- 7) 本調査に対するご質問等がありましたら、上記問い合わせ先に、いつでもご連絡をいただきますようお願いいたします。

ご回答の上、本日中に、この用紙が入っていた封筒へいれて、受付返却ボックスへご提出ください(無記名)。

- Q1 あなたの持っている免許・資格について、以下の中からあてはまるものに○をつけてください。  
助産師・保健師・看護師・栄養士・管理栄養士・栄養教諭・保育士・幼稚園教諭(2種・1種・専修)  
養護教諭(2種・1種・専修)・特別支援学校教諭(2種・1種・専修)・養護学校教諭(2種・1種・専修)  
盲学校教諭(2種・1種・専修)・聾学校教諭(2種・1種・専修)・小学校教育(2種・1種・専修)  
その他( )
- Q2 あなたの最終学歴に○をつけてください。  
高校・短大・専修学校・4年制大学・修士課程・博士課程・その他( )
- Q3 あなたのもっている免許・資格に関係した職種の経験年数を記入してください。  
例： 職種(保育所保育士) 経験年数( 3年10ヶ月)  
      職種(通園施設保育士) 経験年数( 10年8ヶ月)  
回答： 職種( ) 経験年数( 年 ヶ月)  
      職種( ) 経験年数( 年 ヶ月)  
      職種( ) 経験年数( 年 ヶ月)  
      職種( ) 経験年数( 年 ヶ月)
- Q4 年齢( 歳 )
- Q5 性別(男性・女性)
- Q6 現在の職業 以下の中からあてはまるものに○をつけてください。  
【常勤職】 【非常勤職】 【離退職】  
常勤・非常勤の場合 【助産師・保健師・看護師・栄養士・管理栄養士・栄養教諭・保育士・幼稚園教諭・養護教諭・養護学校教諭・盲学校教諭・聾学校教諭・小学校教育】・その他( )
- Q7 【研修の実態1】専門職キャリアの水準を以下の5段階に設定したとき、現在、あなたの領域の専門職は、どのくらいの頻度でどのような内容の「子育て支援」関連研修に参加していますか？5段階のそれぞれの研修参加状況をお知らせください。  
「子育て支援」関連研修とは、「子育て支援」施策の研修のほか、「産後うつ」「虐待予防」「小児栄養」「食育」「障害児保育」「発達スクリーニング」等の関連領域の研修相談・支援技術の研修を意味しています。また、個人の任意研修を含まず、任務上決められた研修のみで回答してください。
- できるだけ5段階すべてのキャリア段階について、記述式で回答をお願いします。  
ご自分のキャリア段階以外についても、現場の研修状況について、できるだけキャリア段階に分けて回答してください。

キャリア段階	主な職務	1年間の研修回数	その主な内容
5段階: 院長・所長・園長・ 校長など	管理者・責任者・組織全体の代表	約( )回	
4段階: 師長・主任・教頭な ど	現場管理者・現場責任者・現場職 員の代表	約( )回	
3段階: リーダー・シニアス タッフ・専任職など	特定領域の担任・リーダーを割り 当てられた担当責任者 困難事項の対応ができる	約( )回	
2段階: スタッフ	自主的に判断・実行することが求 められ、自立して職務が実施でき る	約( )回	
1段階: 新任スタッフ	上司の助言・指示を受けて、職務 が実施できる	約( )回	

Q8【研修の実態2】あなたは、現在、上記の5段階のどの段階にいますか？（1・2・3・4・5）

Q9【研修の実態3】あなたは、あなたの段階の上記の現在の研修回数について、どのように思っていますか。次の5つの中からあてはまるものに○をつけてください。

- 自分の段階の専門研修の回数としては・・・、
1. 多すぎると思う。負担に感じている。
  2. どちらかといえば多いと思う。やや負担に感じている。
  3. どちらかといえば少ないと思う。やや不足を感じている。
  4. 少なすぎると思う。不足を感じている。
  5. その他(具体的に)

Q10【研修の実態4】あなたは、あなたの段階の上記の現在の研修内容について、どのように思っていますか。次の5つの中からあてはまるものに○をつけてください。

- 自分の段階の専門研修の内容としては・・・、
1. 全く役立っていないと思う。
  2. どちらかといえば役立っていないと思う。
  3. どちらかといえば役立っていると思う。
  4. 大変役立っていると思う。
  5. その他(具体的に)

Q11【研修のニーズ1】「子育て支援」の現場の体制上、あなたの専門領域の研修が、本来あるべき頻度と内容はどのようなものとお考えですか。できるだけ、5段階すべてについて、記述式で回答してください。

キャリア段階	主な職務	1年間の研修回数	その主な内容
5段階: 院長・所長・園長・ 校長など	管理者・責任者・組織全体の代表	約( )回	
4段階: 師長・主任・教頭な ど	現場管理者・現場責任者・現場職 員の代表	約( )回	
3段階: リーダー・シニアス タッフ・専任職など	特定領域の担任・リーダーを割り 当てられた、担当責任者 困難事項の対応ができる	約( )回	
2段階: スタッフ	自主的に判断・実行することが求 められ、自立して職務が実施でき る	約( )回	
1段階: 新任スタッフ	上司の助言・指示を受けて、職務 が実施できる	約( )回	

Q12【研修ニーズ2】上記の5段階のキャリア段階のうちで、鳥根県の「子育て支援」の現状で、最も研修強化が必要なのは、どの段階でしょうか。（1・2・3・4・5）  
その理由を記述式でお知らせください。

Q13【研修ニーズ3】あなたの専門領域で、専門職キャリアのステップアップのために、取得するのが望ましいと思われる免許・資格（国家資格以外も含む）の名称を、教えてください。この回答は「子育て支援」と関係がなくてもかまいません。

ご協力誠に有難うございました。

なお、上記アンケート中のキャリアの5段階については、下記の資料を参考に設定いたしました。

文部科学省「平成21年度生涯学習施策に関する調査研究～わが国の企業等における中堅人材の人材ニーズに関する調査研究」文部科学省中央教育審議会キャリア教育・職業教育特別部会 平成22年2月23日第20回資料  
全国社会福祉協議会・全国保育士会「保育士の研修体系～保育士の階層別に求められる専門性～」平成19年3月

# 1 型糖尿病発症後の病態に必須脂肪酸比率が 与える影響について

籠橋 有紀子<sup>1</sup> 大谷 浩<sup>2</sup>

(1 島根県立大学短期大学部健康栄養学科 2 島根大学医学部解剖学講座)

The dietary ratio of n-6/n-3 essential fatty acid is important for the inhibition of pathogenic progress after the onset of overt diabetes in NOD mice.

Yukiko Kagohashi, Hiroki Otani

キーワード：1 型糖尿病 必須脂肪酸 NODマウス

Key words : Type1 diabetes, Essential fatty acid, NOD mice

## 1. はじめに

ヒト1型糖尿病は、遺伝素因をもつ人に何らかの環境因子が作用して起こる自己免疫疾患である。自己免疫性の炎症により、膵臓ランゲルハンス島(以下、膵島とする)の破壊、すなわち膵島炎が起こり、膵島のインスリン分泌細胞である膵島細胞が全体の10%以下に減少すると発症する<sup>1-3)</sup>。発症初期段階では、インスリンを適切に導入すれば、まだ残存している膵島細胞の機能が一時的に回復し(または膵島破壊の進行が抑制され)、見掛け上、症状が軽快あるいは消失することがある。これがいわゆる「ハネムーン期」であり、「膵島細胞が残存していること」がその前提条件となる<sup>4-6)</sup>。しかし、やがて自己分泌されるインスリンは不足するようになり、再びインスリン注射が必要になる。その後はインスリン注射無しでは生きられない難病であるため<sup>1-3)</sup>、1型糖尿病発症早期における残存した膵島の温存、あるいは合併症の軽減について、近年様々な視点からの知見が報告されている<sup>7)</sup>。

ヒト1型糖尿病モデル動物のNOD (Non-Obese

Diabetes) マウスは、1型糖尿病発症前後の病態がヒトと酷似していることから世界中の医学的基礎研究において用いられている<sup>8)</sup>。NODマウスの糖尿病発症に関与している環境因子には、ウイルス、栄養素を含む化学物質など様々なものが挙げられ、その関与が報告されている<sup>9,10)</sup>。ヒトを対象とした疫学研究のみならず、NODマウスを用いた1型糖尿病予防に有効な栄養素に関する報告は、我々の報告を含めて近年増加しており、ビタミンD、必須脂肪酸などの関与が示唆されている<sup>9,10)</sup>。その一方で、1型糖尿病発症後の病態改善に有効な栄養素についての報告は限られている<sup>11)</sup>。

本研究では、NODマウスの顕性糖尿病の発症予防に有効だと示唆されている食物中の栄養素の一つである必須脂肪酸の影響について着目し、顕性糖尿病発症後に必須脂肪酸比率(n-6/n-3)の異なる食餌を摂取した際に、必須脂肪酸比率の違いが病態に与える影響について検討することを目的とした。

2. 材料と方法

1) 動物

1 型糖尿病モデル動物NODマウス雌 8 ~ 60週齢を使用した。日本クレアより購入後、島根大学医学部および島根県立大学短期大学部実験動物施設の規則に基づき、飼育した。本研究は、島根大学医学部実験動物委員会および島根県立大学短期大学部実験動物委員会の承認を受けた。

2) 食餌摂取と実験デザイン (表 1)

マウス用通常食 (必須脂肪酸比率 (n-6/n-3=6.8:S)、(タンパク質 (23.6%)、炭水化物 (65.0%)、脂肪 (5.3%)、カロリー (3.6 kcal/g)) を参考に (12)、必須脂肪酸比率の異なる特別食 (必須脂肪酸比率 (n-6/n-3=3: L)、タンパク質 (20.3%)、炭水化物 (66%)、脂肪 (5.0%)、カロリー (3.9 kcal/g)) (リサーチダイエツ社製) を作成し、実験に用いた<sup>12)</sup>。

通常食 S にて飼育し、顕性糖尿病発症後、6 日以内に特別食 L に変えた群 (S-L1) と 9 日以降に特別食 L に変えた群 (S-L2)、および発症後も継続して通常食 S にて飼育した群 (S-S) を設定した。顕性糖尿病発症前後の摂食量、飲水量、体重測定は一週間毎に計測した。

表 1 実験デザイン

Before overt diabetes	Overt diabetes	
S	S	S-S
S	L*	S-L1
S	L**	S-L2

S-L1 : 顕性糖尿病発症後 6 日以内に通常食 S(n-6/n-3=6.8) から特別食 L(n-6/n-3=3.0) に変えた (L\*) 群

S-L2 : 顕性糖尿病発症後 9 日以降に通常食 S(n-6/n-3=6.8) から特別食 L(n-6/n-3=3.0) に変えた (L\*\*) 群

3) 膵臓および腎臓切片の観察による病態の検討

S-S群は顕性糖尿病発症後14日、28日に、S-L1群は90日後に安楽死させた後、膵臓および腎臓を採取した。膵臓および腎臓は10%バッファーホルマリン溶液で固定し、パラフィン包埋後5 μmにて組織切片を作成した。膵臓はHE染色を、腎臓はPAS染色を行い、一群につき、3個体の組織を観察した。膵

臓組織は、リンパ球が未浸潤および浸潤した膵島数を計測し、浸潤膵島については浸潤面積の比率により5段階に分けて評価し、統計処理を行い、膵島炎の進行程度を2群間で比較検討した。また、腎臓組織は、糸球体メサンギウム細胞の増殖程度に応じて3段階に分けて評価し、統計処理を行い、糸球体への炎症進行程度を2群間で比較検討した。

4) 顕性糖尿病発症の確認と発症後の病態の検討

生後10週齢より、尿糖検出紙 (プレテスト3a : 和光純薬) を用いて、尿糖値を確認した。尿糖値200 mg/dl以上の個体を顕性糖尿病発症個体とした。一群につき10 - 14個体について、顕性糖尿病発症後のインスリン非投与下における尿糖値を比較検討した。

5) 糖尿病発症後の生存率

インスリン非投与下において顕性糖尿病発症後の生存日数を観察した。なお、一群につき6 - 10個体について観察した。

6) 統計処理

顕性糖尿病発症後の生存率および糖尿病発症後の生存日数については、Kaplan-Meier method (有意水準p<0.05) およびUnpaired Student's t-test (有意水準p<0.05) により比較検討を行った。いずれも統計解析ソフトSPSS15.0を用いた。また、膵臓および腎臓切片の観察による病態の検討については、Ridit analysis (有意水準T > 1.96) により比較検討を行った。

3. 結果

1) 顕性糖尿病発症後の生存日数 (図1A, 1B)

顕性糖尿病発症後インスリン非投与下では、通常食 S 摂取群 (S-S) は、21 - 48日 (平均31.7 ± 9.78日) で死亡した (Fig. 1A)。顕性糖尿病発症後6日以内に通常食 S から特別食 L に変えて摂取させた S-L1群は、有意に生存率日数が延び、短い個体で58日、長い個体で119日を示した (平均81.5 ± 24.3)。また、顕性糖尿病発症後9日以降に通常食 S から特別食 L に変えた S-L2群は、S-S群と変わらず、生存日数は平均27.9 ± 5.17日であった。なお、顕性糖尿病発症時の週齢による結果の偏りはみられなかった。

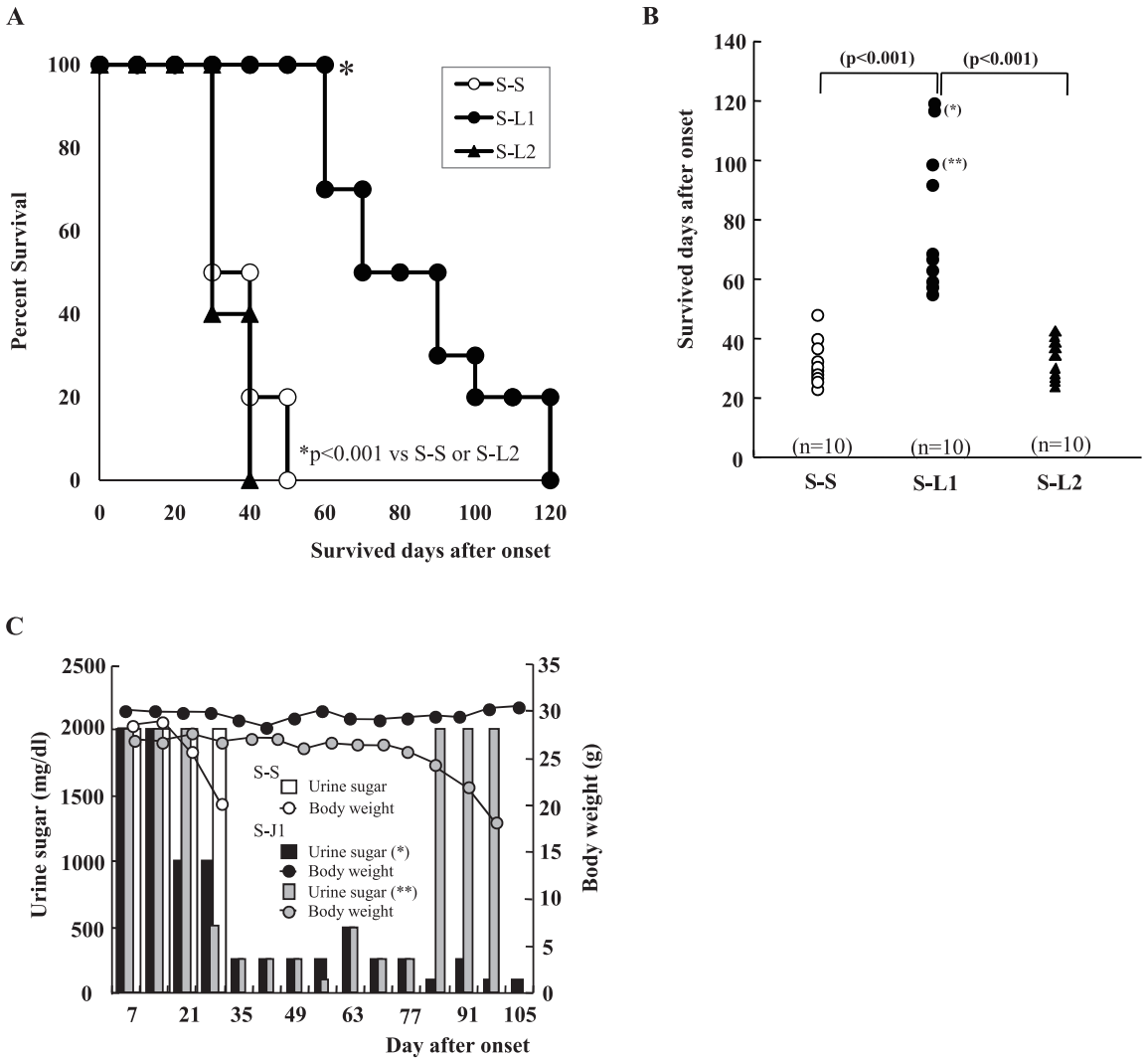


図1. 顕性糖尿病発症後のNODマウスにおける生存率および体重・尿糖の変化

A：顕性糖尿病発症後6日以内に通常食Sから特別食Lに変えた群の生存率は高く推移したが、9日以降に変えた群は、食餌を変更しなかった群と同様に生存率は有意に低かった。統計処理はKaplan-Meier curves および log-rank test を用いた。B：3群の生存日数通常食S (n=6/n=3=6.8) (S-S group, white circle) を継続して摂取した群は顕性糖尿病発症後21 - 48日で死亡した。(mean ± SD, 31.7 ± 9.78 days)。顕性糖尿病発症後6日以内に通常食Sから特別食L (n=6/n=3=3.0) に変えた群 (S-L1 group, black circle) は、生存日数が短い個体で58日、長い個体で119日を示し、S-S群と比較して平均生存日数が延長された。(81.5 ± 24.3 days, p<0.001)。しかしながら、顕性糖尿病発症後9日以降に通常食Sから特別食L (n=6/n=3=3.0) に変えた群 (S-L2 group, black triangle) は、生存日数がS-S群と比較して変わらなかった (27.9 ± 5.17 days)。C：顕性糖尿病発症前後ともに通常食Sを摂取した群は、継続して尿糖値が高く推移し (white column for a representative mouse)、体重も死亡に至るまで急速に減少した (white circle)。顕性糖尿病発症後6日以内に通常食Sから特別食Lに変えた群のなかで、100日以上生存した個体 (indicated by the asterisk (\*) in B) は、体重の減少はみられず (black circle)、また、尿中の糖の濃度も減少した (black column)。顕性糖尿病発症後6日以内に通常食Sから特別食Lに変えた群のなかで、98日生存した個体 (indicated by the asterisk (\*\*) in B) は、顕性糖尿病発症後70日間は、体重減少はみられず (gray circle)、尿糖値は減少したが (gray column) が、その後急激に体重が減少し、尿糖値も上昇し、死亡に至った。

### 2) 顕性糖尿病発症後の体重、摂食量・飲水量、尿糖の変化 (図1C)

顕性糖尿病発症後の摂食量、飲水量はS-S群およびS-L2群においては有意に増加し、S-L1群においては、徐々に通常量に近づいた (data not shown)。S-S群およびS-L2群の体重は有意に減少し、S-L1群の体重はほとんど減少しなかった。S-S群およびS-L2群における尿糖値は、生存期間を通じて2000 mg/dlという高値を示したが、S-L1群は、発症後3週間以降、徐々に尿糖値の有意な低下が認められ、その後の生存期間においても、個体差はみられたが、継続して有意に低い値を保った。

### 3) 糖尿病発症後の膵臓ラ氏島 (図2)

S-S群およびS-L2群は、発症直後においてはわずかに残存細胞が認められたが、発症後14日ではリンパ球浸潤程度が進行し、リンパ球が細胞を覆い尽くす様子が観察され、残存細胞はほとんど見られなくなった。発症後28日においては、外分泌細胞

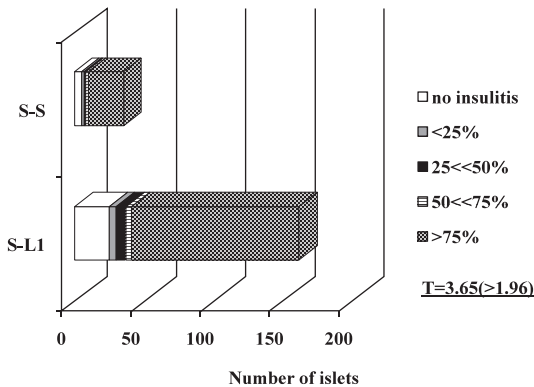


図2. 膵島数および膵島炎の程度

膵島数を計測し、浸潤膵島については浸潤面積の比率により5段階に分けて (no insulinitis, <25%, 25<<50%, 50<<75%, >75%) 評価し、Ridit analysis (有意水準  $T > 1.96$ ) により統計処理を行った。全膵島数は顕性糖尿病発症後14日経過したS-S群と比較して、S-L1群のなかで生存日数が90日を越えた群において有意に増加し、膵島炎の程度はS-L1群において有意に進行が抑制された ( $T = 3.65$ )。S-L1群において、膵管に隣接した小さな膵島の出現が認められた。(novel islets)。S-S群では、小さな膵島の出現が認められず、膵管から離れて存在する膵島のみ観察された (no insulinitis)。

のみが認められた (data not shown)。S-L1群のなかで、生存日数が90日を超えた個体の膵島を観察した結果、膵管と近接して小さな膵島の出現が観察された。発症後90日を超えたS-L1群の膵島炎の程度をリジット解析にて統計処理した結果、発症後14日のS-S群と比較して有意に膵島炎の進行が抑制された ( $T = 3.65 > 1.96$ ) (図2)。

### 4) 糖尿病発症後の腎臓 (図3)

S-S群は、発症後28日の腎臓においてメサンギウム基質の増殖が認められる糸球体が数多く観察された。S-L1群のなかで、生存日数が90日を超えた個体の腎臓糸球体を観察した結果、S-S群と比較して、有意に糸球体への炎症が抑制された ( $T = 2.82 > 1.96$ )。

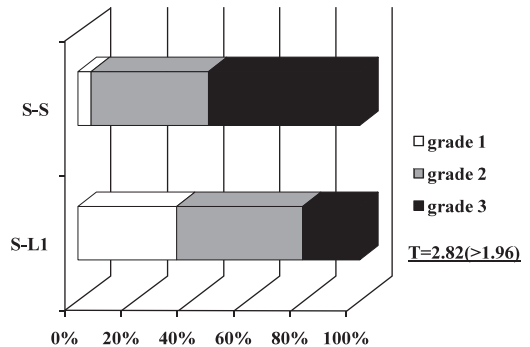


図3. 腎臓糸球体のメサンギウム基質の増殖程度

腎臓糸球体のメサンギウム基質の増殖程度について3段階に分けて (grade 1, grade 2, grade 3) 評価し、Ridit analysis (有意水準  $T > 1.96$ ) により統計処理を行った。S-L1群のなかで生存日数が90日を越えた群の腎臓糸球体は、顕性糖尿病発症後14日経過したS-S群と比較してメサンギウム基質の増殖が抑制された。

### 4. 考察

1型糖尿病発症後のハネムーン期についての報告はあるが<sup>4-6)</sup>、ハネムーン期を含めた段階に応じた栄養素の影響について扱った研究はほとんど無い<sup>1)</sup>。本研究では、1型糖尿病モデル動物NODマウスを用いて、顕性糖尿病発症後の病態に対する栄養成分の中でも特に、摂取する必須脂肪酸比率の役割について治療学的側面から検討を行った。

現在、欧米を中心として摂取する食餌中の必須脂



脂肪酸比率 (n-6/n-3) が上昇し始め、アメリカでは平均12といった高い比率を示している<sup>14-17)</sup>。日本では、現在、推奨比率は設けていないが、魚をよく食べる日本人は2から3の比率を保っている一方で、食生活の欧米化に伴い、若年者層においては8から9へと上昇しつつある<sup>14-17)</sup>。近年のアレルギー、血管系の疾患、自己免疫疾患の増加の一つの要因とする報告もある<sup>17)</sup>。

1型糖尿病の発症は、何らかの環境要因が契機となり、膵臓の膵島に炎症が起こること(膵島炎)から始まるが、膵島炎は1型糖尿病発症のかなり以前から始まり、進行しているとされている<sup>1-3)</sup>。1型糖尿病は、若年性糖尿病ともいわれ、乳幼児から20歳までの間に発症するケースが多い<sup>1-3)</sup>。欧米の大規模疫学調査においても、発症予防における乳幼児期からの栄養摂取の検討は重要であることが示唆されている<sup>18-22)</sup>。その中でも、Norrisらが1型糖尿病の発症リスクが高い小児(平均年齢6.2歳)を対象に行った大規模調査により、小児期に摂取するn-3系多価不飽和脂肪酸の量が多いグループでは、1型糖尿病発症を抑えられる可能性が示唆されている<sup>18)</sup>。我々のNODマウスを用いた研究においては、ライフステージを通じてn-6/n-3が14.5の食餌を摂取させると1型糖尿病発症時期が早まり、最終発症率も抑制されないが、n-6/n-3が3.0の食餌を摂取すると、1型糖尿病発症が著しく抑制されることが示唆されている<sup>10)</sup>。さらに、離乳前の胎児期・新生児期に母獣を介してn-6/n-3が3.0の食餌を摂取させると、離乳後にn-6/n-3が14.5の食餌を摂取しても、1型糖尿病発症が抑制されることが示唆されており、離乳前が重要な時期であることが示唆されている<sup>10)</sup>。本研究において、マウス用通常食で、n-6/n-3が14.5と3.0の間となるn-6/n-3が6.8の食餌を用いて、NODマウスの病態に対する影響について検討した。n-6/n-3が6.8の食餌を摂取させた群の顕性糖尿病の発症時期はn-6/n-3が14.5の食餌を摂取させた群と比較して遅くなる傾向が認められたが、最終発症率は同様の傾向であった(data not shown)。NODマウスの1型糖尿病発症を予防するためには、ライフステージを通じて摂取する食餌中のn-6/n-3は6.8で

も高い可能性が示唆されたため、さらに今後の検討が必要である。

1型糖尿病発症に関わる食餌中の必須脂肪酸比率(n-6/n-3)は、膵島炎の発症前後から顕性糖尿病発症前の病態に対してだけでなく、顕性糖尿病発症後の病態の進行にも、大きく影響を与えている<sup>11)</sup>。1型糖尿病発症を早期に誘導し発症率も高いことが認められているn-6/n-3が14.5の食餌を摂取させたマウスに、顕性糖尿病発症後n-6/n-3が3.0の食餌を摂取させると病態の進行が緩やかになることが示唆されている<sup>11)</sup>。したがって、本研究では、n-6/n-3が6.8の食餌を摂取させた群の顕性糖尿病発症後の病態に対する食餌の影響を検討した。顕性糖尿病発症後に摂取する必須脂肪酸のn-6/n-3を6.8から3に下げると、インスリン非投与下で、尿糖値が下がり、体重の減少が抑えられるなどの全身的な変化が認められた。組織病理学的に詳細を検討した結果、膵島組織に対して膵島炎の進行抑制がみられ、また、膵管に隣接した新規の膵島様の組織を認めた。以上より、顕性糖尿病発症後に摂取する食餌中のn-6/n-3を3程度に下げることにより、膵島炎の進行抑制がみとめられ、尿糖値の低下により、ハネムーン期が延びる可能性が示唆され、生存率が高くなると考えられる。また、本研究では、顕性糖尿病発症後の高血糖による合併症に対する検討も行った。NODマウスの顕性糖尿病発症後は、糖尿病性腎症の指標となるメサンギウム領域の拡大がみられたが、顕性糖尿病発症後に摂取する必須脂肪酸のn-6/n-3を6.8から3に下げると、これらの症状も軽減された。

本研究結果より、ヒト1型糖尿病モデル動物のNODマウスにおいて、顕性糖尿病発症後の病態進行を抑制し、残存した膵島の保持する効果のある必須脂肪酸バランスが存在すると考えられ、ハネムーン期の延長に対して食餌中の必須脂肪酸バランスが関与していることが示唆された。

以上より、ヒト1型糖尿病発症後の病態進行を抑制する要因の一つとして、摂取する必須脂肪酸比率(n-6/n-3)が挙げられ、発症後の治療食を考える上で適切な必須脂肪酸摂取バランスを検討する必要があることが示唆された。

## 5. 謝辞

本稿作成にあたり、お世話になった島根県立大学短期大学部健康栄養学科、ならびに島根大学医学部解剖学講座の皆様にご感謝の意を表す。

本研究の一部は科学研究費補助金 (22791012) および島根県立大学短期大学部学術教育研究特別助成金の補助を受けている。

## 6. 引用文献

1. Eisenbarth GS, Jeffrey J. The natural history of type 1A diabetes. *Arquivos Brasileiros de Endocrinologia e Metabologia* 2002;1(3):146-155.
2. Itoh M. Immunological aspects of diabetes mellitus: prospects for pharmacological modification. *Pharmacol Ther* 2004;4(10):351-406.
3. Dotta F, Eisenbarth GS. Type 1 diabetes mellitus: a predictable autoimmune disease with interindividual variation in the rate of beta cell destruction. *Clin Immunol Immunopathol* 2008;41(1):S85-S95.
4. Williams G. IDDM: long honeymoon, sweet ending. *Lancet*. 1994 Mar 19;343(8899):684-5.
5. Abdullah N, Al-Khalidi O, Brown KJ, Reid J, Cheetham TD. Prolonged honeymoon phase in an adolescent with diabetes and thyrotoxicosis provides support for the accelerator hypothesis. *Pediatr Diabetes*. 2008;9(4 Pt 2):417-9.
6. Aly H, Gottlieb P. The honeymoon phase: intersection of metabolism and immunology. *Curr Opin Endocrinol Diabetes Obes*. 2009 Aug;16(4):286-92.
7. Akirav E, Kushner JA, Herold KC. Beta-cell mass and type 1 diabetes: going, going, gone? *Diabetes* 2008;57(11):2883-2888.
8. Chaparro RJ, Diloranzo TP. An update on the use of NOD mice to study autoimmune (Type1) diabetes. *Expert Rev Clin Immunol*. 2010;6(6):939-55.
9. Kagohashi Y, Abiru N, Kobayashi M, Hashimoto M, Shido O, Otani H. Maternal dietary n-6/n-3 fatty acid ratio affects type 1 diabetes development in the offspring of non-obese diabetic mice. *Congenit Anom*. 2010;50(4):212-20.
10. Takiishi T, Gysemans C, Bouillon R, Mathieu C. Vitamin D and diabetes. *Endocrinol Metab Clin North Am*. 2010;39(2):419-46.
11. Kagohashi Y, Otani H. Diet with a low n-6/n-3 essential fatty acid ratio when started immediately after the onset of overt diabetes prolongs survival of type 1 diabetes model NOD mice. *Congenit Anom*. 2010 Dec;50(4):226-31.
12. The National Academy of Science: Nutrient Requirements of Laboratory Animals. Washington, DC, National Academy Press 1995
13. Sermeus W, Delesie L. Riddit analysis on ordinal data. *West J Nurs Res* 1996;18:351-359.
14. Fritsche K. Fatty acids as modulators of the immune response. *Annu Rev Nutr* 2004;11(1):45-73.
15. Harbige LS. Fatty acids, the immune response, and autoimmunity: a question of n-6 essentiality and the balance between n-6 and n-3. *Lipids* 2001;213(2):323-341.
16. Lands WEM, Hamazaki T, Yamazaki K, Okuyama H, Sakai K, Goto Y, Hubbard VS. Changing dietary patterns. *Am J Clin Nutr* 1990;51:991-993.
17. Okuyama H, Kobayashi T, Watanabe S. Dietary fatty acids - The n-6/n-3 balance and chronic elderly diseases. Excess linoleic acid and relative n-3 deficiency syndrome seen in Japan. *Prog Lipid Res* 1997;35(4):409-457.
18. Norris JM, Yin X, Lamb MM, Barriga K, Seifert J, Hoffman M, Orton HD, Baron AE, Clare-Salzler M, Chase HP, Szabo NJ, Erlich

- H, Eisenbarth GS, Rewers M. Omega-3 polyunsaturated fatty acid intake and islet autoimmunity in children at increased risk for type 1 diabetes. *JAMA* 2007 ;298(12): 1420-8.
19. Lamb MM, Myers MA, Barriga K, Zimmet PZ, Rewers M, Norris JM. Maternal diet during pregnancy and islet autoimmunity in offspring. *Pediatr Diabetes*. 2008;9(2):135-41.
20. Siscovick DS, Raghunathan TE, King I, Weinmann S, Wicklund KG, Albright J, Bovbjerg V, Arbogast P, Smith H, Kushi LH. Dietary intake and cell membrane levels of long-chain n-3 polyunsaturated fatty acids and the risk of primary cardiac arrest. *JAMA*. 1995;274(17):1363-7.
21. Hummel S, Hummel M, Banholzer J, Hanak D, Mollenhauer U, Bonifacio E, Ziegler AG. Development of autoimmunity to transglutaminase C in children of patients with type 1 diabetes: relationship to islet autoantibodies and infant feeding. *Diabetologia*. 2007;50(2):390-4.
22. Stene LC, Ulriksen J, Magnus P, Joner G. Use of cod liver oil during pregnancy associated with lower risk of type 1 diabetes in the offspring. *Diabetologia*. 2000;43:1093-1098.

# 意識と心的機能の関係について

河原修一  
(総合文化学科)

Relation between Consciousness and Mental Function

Shuichi KAWAHARA

キーワード：意識 consciousness 心的機能 mental function  
心的活動 mental activity 心像 mental image  
記憶像 memorial image 心象 mental figure

はじめに

現宇宙の無秩序化への揺らぎから不均衡が生じ、無秩序化エネルギーとは異なるエネルギー（生命エネルギー<sup>注1</sup>）が生じ、粒子の結合体の大きさと相互作用によって、構造と機能に違いが生じる。宇宙と生命は、地球上で、鉱物、植物、動物、人間と重複的、段階的に展開する。

人間の身体を構成する物質体（鉱物体）には、物理的（力学的、電磁氣的）な作用が働き、非意識が対応する。

有機物によって構成される生命体（多細胞体）には、自律神経系（植物的情報ネットワーク）によって不随意的に身体器官（心臓など）と系（血液循環など）を働かせることで、（眠っていても）生命が維持され、（こころの基層をなす）無意識が対応する。生命体には、環境との相互作用がある。刺激（受容）に対する反応（効果）は反射となる。生命の維持と（心的機能としての）気分（意識の状態）の維持とは対応する。

環境の影響から自立する活動体（意識体、情緒体）には、体性神経系（動物的情報ネットワーク）によって随意的に身体器官（感覚器官、四肢

など）と系を働かせることで、意識が対応する。活動体（意識体、情緒体）には、環境からの自立がある。刺激（知覚系による受容）に対する行動（運動系による効果）は中枢神経系と末梢神経の運動による意識的活動となる。外的にあらわされる活動と（心的機能のうちの心的活動としての）知覚、感情とは対応する。

環境に働きかける（環境をつくり変える）精神体には、大脳皮質前頭葉によって神経系を統括することで、創造的意識が対応する。精神体には、環境への働きかけがある。創造的活動と（心的活動のうちの精神的活動としての）思考、表象、意志とは対応する。

一、からだといのちとこころと精神の関係

珈琲カップを床に落とすと、割れて粉々になる。珈琲カップの物質体を構成する物質的な力が加わって、物質体は崩壊する。

人がビルの屋上から転落すると、衝撃力が加わって肉体（物質体）が崩壊し、いのちと意識（こころ、精神）は絶たれて死ぬ。物質体が生命と意

識（心情、精神）を支えている。

水がなくて木が立ち枯れる（枯死する）と、時とともに木は朽ちてゆき、やがて木の形をとどめなくなる。生命体から生命が去る（生命力が失われる）と、木を構成する有機体（物質体）も崩壊する。生命力としての免疫力が有機体の腐敗を防ぐ。生命体が物質体を支えている。

水がなくて人が死ぬと、時とともに人体は朽ちてゆき、やがて人の形をとどめなくなる。生命体から生命が去ると、人体を構成する有機体（物質体）も崩壊する。生命力としての免疫力が有機体の腐敗を防ぐ。生命体が物質体を支えている。

飼っていた犬が老いて（病んで）横たわったまま息絶える（死ぬ）と、動物から意識（知覚や感情）が去り、生命が去る。動物を構成する有機体（物質体）もやがて腐敗し、崩壊する。活動体（意識体、情緒体）が生命体を支え、物質体を支えている。

人が老いて（病んで）横たわったまま息を引き取る（死ぬ）と、人から意識（知覚や感情）が去り、生命が去る。人を構成する有機体（物質体）もやがて腐敗し、崩壊する。活動体（意識体、情緒体）が生命体を支え、物質体を支えている。

人が自らの意志で死ぬ（自殺する）と、人から精神が去り、意識が去り、生命が去る。人を構成する有機体（物質体）もやがて腐敗し、崩壊する。精神体が活動体（意識体、情緒体）を支え、生命体を支え、物質体を支えている。

人間は四重の存在として、一つの場に四つの身体（精神体、情緒体、生命体、物質体）が重なり合い、支え合い、浸透し合っている。<sup>注3</sup>

## 二、物質的、生命的、意識的、精神的な進化

鉱物（石英、水など）が物質的に進化して、環境の変化に応じて（環境との相互作用によって）成長するが、形成力（形象力）はストップして、成長したかたち（形態）を残し、結晶となる。

鉱物の結晶から単細胞の生命体（原生生物）に進化し、環境に対応し

て、代謝し、分裂する。

多細胞の生命体の植物に進化し、情報物質を交換しながら、環境に対応して成長（生長）し、生殖し、枯死する。

多細胞の生命体の動物に進化し、情報伝達物質や情報伝達ホルモン<sup>注4</sup>を内在させながら、環境から自立して成長し、活動し、感情を持ち、生殖し、死ぬ。

上皮細胞の興奮性（被刺激性）と収縮性によるリレー式情報伝達から、上皮細胞の受容細胞と筋細胞への分化による相互連携的な情報伝達に進化する。受容細胞に伝導性があらわれ、伝導性細胞（神経細胞）に分化し、体表面を覆う散在神経系に進化する。神経細胞に求心性と（筋細胞に連絡する）遠心性ができて、受容性ニューロンと運動性ニューロンに分化する。受容性ニューロンから神経細胞間の連絡ニューロンに分化して、中枢（神経節）ができる。神経節は脳に進化し、中枢神経系（自律神経系、脳脊髄神経系）と末梢神経に分化する。栄養分を補給する変形細胞の一部は、大脳髄質を形成する神経膠細胞（グリア細胞）に進化する。

人間は成長し、感情と自意識を持ち、精神（意志、想像力など）によって行動し、環境に働きかけ（環境をつくり変え）、社会を形成し、ことばなどによって情報を相互に伝達し、結婚と育児によって（遺伝と教育、学習によって）身体的、情緒的、知的に資質や情報を伝承し、ことばなどの表象によって文化を継承し、死ぬ。

人間の脳には、進化の痕が示され、内奥ほど始原的であり、表層（皮質）ほど発達の進んだものである。相互に上行性と下行性の神経回路がある。大脳新皮質の後頭部に入力系（後頭葉に視覚野、側頭葉に聴覚野）、頭中央部に処理系（イメージを形成する連合野）、体系的な表象を操作する言語野）、前頭部に出力系（意志、計画、創造に関わる前頭葉）がある。右利きの人では、大脳新皮質左半球が右半球の運動を支配し、論理的な心的活動を担う傾向があり、大脳新皮質右半球が左半球の運動を支配し、情緒的、イメージ的、直観的な心的活動を担う傾向がある。男性脳では、左右半球をつなぐ脳梁（神経線維束）が細く、左右半球の心的活動に関わる機能が分化し、女性脳では、脳梁が太く、左右半球の心的活動に関わる機能が一体的である。

大脳皮質を形成する神経細胞は、様々な形状に分かれるが、言語野を形成する神経細胞は（円錐形の）大錐体細胞である。

人間の体内の情報ネットワークには、脳脊髄神経系だけでなく、自律神経系や体液ホルモン系、免疫系もある。免疫中枢は心臓近傍の胸腺にある。大脳を含む脳の機能についても、局的な面もあれば、一体的（包括的）な面もある。現時点では、脳と心が一對一に対応しているとは言えない。

脳は構造であり、心は機能である。脳は身体器官の中核であるが、精神器官として進化する可能性を持つ。心身の連動は、精神によって統括される。

### 三、こころと意識と心的機能の関係

やまとことば（和語）の「こころ」は、「こる（凝）」「こころ」に場所を示す接尾辞「る」の接続したかたちとされ、心臓という意味となり、（緊張すると心臓がドキドキすることから）様々な想いのかたまる場という意味となり、さらに様々な想いをも意味するようになった。ここでは、こころは、様々な想いのあらわれる場（無意識を含む意識のあらわれる場）という意味で用いる。

こころのはたらき（心的機能）は、こころにあらわれる様々な想い（心的活動）によって示される。

こころという場をつくるエネルギーが（無意識を含む）意識である。

（無意識を含む）意識は、生命エネルギーとしての身体エネルギーから分岐した心的エネルギーのあらわれである。（無意識を含む）意識は、様々な想いのベースとなるスクリーンのようなはたらきをする。（無意識を含む）意識にならない非意識は、物質エネルギーによるあらわれである。気絶、失神、（事故による）昏倒、泥酔、熟睡などの（意識の中断を含む）意識喪失は、無意識にならない生命無意識（身体エネルギー）によって支えられている。睡眠中の夢や白昼夢は無意識による心象である（意識によって夢の心象を知覚する）が、明晰夢は無意識に意識が交じる。（極度の疲

勞による）困憊、ほろ酔い、高熱時の譫言（精神的な病いによる）昏迷（意識障害）、入眠時や目覚めの時の夢つつつ（半覚醒）は、（意識と無意識が混在する）意識の混濁である。潜在する心的エネルギーのあらわれ（相）が無意識であり、顕在する心的エネルギーのあらわれ（相）が意識である。無意識はこころの基層（深層）をなし、意識はこころの表層をなす。

（無意識を含む）意識の状態が気分である。気分は、こころのはたらき（心的機能）である。生命の維持に対応する心身の均衡（バランス）をはかるために、気分は刻々と変化する環境に対応して、できるだけ一定に保たれようとする。気分は（疲労、病気、生理的状況、健康などの）体調に影響され（支えられ）、感覚や感情などの様々な心的活動の総和（積分）にも影響される（フィードバックされる）。

こころにあらわれる様々な感覚、感情などの想いは、こころのはたらき（心的機能）のうちの心的活動または内的体験である。平衡を保つ気分には、環境の変化に応じた感覚の反応に伴って正負の印象（共感、反感）がもたらされ、感情が注意喚起または（接近や忌避、闘争に向かう）動機づけの機能として作用し、気分は変動して再均衡がはかられる。感情によって、思考（環境に対する内的な働きかけ）が促される。

高次の思考は、心的活動のうちの精神活動である。

### 四、外界と内面の相互作用

人間は環境（人間関係を含む）の刺激（波動）を選択的、能動的に知覚（情報化）し、記憶を参照し、表象（形象表象、言語表象など）を活用しながら情報を処理し、環境に対して、内的に働きかけ（思考し）、外的に働きかける（行動する）。行動しながら、または行動の後に、評価し、内省し、自己の思考や行動のあり方を修正する。

ここで、外界と内面の相互作用についてのモデル（仮説）を提示する（「図1」参照）。

外界（環境）の刺激は、同時並列的である。意識（無意識を含む）への



的な負の感情である。つらさやさびしさは、被害や失敗に関わる利己的な負の感情である。喜びは、利益や成功に関わる利己的な正の感情である。(驚きを除き) いずれも無意識的(無自覚的、衝動的)であったり、意識的(自覚的)であったりする。

大脳新皮質後頭部(および大脳辺縁系)には、外界の事物を感受する受容器の感覚(五感)を選択的、能動的に情報化し加工し総合する(知覚する)入力系神経回路の到達点(最先端)がある。新皮質頂葉では触覚、味覚、空間感覚、新皮質側頭葉では聴覚、新皮質後頭葉では色覚、顔認知を含む)視覚(、旧皮質嗅脳では嗅覚)を知覚する。

大脳新皮質頭部には、記憶を参照し、音響、図像などの形象の表象を活用しながら半ば無意識的に思考し、各感覚入力情報を統合して(処理して)認知的イメージまたは概念を形成する連合野があり、言語記憶に蓄えられた言語表象を活用して思考し、認知的イメージまたは概念を言語的概念に変換し配列する(直列化する)言語野がある。反復によって慣れまたは自動化して、無意識的になる。認知または言語行動に支障をきたすとき、意識される。前者は対象意識、後者は対象意識および反省意識(自意識)と関わる。

大脳新皮質前頭部(前頭葉)には、環境(人間関係を含む)に対して、働きかける(思考し、計画し、行動する)出力系神経回路の出発点がある。価値意識を背景に、意志と想像力、直観によって、言語行動を含む行動を内的に組織化する(並列化の可能性を前提に直列化する)。行動しながら、または行動の後に、評価し、内省し、自己の思考や行動のあり方を修正する反省意識(自意識)および創造的意識がある。自他の関係(意味)を問う、ものごとの本質を直観し、表象を用いてかたちに示す。利他的または社会的な感情、さらに精神的な感情(情操)を伴う。

畏れや祈りは、宗教的な感情(情操)である。憤りは、利他的または共体的な負の感情である。悲しみは、利他的または運命的な負の感情である。慶びは、利他的または共体的な正の感情である。楽しみは、利己的または利他的で、精神的な(審美的な)正の感情である。感謝は、社会的な正の感情である。謝罪は、社会的な負の感情である。思いやりは、相手

の負の感情に対する慰めという正の感情である。いずれも想像力に基づく共感が通底する。

強い共感、感動という正の感情となる。強い反感は、怨念という負の感情となる。

脳幹レベルの生理的欲求は、間脳レベルの欲望、大脳辺縁系レベルの願望という心理的欲求、大脳新皮質前頭葉レベルの希望や信念という精神的欲求に展開する。

真実(真理)を探究する学問的、宗教的な信念または信仰は、精神的な正の感情(情操)である。真実や美をかたちに表現する芸術的な希求は、精神的な正の感情(情操)である。真実に基づく善を実践する勇氣や自己犠牲(奉仕)は、利他的かつ精神的な感情(情操)である。

五、心象またはイメージについて

やまとことば(和語)の「かた」は、方向、場所、区分、断片、模様、傾向、輪郭、形態、形式、模像、図像、型、方法、枠、跡などを意味し、漢語の訓読みには、方(かた)、片(かた)、形(かた)、像(かた)、図(かた)、型(かた)などがある。

やまとことば(和語)の「ち」は、勢い、方向づけ(「ちはやぶる」「いのち」「をろち」「こち」「そち」「をち」を意味する)。

あらわれた「かた(片)形、像、図、型」「は「ち(勢い、方向づけ)」が加わって、やまとことば(和語)の「かたち(象)」となる。「かた」は原型であり、「かたち」は具現である。

あらわれたかたち(現象)には、物理現象や生命現象、心理現象などがある。目に見える方向(場)へのあらわれは目に見えるかたちとなり、目に見えない方向(場)へのあらわれは目に見えないかたちとなる。

目に見えるかたち(物象、事象)は、外界にあると感じられるかたち(身体的視覚像など)である。目に見えないものかたちには、外界にはないが内面にあると感じられるかたち(心像など)もある。

「こころ」のなかにあらわれた「かた」(原型)は、賦活され方向づけ



られて「かたち」(心象)となる。

文学作品のなかで用いられる「心象」には、意味や用例に一定の傾向が認められる。また、文芸批評や美術(絵画)批評では、「心象風景」という術語が用いられる。

心象(こころのなかのおもいかたち)の一部として、心像(イメージ)がある。目(肉眼)で見えないが(身体器官としての感覚器官で知覚しないが)、見える(知覚する)かたちである。残像、想起によるイメージ(記憶像)、想像によるイメージ(イメージ的視覚像)、夢のなかの像などがある。比喩的には、目を瞑った後の残像は臉の裏に、イメージは眼前にあらわれるから、心の中の像とは言いにくいところがある。

心像(イメージ)は、一定の平面的な広がりの中に輪郭と明暗と(うっすらとした)色彩を持つ。

様々な文献のなかで、「心像」が定義され、言及されている。

心像(イメージ)は、日中、目を開けているときに、視覚像と二重写しに(だぶつて)あらわれる。(内観すれば)確かにある(実感する)。視覚器官によらない知覚である。目を開けていても瞑っていても、視覚的知覚(視知覚)とは別に独立的に生じる感覚的知覚である。身体的感覚(五感)ではない(身体器官としての感覚器官(感官)によらない)内的(心的)感覚(身体器官ではない内在的な感覚器官)による知覚である。心的欲求(衝動、情動、情緒、情念、情感、欲望、願望)あるいは精神的欲求(希望)に応じてあらわれる。

どこに器官(機能)があるのか。目に見えない器官による。目で見ているのでなく、脳で見ている。

遠くにあるもの(遠くにいる人)が意志に応じて(または無意識に)眼前にあらわれる。任意にイメージできる(呼び出すことができる)。愛着(恋着)するものであることが多い。なんとなく想っていてあらわれることもある。気になるものである。意志に拘らず無意識にイメージがあらわれるときもある(つきまとうときもある)。嫌悪(憎悪)するものであることもある。

快不快(愛憎)などの自己中心的な情緒(情念、情感)を伴う。情緒的

に中立的(ニユートラル)な場合もある。

イメージは縦に平面的に接近して、その輪郭が(視覚的かつ触覚的に)あらわれる。遠近感を失っている。遠近法によらない。どの高さにも移動してあらわれる。重力の法則(物理学的法則)によらない。ほとんど色彩がない。立体感(距離感、奥行感)がない。重量感(重み)がない。

想像してイメージをつくる。無意識という経験の総体からあらわれる。桜の花をイメージすることはできるが、(一般的な)花をイメージしにくい。猫をイメージすることはできるが、(一般的な)獣をイメージしにくい。想像上の獣(妖怪の類)はイメージできる。

薄暗がりのなかの白い猫をイメージする。薄暗がりのなかの黒猫と二つの白く光る眼をイメージする。茶色の猫をイメージする。斑の三毛猫をイメージする。記憶像を借りることになるかもしれない。

気になっている人をイメージする。遠くにいる恋人(初恋の人)をイメージする。(一般的な)人をイメージしにくい。

自分の母親をイメージする。記憶像を呼び起こすことになる。

概念(抽象的なもの)はイメージしにくい。ただし、図形や図像、しるしは、それらの動きも、イメージできる。

山のような三角形とマルをイメージする。マルを回転させながら三角形を上り下る動きをイメージする。

感覚情報のうち七割が視覚情報といわれる。

単にイメージというとき、視覚的イメージ(心の中の絵)をさすことが多い。

六、視覚像、残像、記憶像、イメージ的視覚像、夢のなかの像の関係

身体的視覚像は、視覚的知覚(視知覚)による像である。事物や人の実在感(現実感、存在感)がある。日中、目を開けているときにあらわれる。

外界のものごと(人を含むものやこと)という刺激(波動)が生得的かつ経験的に取捨選択(選別)され情報化される。網膜から視神経、間脳を経由して(色覚中枢、顔細胞などを含む)大脳新皮質視覚野に到り、明暗、

広がり、輪郭、角度、奥行、縦、横幅、かさ、色彩、しるし、模様、背景動き、人の顔などが認知され、連合野で統合され、人間にとってのものごととして認識される。

外界のものごとによる刺激がないときでも、脳の或る部位への電極・薬物による電気的・化学的刺激によって、色彩・形態などの視覚像が生じる。(目でなく)脳で外界のものを視ている。

残像(瞬間的記憶像)は、日中、急に目を瞑ったときに(瞼の裏に)残る像や斑点(丸い斑点など)である。反射光による事物・人は明暗、輪郭、色彩を伴った像となり、発光体(太陽など)は(ポジとネガの反転する)明暗、輪郭(丸い斑点)、色彩(補色)を伴った像となる。

記憶像(長期記憶から想起する心像)は、日中でも暗がりでも夜間でも、目を開けていても瞑っていても、意識的または無意識的であられる。広がり、不明瞭な輪郭、不明瞭な形態(角度)、かすかな色彩、不明瞭な模様、不明瞭な背景、断続的な動きなどがある。(音、声、におい、味、触感などの記憶を含む)エピソード(場面、出来事、人間関係)記憶、情動記憶、自伝的記憶を伴う。空間的に近接するだけでなく、過去から現在へと時間的にも近接する。

イメージ的視覚像(想像による心像)は、日中でも暗がりでも夜間でも、目を開けていても瞑っていても、意識的(意志的)または無意識的に眼前にあらわれる。広がり(横長の楕円形)のなかに、不明瞭な輪郭、不明瞭な形態(角度)、かすかな色彩、不明瞭な模様がある。エピソード(場面、出来事、自分との関係)、情動(情緒、内言(呼び名)などを伴う。遠方のものが眼前にあつて遠近感を失い、平面として部分的にあらわれる。

記憶像とイメージ的視覚像とはしばしば交錯し混濁してあらわれる。記憶像は時間の経過とともに変形してあらわれ、イメージ的視覚像と見極めがつかなくなることもある。たとえばおもかげ(面影)、横顔(プロフィール)、手足の指先、髪、服装・装飾品などのイメージとしてあらわれる。

想像による心象は、日常現実の像から離脱し飛躍して、幻想的にあらわれることもある。

夢のなかの像(心象的な感覚・像の非日常的・超現実的な、独特の脈絡

による動き)は、目を瞑って眠っているときにあらわれる。明晰夢は夢を見ている自覚を伴い、予知夢は予感を伴う。白昼夢は、日中、目を開けているときに(夢を見ている脳波によって)あらわれる。

様々な感覚(視覚像、聴覚像、嗅覚、味覚、体性感覚)のイメージが、夢のなかの内言(自分の声の記憶(音韻)による語り(ナレーション)、自分や他者の声の記憶(音韻)による会話)とともに、独特の脈絡(筋)をつくり、奇想天外な場面と出来事が展開する。非日常的・超現実的でありながら、リアルな視覚像、聴覚像、嗅覚、味覚、体性感覚、場面、出来事、人間関係、情緒、直観があらわれる。

想像による幻想的な心象と夢のなかの心象は、しばしば類似する。

#### 七、心象またはイメージについての仮説

イメージと夢のなかの像の共通性および材料、内言と夢のなかの内言の共通性および材料についての仮説は、次のとおりである。

仮説 覚醒時(目覚めているとき)の意識的なイメージ、無意識的なイメージ、睡眠時(眠っているとき)の無意識的なイメージ(夢のなかのイメージ)は共通していて、同根であるといえるのではないが。

仮説 (吉本隆明(一九七三)はイメージと残像と記憶像を峻別しているが)イメージの材料は、残像の記憶ではないが。

仮説 覚醒時(目覚めているとき)の内言(心のなかのことは)と睡眠時(眠っているとき)の夢のなかの内言とは、共通性がある(同根である)といえるのではないが。

仮説 覚醒時の内言と睡眠時の夢のなかの内言の材料は、自らの音声の記憶としての音韻であり、脈絡(つながり)を支える体系(枠組)は、言語という記号体系ではないが。ただし、夢のなかでは、他者の音声の記憶としての音韻が、他者の言動(発話)の際に用いられる。夢のなかの内言では、文法の脈絡(つながり)は合っているが、意味の脈絡(つながり)が矛盾する(あるいは非現実的である)ことが多い。

仮説 イメージが映像として動き出し、夢となる。想いが内言として、

映像の動きにストーリーあるいは筋(プロット)を作り出す。

仮説 劇場内の薄暗がり、映画という映像と録音を見聞きすることは、心のなかのイメージの動きと、内言によるイメージへのコメントという心的活動と、共通性がある(同根である)のではないか。

仮説 覚醒時の意識的または無意識的なイメージと夢のなかの無意識的なイメージの脈絡(つながり)とは、詩や小説の創作におけるイメージやことばの脈絡(つながり)とも関連するのではないか。

イメージ感覚についての仮説は、次のとおりである。

イメージ感覚は、身体器官(感覚器官)によらない感覚である。

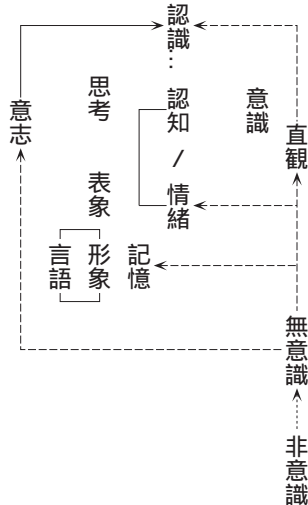
仮説 (空間的、時間的に)遠くにある(いる)物や人を傍にあって(いて)欲しいと求める(負の欲求もある)とき、イメージ感覚(イメージ視覚、イメージ聴覚、イメージ嗅覚、イメージ味覚、イメージ触覚など)が生じる。欲求のレベル(次元)は様々であって、急激な欲求(衝動)もあれば、生理的(身体的)欲求(欲望)、心理的欲求(欲望、願望)、精神的欲求(願望、希望)もある。欲求の中枢(反射的欲求は脊髄、衝動は脳幹(延髄、橋、中脳)、欲望は間脳(視床下部)、願望は大腦辺縁系(間脳、大腦古皮質、大腦旧皮質)、希望は大腦新皮質前頭前葉)に対応する欲求の器官は身体的には(解剖学的には)存在しないが、(脳を含む)神経系の機能として存在する。感覚は感情(情欲、情動、情念、情緒、情感)につながる。欲求は、感覚から感情にまたがるところにある。

仮説 自己中心的な(利己的な)想いがイメージ感覚をもたらすすれば、精神的欲求(希望)は自己中心的ではないので、後者については、機能としてのイメージ器官よりも高い次元の機能としてのいわば精神器官によると考えるべきかもしれない。

八、意識と心的機能と表象について

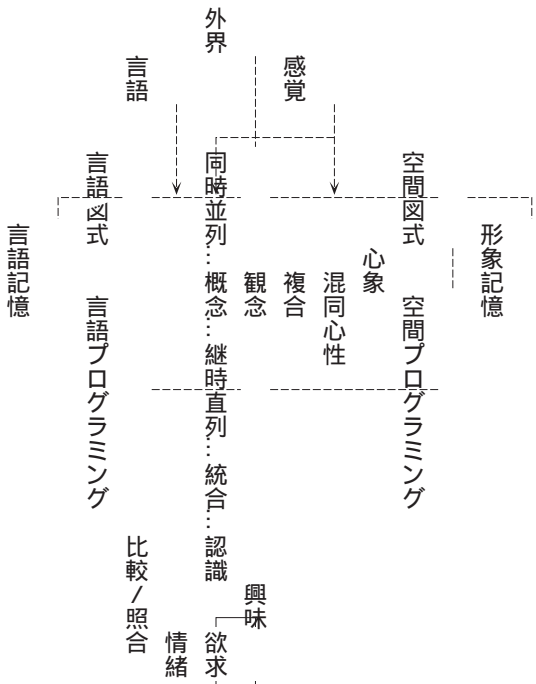
外界と内面のモデル(仮説)における外界(環境)の刺激として、他者による表象(音楽、絵画などの芸術としての形象(音響、図像)表象、言語活動や文学作品としての言語表象)が、ものごと一般の刺激とともに、

同時並列的にある。また、内面における様々な心的活動との相互作用によって、表象(形象表象、言語表象)を生み出す(つくり出す)ことができる。ここで、様々な心的活動と表象の関与による意識から認識への展開について、簡略に図示する(「図2」参照)。



【図2】心的活動と表象の関与による意識から認識への展開

また、外界と内面のモデル(仮説)における同時並列から継時直列、さらに統合に到るプロセスについて、簡略に図示する(「図3」参照)。



【図3】同時並列から継時直列、統合に到るプロセス

九、おわりに

感覚の起源からみて、系統発生的に原初的な本能感覚、イメージ感覚、官能感覚の器官が内在化し、身体感覚(五感)の器官が外在化したと思われる。共感覚、幻想(幻視、幻聴、幻臭)感覚については、宮沢賢治の作品を資料とした言及がある。<sup>(注11)</sup>

聴覚心像、嗅覚心象、味覚心象、体性感覚心象について、心像または心象における時間と空間について、感覚から印象あるいは知覚への展開について、感覚から感情、思考、直観への展開について、感情、思考、直観と心象の関係について、心象と言語表象との関係については、紙幅の都合で、別稿に譲りたい。

注

(注1) エントロピーの増大という無秩序化の動きに対する逆流の動き。

(注2) シュレジンガー(一九四四)参照。

(注3) シュタイナー(一九〇四)参照。

(注4) 脳脊髄神経系を具えた脊椎動物については、神経伝達物質や神経伝達ホルモン。

(注5) 山本健一(一九九六)参照。

(注6) 脳表面にある神経細胞の一種「アストロサイト(星状膠細胞)」に刺激を与えるると新たな神経細胞が生み出される(二〇〇九年九月二五日付け毎日新聞)。

(注7) 坂野登(一九八五)では、心理学者ルリアの説として紹介される。

(注8) 大野晋ほか(一九七四)参照。

(注9) 仏教唯識説では、生命無意識を末那識とし、さらに深層に生死を超えた阿頼耶識があるとす。ユング(一九一六)では、集合的無意識または普遍無意識とする。

(注10) 坂野登(一九八五)では、覚醒時の意識を発達の自発的意識、対象意識、反省意識(自意識)に区分する。

(注11) 河原修一(二〇〇〇)参照。

(注12) 上田敏『海潮音』(一九〇五)では、マラルメの言葉の訳語として、「無意識の精神的幻想」の意味で用いられる。木下李太郎

北原白秋『邪宗門』(一九〇九)評では作者の意に合うという条件で「自ら真に感じた官能の根柢にある幻覚」の意味で用いられる。タゴール詩集『ギタンチャリ』序文(増野三良訳(一九一五)東雲堂)では、訳語として「神への信仰」の意味で用いられる。

西条八十『砂金』(一九一九)自序では、「ひらめき行き来するもの、風のように過ぎて捉えがたいもの」の意味で用いられる。宮沢賢治の作品では、頻出する。「心象スケッチ 春と修羅」(一九二四)では、序、「春と修羅」「オホーツク挽歌」「一本木野」「津軽海峡」「高原の空線もなだらかに暗く」で用いられる。「冬」のスケッチ「六や」注文の多い料理店「自筆広告文でも用いられる。心象は「かげとひかり」「はひいろはがね」「青ざめて」「眩ゆい緑金」「青い起伏」「しづかな磁製の感じ」「燐光盤」として示される。明暗、色彩、鉱物的質感、高低感、清い感じ、霊的残光、円盤の広がりなどを伴う。原子朗『新宮澤賢治語彙辞典』(一九九九)東京書籍では、宮沢賢治のいう「心象」は心の中で起こる現象という意味での「こころの風物」(「春と修羅」序)であり、心象の普遍を信じ、「ある程度までみんなに共通」することを信じ、かつ希求しているとする。中原中也の詩「心象」詩集『山羊の歌』(一九三四)では、「ひらめき行き来するもの、風のように過ぎて捉えがたいもの」が示され、時空や生死を超えて「白き天使」を希求している。

(注13) 吉本隆明『心的現象論序説』(一九六五、六九)吉本隆明全著作集10(一九七三)勁草書房(208-321)では、以下のとおりである。

最も印象深い場面を拵んで有意味的にならわれる。現在の心像にやってくるので、過去の記憶像が現在に再生するわけではない。想像する人の意志によってあらわれる。対象が眼の前にないのに対象を思念する。不鮮明な像であるが、総合的な概念把握ができ

る。概念が構成する心的世界を背景に、対象の本性を引き寄せる。概念(ことば)とイメージは相補的にみえるが、重なり合うところもある。

ギブソン『生態学的視覚論』(一九七九)古崎敬ほか訳(一九八五)サイエンス社(p271-272)では、以下のとおりである。

知覚表象から漸次的段階によって変化しうるものではない。知覚表象と同一ではない。注視しても明瞭にならない。像を点の集合に変換できない。実験的研究によれば、像の広がりには横長の楕円形である。

守一雄『認知心理学』現代心理学入門1(一九九五)岩波書店では、以下のとおりである(心的表象についての言及もある)。

心的表象は、あるものについて考えたり思い浮かべたりしているときの頭の中の表象で、頭の中のことばと頭の中の絵がある(p3)。

心的イメージは、感覚ごとのイメージ(視覚イメージ、聴覚イメージ、嗅覚イメージ、味覚イメージ)のうちの視覚イメージで、心の中の絵のようなものである。イメージを心の中で回転させることができる。(目からでなく)記憶から情報が送られて作られた像である(p66-83)。

(注14) 作業記憶 (working memory)。

(注15) 村上春樹『ノルウェイの森』(一九九二)講談社文庫(上)(80-83)では、視覚像、思考、記憶のなかの心象風景、記憶のなかの人のイメージ、想像による幻想的な心象が表現されている。

(注16) 大林宣彦(一九九六)『4/9秒の言葉』創拓社では、以下のよ  
うな記述がある。

映画のスクリーンに「映像」が投影されている時間が、「5/9秒」。スクリーンがシャッターで閉ざされて「暗闇」になっている時間が「4/9秒」。(p38)

映画館で観客は映像と残像を視ていて、イメージがつながる。

(注17) 文法の脈絡は脳新皮質言語野で、意味の脈絡は脳新皮質連合

野(イメージ野)で形成されると考えられる。

(注18) 坂野登(一九八五)『ヴィゴツキー』(一九七四訳)参照。

(注19) 宇佐美圭司(一九九三)『心象芸術論』新曜社(p46-48)、板谷栄

城(二〇〇〇)『宮沢賢治 美しい幻想感覚の世界』でくのぼ  
出版(p14)参照。

#### 参考文献

- 1 シュレジンガー(一九四四)『生命とは何か』岡小天ほか訳(二〇〇八)岩波文庫
- 2 シュタイナー(一九〇四)『テオゾフィー 神智学』松浦賢訳(二〇〇〇)柏書房
- 3 山本健一(一九九六)『脳とこころ』講談社
- 4 坂野登(一九八五)『意識とはなにか』青木書店
- 5 大野晋ほか(一九七四)『岩波古語辞典補訂版』
- 6 太田久紀(一九八三)『仏教の深層心理』有斐閣
- 7 ユング(一九一六)『無意識の心理』高橋義孝訳(一九七七)人文書院
- 8 河原修一(二〇〇〇)『日本語心象表現論』おつふう
- 9 吉本隆明(一九六五、六九)『心的現象論序説』吉本隆明全著作集10(一九七三)勁草書房
- 10 ギブソン(一九七九)『生態学的視覚論』古崎敬ほか訳(一九八五)サイエンス社
- 11 守一雄(一九九五)『認知心理学』現代心理学入門1岩波書店
- 12 大林宣彦(一九九六)『4/9秒の言葉』創拓社
- 13 ヴィゴツキー『思考と言語』柴田義松訳(一九七四)明治図書
- 14 宇佐美圭司(一九九三)『心象芸術論』新曜社
- 15 板谷栄城(二〇〇〇)『宮沢賢治 美しい幻想感覚の世界』でくのぼ  
出版

---

2012年3月1日印刷  
2012年3月31日発行

島根県立大学短期大学部  
松江キャンパス研究紀要

第50号

発行所 島根県立大学短期大学部  
松江キャンパス  
(編集 メディア・図書館委員会)  
〒690-0044 松江市浜乃木7丁目24番2号

印刷所 有限会社松陽印刷所  
〒690-0826 松江市学園南2丁目3番11号

---